

四條ニ於テ夫々説明シタルトコロト同一ナルヲ以テ之ヲ省略ス。

司  
法  
省

日本標準規格B列五號

IMT 661

143

15

第九條

本條ハ大体现行治安維持法第五條中ノ國體護革ノ目的ニ出デタル部分ヲ抽出規定シタルモノニシテ其ノ私有財産制度否認ノ目的ニ出デタル部分ハ第十三條ニ分割規定シタリ。現行法ト異ル點次ノ如シ

(一)改正案第一條乃至第八條ノ中第二條乃至第四條、第五條後段、第七條及第八條ハ新規定ナルヲ以テ此ノ限りニ於テ本條ノ適用範圍ガ擴張セラレタルコト

(二)刑ヲ懲役ニ限り禁錮ヲ除外スルト共ニ刑期ヲ高メタルコト  
一、解釋上問題トナルハ本條ノ行爲ト第一條乃至第五條、第七條第八條ノ目的遂行々爲トノ關係ナルモ、本條ノ行爲ガ右各本條ノ目的遂行々爲ニ該當スル限り夫々該各本條ノ目的遂行罪トシテ處断スベク別ニ本條ノ罪ヲ構成セザルモノト解スベシ。

然レドモ第一條乃至第三條又ハ第七條ノ結社ヲ組織セシメ又ハ  
第四條及第八條ノ集團ヲ結成セシムルガ爲金品其ノ他ノ財産上  
ノ利益ヲ供與スル等ノ行爲ヲ爲シタル場合及所定ノ目的以外ノ  
目的例ヘバ株式ニ依ル機構ノ目的ヲ以テ本條所定ノ行爲ヲ爲シ  
タル場合ニ於テ本條ノ罪ヲ構成スルコト勿論ナリ。  
二、本條ノ刑ヲ懲役ニ限リタルハ罪質上當然ニシテ刑期ヲ高メタ  
ルハ上叙ノ刑罰重化方針ニ基ク。

#### 第十條

本條ハ私有財産制度否認ヲ目的トスル結社ニ關スル規定ニシテ現  
行治安維持法第一條第二項ニ同ジ。

但シ本條ガ現行治安維持法第一條第二項ト異ナルハ「情ヲ知りテ」  
ノ文字ヲ加ヘタル點ナルモ、同條同項ハ其ノ第一項ニ「情ヲ知り  
テ結社ニ加入シタル者」云々ト規定スルヲ以テ更ニ同一ノ文字ヲ

反覆スルヲ避ケテ之ヲ省略シタルニ因ルモノニシテ、本案ノ如ク  
國體變革ヲ目的トスル結社ニ關スル規定（第一條）ト私有財産制  
度否認ヲ目的トスル結社ニ關スル規定（本條）トヲ別條ニ規定セ  
ントスル限リ本條ニ「情ヲ知リテ」ノ文字ヲ加フルハ當然ニシテ、  
趣旨ニ於テハ現行治安維持法ト全ク同一ナリ。

一、本條ニ所謂否認トハ私有財産制度ト相容レザル制度ノ實現ヲ  
圖ルコトヲ謂フ。故ニ一切ノ財産私有ヲ許サザル制度ノ實現ヲ  
圖ル場合ハ勿論、假令一切ノ財産私有ヲ否認スルニ非ズトスル  
モ凡ユル生産機關ヲ社會公有ニ移シ共產制度ヲ實現セントスル  
ガ如キ現在ノ私有財産制度ヲ根本的ニ破壞スルコトヲ目的トス  
ル場合モ亦本條ノ所謂否認ニ該當ス（昭和四年四月三十日刑事  
部第一四一號判決）

然レドモ例ヘバ公用徵收若ハ資本課税ニ依ル財産分配ノ衡平ヲ

主張スルガ如キ、或ハ又普通唱ヘラルル土地國有論若ハ鐵道船  
舶國有論ノ如キ、孰レモ現在ノ私有財産制度ヲ是認シタル基礎  
ニ立ツ政策上ノ一立論ニ過ギザル限リ本條ニ所謂私有財産制度  
ノ否認ニ非ズ。

但シ、等シク土地國有論ト謂フモ其ノ意私有財産制度ト相容レ  
ザル制度ヲ實現セントスル行爲ノ一顯現又ハ一階梯トシテ認ム  
ベキ<sup>モ</sup>ナルトキハ、本條ニ所謂私有財産制度ヲ否認スルコト  
ヲ目的トスルモノト云ハザルベカラズ。

二、本案ガ現行治安維持法ノ規定其ノ儘ヲ踏襲シタルハ、前ニモ  
述ブルガ如ク私有財産制度ニ關シテハ制度ノ進化ニ對スル觀念  
ヲ考慮シタルニ因ルモノニシテ、團體ト私有財産制度トハ觀念  
上不可分ノモノニアラザルノミナラズ、本法ニ依ル取締ノ主要  
ナル對象ヲ爲ス共產主義運動ノ實際ニ於テモ亦然リトノ基礎ノ  
上ニ立ツ。

日本標準規格B4號

蓋シ所謂共產主義運動本來ノ目的ハ私有財産制度ノ否認ニ在ル  
ニモ拘ラズ國際共產黨ノ戰略理論ニ支配セラレタル爲同時ニ又  
國體變革ヲモ目的トシ兩者ハ實際上不可分の關係ニ於テ結合セ  
ラレ私有財産制度否認ニ關スル規定ヲ單獨ニ適用スルノ餘地殆  
ド之レナカリシモ、國際共產黨の理論ハ必ズシモ共產主義運動  
理論ノ全部ナリト爲スコトヲ得ズ。殊ニ最近ニ於ケル我國内外  
ノ情勢ハ一部共產主義運動者ニ深キ反省ヲ與ヘテ從來抱懷シタ  
ル國際共產黨の理論ヲ清算セシメ國體變革ノ目的ヲ拋棄スルニ  
至ラシメタルヲ以テ、將來ニ於テハ私有財産制度ノ否認ノミチ  
目的トスル結社運動モ亦可能ナルニ因ル。

三、私有財産制度否認ニ關スル規定ヲ國體變革ヲ關スル規定ヨリ  
分離シテ別個獨立ノ規定トシテ統一シタルニ付テハ、其ノ爲却  
テ本法ガ現行治安維持法ニ比シ現ニ批判ノ對象トナリツツアル  
私有財産制度ノ擁護ニ重點ヲ置キタルガ如キ外観ヲ呈ストノ非

難豫想セラル。

然レドモ前ニモ述ベタル如ク私有財産制度否認ニ關スル規定ヲ別個獨立ノモノタラシメタルハ國體ニ對スル國民の道德觀念ノ純粹性ヲ保持セントシタル當然ノ歸結ニシテ、上叙ノ非難ハ國ヨリ當ラザルモノトス。

四、右ノ非難ト關聯シテ豫想セラルル非難ハ私有財産制度否認ニ關スル本條ノ刑罰ガ重キニ過グトノ意見ナリ。然レドモ私有財産制度否認ヲ目的トスル結社中ニハ其ノ實現ノ爲暴力手段ニ訴フルコトヲ目的トスルモノアリ得ベキノミナラズ、社會事情ノ推移ノ如何ニ依リテハ何時暴動化スルヤモ計リ難キ危險性アルモノナルヲ以テ刑罰加重ノ非難モ亦當ラズ。

五、或ハ右ト反對ニ本案ガ私有財産制度否認ニ關スル規定ヲ別個獨立ノモノト爲スノ結果、共產主義運動ヲシテ専ラ私有財産制度否認ヲ目的トスル結社行動ニ赴カシムルノ虞アルノミナラズ、

眞實ハ同時ニ國體變革ノ目的ヲ有スルニ拘ラズ表面ハ私有財産制度ノ否認ノミチ目的トスルモノナルガ如キ假面ヲ被ラシムルニ至ル危險アルコトヲ理由トシ本條ノ刑罰ヲ以テ輕キニ失スト爲ス非難アリ得ベシ。然レドモ現在ニ於テハ右ノ如キ虞アリト認メ難キノミナラズ、私有財産制度ガ批判ノ對象トナリツツアル今日ノ如キ場合ニ於テ、現行治安維持法以上ニ刑罰ヲ重化スルノ必要ナカルベシ。

#### 第十一條

本條ハ現行治安維持法第二條、第三條所定ノ實行ノ協議又ハ煽動中私有財産制度否認ノ目的ヲ以テ爲サレタルモノノミチ抽出シテ別ニ規定シタルニ止マル。

#### 第十二條

本條ハ現行治安維持法第四條中ノ私有財産制度否認ノ目的ニ



出デタル部分ヲ抽出規定シタルモノニシテ其ノ國體變革ノ目的  
ニ出デタル部分ニ付テハ第四條ニ分割規定シタルコト前ニ述ベ  
タルトコロナリ。

日本標準規格B4號

### 第十三條

本條は現行治安維持法第五條中の私有財産制度否認の目的に出でたる部分を抽出規定したるものにして、其の団体變革等目的に出でたる部分に付ては第九條に分割規定したること前に述べたるところなり

### 第十四條

本條は団體を變革することを目的とする結社、其の結社を支援することを目的とする結社、第一條の結社の組織を準備することを目的とする結社、団體の變革を目的として結成せられたる集團、団體否定等事項を流布することを目的とする結社、同様の目的を以て結成せられたる集團及私有財産制度否認を目的とする結社に関する犯罪に付ては其の未遂罪をも處罰する旨を規定したるものにして、団體を變革することを目的とする結社及私

有財産制度を否認することを目的とする結社に関する犯罪に付ては、現行治安維持法第一條第三項に於て既に其の未遂を罰すべき旨規定するところを以て、本條に於て未遂犯を新に罰すべきものと爲したるは其の餘りの結社又は集團に関する犯罪に付ての部分のみなり。而して此等新たに未遂罪を罰すべきものと爲したる部分は雖れも本改正案に於て新設したる規定に関するものにして、不過目的を以て結合せられたる團體に関するものに係り、其の未遂罪を處罰する必要性に於て現行法に於て其の未遂罪を處罰する場合と其の犯情軒<sup>輕</sup>なきものと認めらるるに因る。

第十五條

本條は自首に因る刑の減輕に関する刑法總則の特別規定にして、現行治安維持法第六條に同じ。即ち刑法第四十二條に於ては自首者に對しては其の刑を減輕することを得るものと爲すに止ま

るも、本條に於ては常に必ず減輕又は免除すべきものと爲し、以て治安の紊亂を未遂に防止し、且犯罪に對する悔悟者に對して十分に寛恕の途を開きたるものなり。

試みに本條と同様なる政策的考慮に出でたる特別規定を擧ぐれば次の如し。

刑法第八十條、

内亂の豫備、陰謀又は幫助の罪を犯したる者未だ暴動に至らざる前自首したるときは其の刑を免除す

刑法第九十三條、

外國に對し私に取調の豫備又は陰謀を爲したる者自首したるときは其の刑を免除す

爆發物取締規則第十一條

爆發物使用罪ノ豫備又は陰謀を爲したる者未だ其の事を行は

ざる前に自首したるときは其の刑を免除す

第十六條

本條は本法の人及場所に関する效力を規定したるものにして現行治安維持法第七條に同じ。

一 本法は日本人たると外國人たると又無国籍人たるとを問はず  
本法を違反する者に之を適用す。

二 本法は内地及其他の帝國領土及附屬地（租借地、委任統治  
一 並外國に於て本法の罪を犯したる者に之を適用す。

本條に所謂本法施行區域外とは我帝國本土（内地）外を謂ひ  
内地と法域を異にする朝鮮、臺灣等の犯罪に對しても本法を  
適用することを明かにしたるものにして、他の法規例へば刑  
法第二條乃至第四條の用例たる「帝國外」と爲すべきは朝鮮  
臺灣等は帝國外と云ふを得ずとの疑あり、從て此等の法域を  
異にする地域に於て爲されたる犯罪に對しては或は本法を適

日本標準規格B4號

用し難しとの見解なきを保し難きを以て此の疑を明瞭ならしめたるものなり。

内地に於て本法の罪を犯したる者は朝鮮其の他の地域に於て之を處罰することを得べく（共通法第十三條）此の場合には本法に依て處断す。（同法第十四條）

本法は現行治安維持法の改正法律なるを以て本法施行の上は大正十四年五月八日勅令第七十五號（治安維持法を朝鮮、臺灣及樺太に施行するの件）及大正十四年五月八日勅令第七十六號（關東州及南洋羣島に於ては治安維持法に關し治安維持法に依るの件）に依り朝鮮其の他の地域に於て本法の罪を犯したる者を其の地域に於て處罰することを得べく別に施行勅令を要せず、而して内地、樺太を除く他の地域相互の間に於ては共通法に依り互に處罰し得ること亦言を俟たず。

收

治安維持法現行法及改正案刑罰比較表  
第一、團體變更等二箇スル罪

事項	比較	現行法	第六五、及六七條會改正案	今次改正案
1 團體變更結社ノ組織者 役員其ノ他ノ指導者	1 團體變更結社ノ加入 者目的遂行行為者	一、一、前段 死刑、無期、 五年以上ノ懲役 二、後段	三、前段 死刑、無期、 七年 以上ノ懲役	一、前段 死刑、無期、七 年以上ノ懲役
2 支體結社ノ組織者 役員其ノ他ノ指導者	2 支體結社ノ加入 者目的遂行行為者	一、一、前段 二年以上ノ懲役 二、後段	四、前段 五年以上ノ懲役	二、前段 死刑、無期、五 年以上ノ懲役

司  
去  
省

8	7	6	5	4	事 項 比 較
団体変更集団ノ開具 者目的遂行行為者	団体変更集団ノ結 成者指導者	準備結社ノ加入者 目的遂行行為者	準備結社ノ組織者 役員其ノ他ノ指導者	支體結社ノ加入者 目的遂行行為者	現行法
				一條一項後段 二年以上ノ懲 役禁錮	第六五、及六七國會改正案
				四條 後段 二年以上ノ懲役	今次改正案、
四條 二項 一年以上ノ懲役	四條 一項 無期、三年以上 ノ懲役	三條 後段 二年以上ノ懲役	三條 前段 死刑、無期、五 年以上ノ懲役	二條 後段 二年以上ノ懲役	

日本標準規格B型四番



14	13	12	11	10	9
団体指定事項宣傳 社ノ組織者役員其ノ 他ノ指導者	団体變革ノ目的ヲ以 テスル犯罪活動	団体變革ノ目的ヲ以 テスル目的進行行為 者	団体變革ノ目的ヲ以 テスル宣傳者	団体變革ノ目的ヲ以 テスル活動者	団体變革ノ目的ヲ以 テスル活動
	四條以下ノ懲 役禁錮			三條以下ノ懲 役禁錮	二條以下ノ懲 役禁錮
	六條 一年以上十年以下ノ懲役		五條 二項 六年以上五年以下ノ懲役	五條一項後段 一年以上七年以下ノ懲役	五條一項前段 一年以上七年以下ノ懲役
七條 前段 無期、四年以上 ノ懲役	六條 一年以上ノ懲役	五條 一年以上十年以 下ノ懲役	五條 一年以上十年以 下ノ懲役	五條 一年以上十年以 下ノ懲役	五條 一年以上十年以 下ノ懲役

20	19	18	17	16	15	事項比較
章程訂定事項宣佈條 目ノ始成者指條者	章程訂定事項宣佈條 目ノ加入者目的進行 行爲者	章程訂定事項宣佈條 目ノ始成者指條者	章程訂定事項宣佈條 目ノ加入者目的進行 行爲者	章程訂定事項宣佈條 目ノ加入者目的進行 行爲者	章程訂定事項宣佈條 目ノ加入者目的進行 行爲者	事項比較
						現行法
						第六五、六六七條會改正案
八條、一、三、以上 ノ期、三年以上 ノ期、三年以上	八條、二、項 一年以上ノ期、 一年以上ノ期、	八條、一、項 以上、三年以上 ノ期、三年以上	七條、後段 一年以上ノ期、	七條、前段 無期、四年以上 ノ期、四年以上	七條、後段 一年以上ノ期、	今次改正案

日本標準規格B型四番

25 私有財産否認ノ目的ヲ以テスル偽造者	24 私有財産結社ノ加入者目的遂行行為者	23 私有財産否認結社ノ組織者	第二、私有財産否認ニ關スル罪	22 以上ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トスル便宜供與者其ノ享受者	21 重要買渡事項宣傳集團ノ關係者目的遂行行為者
二條以下ノ懲役兼罰金	一條以下ノ懲役兼罰金	一條以下ノ懲役兼罰金		五年以下ノ懲役兼罰金	
九年以下ノ懲役兼罰金	八年以下ノ懲役兼罰金	八條以下ノ懲役兼罰金		七年以下ノ懲役	
十一條以下ノ懲役兼罰金	十條以下ノ懲役兼罰金	十條以下ノ懲役兼罰金		九年以下ノ懲役	八條二項一年以上ノ懲役

司  
去  
省

事 項 比 較	現 行 法 第 六 五 及 六 七 條 會 議 改 正 案	今 次 改 正 案
26 私 有 財 産 否 認 ノ 目 的 ヲ 以 テ ス ル 動 者	三 年 以 下 ノ 懲 役 禁 錮	十 一 條 七 年 以 下 ノ 懲 役 禁 錮
27 私 有 財 産 否 認 ノ 目 的 ヲ 以 テ ス ル 犯 罪 動 者	四 年 以 下 ノ 懲 役 禁 錮	十 二 條 十 年 以 下 ノ 懲 役 禁 錮
28 以 上 ノ 罪 ヲ 犯 サ シ ム ル コ ト ヲ 目 的 ト ス ル 便 宜 供 與 者 其 ノ 享 受 者	五 年 以 下 ノ 懲 役 禁 錮	十 三 條 五 年 以 下 ノ 懲 役 禁 錮

日本標準規格B型四番

犯罪

- 一、第一條後段ノ目的遂行行爲ハ目的ニ對シ直接主要ナルモノヲ意味シ第二條後段第四條後段第五條及第六條ヲ含マズ
- 二、第二條前段及第四條前段ハ第一條後段ノ目的遂行行爲ニ對シ特別加重犯ノ關係ニ立チ第二條後段及第四條後段ノ目的遂行行爲ハ第一條後段ノ目的遂行行爲ニ含マレズ
- 三、第五條及第六條中第二條ノ目的ヲ以テ爲ス個人行爲ハ主觀的ニ第一條結社ヲ支援スルノ目的ヲ以テ爲サレ然モ客觀的ニハ第一條結社ト組織的連絡關係ナキ行爲ヲ意味シ第一條後段ノ目的遂行行爲ニ含マレズ
- 四、第一條ノ結社ト豫備的關係ニ立ツ第三條ノ結社及第四條ノ中第三條ノ目的ヲ以テ結成セラレタル集團ノ刑ガ第一條ノ未遂罪ヨリ重キハ準備結社及準備集團ハ豫備的行爲ヲ組織的集團的ニ爲

刑法

スモノニシテ行爲ノ危険性第一條ノ個別的未遂行爲ヨリ大ナリ  
ト認メタルニ因ル

日本標準規格B型四番

昭和十年三月

# 思想研究資料

第四十八輯

注意取扱

No. 0742

司法部刑事局

IMT 651

165

昭和十年三月

## 治安維持法違反被告事件判例集

刑事局思想部

IMT 651

166

はしごき

- 一、本輯は、大正十四年四月二十二日法律第四十六號舊治安維持法施行後昭和九年末に至る治安維持法違反被告事件に關する大審院判例を収録したるものなり。
- 一、判例の分類に當りては判示事項に依り之を條文順に且判決年度に従て配列せり。
- 一、索引に便ならしめむが爲め別に判決年次別目次を附す。

昭和十年三月

刑事局思想部

はしごき



判示事項別目次

五 日 第一條

一、國體ノ意義及國體ノ變革ニ關スルモノ……………

四 (一) 治安維持法ニ所謂國體ノ意義…………… (昭和四年(九)第三八九號 棄却)……………一

(二) 「調書ノ謄本ノ證明力」——我カ國體——君主制ノ廢止ト國體ノ變革…………… (昭和六年(九)第三〇五號 棄却)……………一九

(三) 治安維持法第一條國體變革ノ目的ノ範圍…………… (昭和九年(九)第一一二號 棄却)……………三三

二、「私有財産制度否認ノ意義」ニ關スルモノ…………… 完

(一) 大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條第一項ト私有財産制度ノ否認——私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル結社…………… (昭和四年(九)第一一一號 棄却)……………三九

(二) 一切ノ財産私有ヲ否認スルニ非サル場合ト治安維持法第一條第二項ノ適用…………… (昭和七年(九)第七〇六號 棄却)……………五三

(三) 私有財産制度ノ要素ヲ破壊スル場合ト大正十四年法律第四十六號第一條第一項ノ適用……………(昭和九年(レ)第一二二二號 棄却)……………三

三、「結社ノ意義」ニ關スルモノ……………七

(一) 國體ノ變革私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル結社——「上告審ニ於ケル未決勾留日數ノ算入」……………(昭和六年(レ)第一七八五號 棄却)……………七

(二) 日本共產青年同盟ノ目的——「結社ノ擴大強化ヲ圖ル行爲ト結社ノ目的遂行」……………(昭和七年(レ)第一二八九號 棄却)……………一〇二

(三) 結社ノ範圍——「豫審終結決定ト上告論旨」……………(昭和八年(レ)第一五二五號 棄却)……………一二二

四、「結社加入ノ意義」ニ關スルモノ……………三

(一) 治安維持法第一條ニ所謂加入ノ意義……………(昭和九年(レ)第一二二二號 棄却)……………三

五、「目的遂行ノ爲ニスル行爲ノ意義」ニ關スルモノ……………二九

(一) 治安維持法第一條ニ所謂結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ト結社トノ關係……………(昭和五年(レ)第一四六五號 棄却)……………二九

(二) 結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲……………(昭和六年(レ)第一四四五號 棄却)……………一四

(三) 日本共產黨ノ目的ヲ宣傳スル雜誌ノ讀者ヲ増加セシムル行爲ト治安維持法第一條第一項第二項各後段……………(昭和六年(レ)第一七九二號 棄却)……………一四七

(四) 「日本共產青年同盟ノ目的」——結社ノ擴大強化ヲ圖ル行爲ト結社ノ目的遂行……………(昭和七年(レ)第一二八九號 棄却)……………一六三

(五) 結社ノ擴大強化ヲ圖ル團體ノ目的遂行ト結社ノ目的遂行……………(昭和八年(レ)第八七三號 棄却)……………一六五

六、「結社ノ組織、加入、目的遂行行爲ノ包括性」ニ關スルモノ……………一七五

(一) 改正治安維持法第一條第一項後段及第二項後段ノ適用……………(昭和四年(レ)第一三三四號 破毀自判)……………一七五

(二) 結社加入ト其ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲……………(昭和六年(レ)第一〇七六號 棄却)……………一九二

(三) 結社支持ノ爲ニスル行爲ノ性質——結社組織罪及結社加入罪ノ包括性——包括一罪ト新舊法ノ適用……………(昭和六年(レ)第一一七七號 棄却)……………二〇三

(四) 治安維持法第一條ノ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ト同法第五條ノ行爲……………

(五) 治安維持法第一條ニ所謂結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ノ包括性……………(昭和六年(九)第一六三九號 棄却)……………二二七

……………(昭和七年(九)第一一五七號 棄却)……………二三三

第二條

一、「目的事項ノ實行協議」ニ關スルモノ……………二三三

(一) 舊治安維持法第二條ト結社ノ加入勸誘及承諾……………(昭和四年(九)第七二九號 棄却)……………二三三

第五條

一、「利益供與ノ意義」ニ關スルモノ……………二四五

(一) 治安維持法第一條ノ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ト同法第五條ノ行爲……………

……………(昭和六年(九)第一六三九號 棄却)……………二四五

(二) 治安維持法第五條ノ利益供與罪……………(昭和九年(九)第一〇六八號 棄却)……………二四七

裁判所構成法關係

(一) 裁判所構成法第一百五條ト傳來の日本語……………(昭和九年(九)第九九八號 棄却)……………二五七

刑事訴訟法關係

(一) 調書ノ謄本ノ證明力——「我カ國體——君主制ノ廢止ト國體ノ變革」……………

……………(昭和六年(九)第三〇五號 棄却)……………二六五

(二) 「國體ノ變革私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル結社」——上告審ニ於ケル未決

勾留日數ノ算入……………(昭和六年(九)第一七八五號 棄却)……………二六七

(三) 「結社ノ範圍」——豫審終結決定ト上告論旨……………(昭和八年(九)第一一五二號 棄却)……………二六九

(四) 日本共產黨ト國際共產黨トノ關係及其ノ目的ノ公知性……………(昭和九年(九)第九七五號 棄却)……………二七二

(五) 豫審請求書ノ記載ヲ援用シタル豫審調書ノ證據調……………(昭和九年(九)第一一九號 事實審理)……………二七七

……………(昭和九年(九)第一一九號 事實審理)……………二七七

一 昭和三十四年四月三十日第一刑事部判決(棄却)……………三九

二 昭和三十四年五月三十一日第四刑事部判決(同)……………一

三 昭和三十四年十月二十二日第一刑事部判決(同)……………三三

昭和三十五年

昭和三十四年第一三二四號同五年二月二十一日第四刑事部判決(破毀自判)……………一七五

昭和三十五年第一四六五號同十一月十七日第五刑事部判決(棄却)……………三九

昭和三十六年

昭和三十四年五月二十一日第一刑事部判決(棄却)……………一四三

昭和三十五年七月九日第一刑事部判決(同)……………一九

### 判決年次別目次

#### 昭和四年

(一) 第一一號同年四月三十日第一刑事部判決(棄却)……………三九

(二) 第三八九號同年五月三十一日第四刑事部判決(同)……………一

(三) 第七二九號同年十月二十二日第一刑事部判決(同)……………三三

#### 昭和五年

(一) 昭和三十四年第一三二四號同五年二月二十一日第四刑事部判決(破毀自判)……………一七五

(二) 昭和三十五年第一四六五號同十一月十七日第五刑事部判決(棄却)……………三九

#### 昭和六年

(一) 第四四五號同年五月二十一日第一刑事部判決(棄却)……………一四三

(二) 第三〇五號同年七月九日第一刑事部判決(同)……………一九

目次

(札) 第一〇七六號同年十一月十三日第四刑事部判決(棄却)……………一九二

(札) 第一一七七號同年十一月二十六日第一刑事部判決(同)……………二〇三

昭和七年

(札) 昭和六年第一七九二號同七年三月十五日第四刑事部判決(棄却)……………二四七

(札) 同第一六三九號同七年四月二日第三刑事部判決(同)……………二二七

(札) 同第一七八五號同七年四月二十八日第一刑事部判決(同)……………七三

(札) 昭和七年第七〇六號同年七月七日第二刑事部判決(同)……………五三

(札) 第一一五七號同年十一月二十一日第一刑事部判決(同)……………一〇一

(札) 第一二八九號同年十二月二十二日第一刑事部判決(同)……………一六三

昭和八年

(札) 第八七三號同年九月四日第一刑事部(棄却)……………一五

(札) 第一五二五號同年十二月十一日第一刑事部判決(同)……………一〇一

昭和九年

(札) 第一九號同年同年三月三十一日第三刑事部決定(事實審理)……………二七七

(札) 第五一二號同年六月十八日第一刑事部判決(棄却)……………一三

(札) 第九九八號同年十月八日第二刑事部判決(同)……………二五七

(札) 第九七五號同年十月九日第四刑事部判決(同)……………二七一

(札) 第一〇六八號同年十一月一日第一刑事部判決(同)……………二四七

(札) 第一二一二號同年十二月六日第一刑事部判決(同)……………三三

(札) 第一二一二號同年十二月六日第一刑事部判決(同)……………六三

# 第一條

附錄 水手

本條之規定係根據一九四九年四月二十二日在倫敦簽署之  
國際勞工組織海員公約(一九四九年)及一九四九年四月二十二日  
在倫敦簽署之國際勞工組織海員(最低限度)公約(一九四九年)  
及一九四九年四月二十二日在倫敦簽署之國際勞工組織海員(最低  
限度)公約(一九四九年)之規定而制定之。  
本條之規定係根據一九四九年四月二十二日在倫敦簽署之  
國際勞工組織海員公約(一九四九年)及一九四九年四月二十二日  
在倫敦簽署之國際勞工組織海員(最低限度)公約(一九四九年)  
及一九四九年四月二十二日在倫敦簽署之國際勞工組織海員(最低  
限度)公約(一九四九年)之規定而制定之。

一、「國體ノ意義及國體ノ變革」ニ關スルモノ

(一) 治安維持法違反被告事件 (昭和四年(九)第三八九號棄却)

【上告人】 被告人

山名正實  
松岡二太  
荒見吉之助  
吉田武夫

辯護人

神道高寬  
中村辰治  
上村高次

【第一審】 旭川地方裁判所 【第二審】 札幌控訴院

○ 判示事項

治安維持法ニ所謂國體ノ意義

○ 判決要旨

我帝國ハ萬世一系ノ天皇君臨シ統治權ヲ總攬シ給フコトヲ以テ其ノ國體ト爲シ治安維持法ニ所謂國體ノ意義亦此ノ如ク解スヘキモノ

一、「國體ノ意義及國體ノ變革」ニ關スルモノ

ノトス

【參照】大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條 國體ヲ變革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ又ハ情ヲ知リテ之ニ加入シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

昭和三年勅令第二百二十九號治安維持法中改正ノ件第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス  
私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス  
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審判決ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人正實ヲ懲役五年被告人二十世武夫ヲ各懲役三年被告人量太郎吉之助ヲ各懲役二年ニ處シ各被告人ニ對シ何レモ未決勾留日數中百五十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

近時我國ニ於ケル勞働者農民ノ階級意識深厚トナリ勞働運動熾烈トナルヤ該運動ハ經濟的領域ヨリ漸ク政治的領域ニ進出セントスルニ至リ曩ニ大正十一年頃堺利彦等ノ主唱ニ基キ現時ノ資本主義的社會組織ヲ變革シ勞農獨裁ノ國體ヲ樹立シ以テ共產制社會ノ實現ヲ目的トスル日本共產黨ナル秘密結社ノ組織ヲ見ルニ至リタルカ同共產黨ハ翌大正十二年檢舉ニ遇ヒテ一時其ノ活動ハ屏息シタル處茲ニ復其ノ再興ヲ企ツルモノアリ大正十五年十二月四日福本和夫佐野文夫渡邊政之輔三田村四郎等同志十七名ハ山形縣南置賜郡山上村大字五色溫泉宗川旅館ニ秘カニ集合シ秘密結社日本共產黨ノ創立大會ヲ開催シ立憲宣言組織規約ヲ議決シ日本共產黨ハ國際共產黨(コンミュニテルン)ノ一支部タルヘキコト職業的革命家ノミヲ以テ結成セラルヘキコト組織ノ原則ハ民主的中央集權ニ則ルヘキコト等ヲ定メ且中央委員補助委員統制委員ヲ選任シ以テ再ヒ日本共產黨ヲ組織シ亞テ翌昭和二年春同黨ノ幹部露西亞ニ入り國際共產黨ノ批判ヲ受ケ同年十一月歸國スルヤ右批判ニ基キ更ニ政治テ一ゼ組織テ一ゼヲ作成シ革命的手段ニヨリ政治上我大日本帝國ノ大本タル君主國體ヲ變革シ無產階級獨裁ノ政府ヲ樹立シ依テ經濟上私有財産制度ヲ否認シ凡ユル生産機關ヲ社會ノ共有トスル所謂共產主義社會ヲ實現セントスル同黨根本ノ目的ノ下ニ其ノ政綱組織ヲ新ニシ先ツ當面ノスコローガン(政綱)トシテ(一)戰爭ノ危機ニ對スル闘争(二)支那革命ノ不干渉(三)ソウイニット露西亞ノ防衛(四)殖民地ノ完全ナル獨立(五)君主制ノ撤廢(六)議會ノ解散(七)十八歳以上ノ男女ノ普通選舉(八)言論出版集會結社ノ

一、「國體ノ意義及國體ノ變革」ニ關スルモノ



自由(九)一切ノ反勞働者法ノ撤廢(十)失業保險(十一)八時間勞働(十二)宮廷寺院地主等ノ土地無償沒收(十三)高度ノ累進所得稅ヲ掲ケ次ニ組織トシテハ其ノ末端タル細胞ヲ基礎トシ順次ニ地區委員會地方委員會中央委員會ノ諸機關ヲ備ヘ細胞ハ黨ノ政策ヲ實行スル行動機關ニシテ其ノ他ハ順次ニ之ヲ統制指導スルコトヲ其ノ任務トナシ尙右ノ外從屬的機關トシテ黨外ノ大衆團體ヲ黨ノ主義ニ指導教化スルコトヲ任務トスルフラクシヨシクテ全國各地ニオルガナイザー(組織者)ヲ派遣シ黨ノ主義宣傳黨員ノ獲得等愈々其ノ活動ヲ開始シ當北海道ニハ昭和三年一月中央補助委員タル三田村四郎カオルガナイザートシテ派遣セラレタル處

第一被告人山名正實ハ從來社會科學ヲ研究シタル結果マルクス共產主義ニ共鳴シ我國ノ資本主義制度ニ不滿ヲ抱キ殊ニ北海道ニ於ケル農民ノ悲惨ナル状態ヲ慨シ一身ヲ農民運動ニ投シ昭和二年三月日本農民組合北海道聯合會書記トナリ爭議部ヲ擔任シ小作爭議等ニ携サハリ奮勞働農民黨ニ籍ヲ置キ農民運動ニ從事シタルモノニシテ

(一)昭和三年一月中札幌市白石中川寅吉方ニ於テ北海道地方オルガナイザータル三田村四郎ト會見シ同人ヨリ日本共產黨ニ加入スヘキコトヲ勸誘セラレ同黨カ前記ノ如ク國體ヲ變革シ私有財產制度ノ否認ヲ目的トスル秘密結社ナルコトヲ知リナカラ之ヲ承諾シ同年一月末頃黨本部ノ承諾ヲ得テ同黨ニ加入シ旭川地區代表者兼日本農民組合北海道聯合會内ノ又ラクシヨシクテ統制スヘキフラクシヨシビニ

一、國體ノ意義及國體ノ變革ニ關スルモノ

(二)同黨ノ目的ヲ達成スル意圖ノ下ニ(イ)昭和三年一月末頃札幌市白石中川寅吉方ニ於テ三田村四郎正木清沼山松藏武内清等ト會見シ衆議院議員選舉ニ對スル日本共產黨ノ對策トシテ其ノスローガンヲ民衆ニ宣傳スル方法ヲ相諮リ以テ目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ(ロ)同年三月五日頃札幌市北七條西十五丁目三田村四郎方ニ於ケル各地區代表會議ニ參加シ三田村四郎田口右源太沼山松藏武内清渡邊利右衛門等ト日本共產黨ノ北海道ニ於ケル組織活動テーゼ及ブルジョア代議機關ニ於ケルプロレタリア代表ノ態度ニ關スル件ヲ決議シ以テ右目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ(ハ)昭和三年一月ヨリ同年三月迄ノ間ニ三十數回ニ互リ三田村四郎ヨリ手渡シ又ハ郵送セラレタル日本共產黨中央機關紙赤旗北海道地方機關紙北海通信(後ニ北海勞働者ト改題)日本共產黨北海道地方組織活動テーゼブルジョア代議機關ニ於ケルプロレタリア代表ノ態度ニ關スル決議ヲ安住豐及被告人松岡二十世荒岡庄太郎荒量太郎吉田吉之助伏見武夫原審相被告人荒哲夫山本作二合田角逸等ニ秘密ニ手渡シ又ハ郵送シ尙昭和三年一月中旬樺戶郡月形ニ於テ安住豐ニ昭和三年二月初頃旭川市九條通日章館ニ於テ被告人松岡二十世ニ昭和三年二月初頃旭川市八條通七丁目某飲食店ニ於テ被告人荒岡庄太郎ニ昭和三年二月初頃旭川市三條通九丁目日本農民組合北海道聯合會事務所ニ於テ被告人荒量太郎吉田吉之助原審相被告人荒哲夫ニ昭和三年三月初頃右事務所ニ於テ被告人伏見武夫ニ夫々日本共產黨ニ入黨スヘキコトヲ勸誘

シ孰レモ其ノ頃其ノ承諾ヲ得以テ前記目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ(ニ)昭和三年二月初頃旭川市三條通九丁目日本農民組合北海道聯合會事務所ニ於テ農村細胞結成ノ爲被告人松岡二十世ニ對シ東旭川方面ニ於ケル文書ノ配布及黨員ノ獲得方ヲ依頼シ其ノ承諾ヲ得テ前記目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ(ホ)昭和三年二月頃旭川市三條通九丁目日本農民組合北海道聯合會事務所ニ於テ被告人荒量太郎ニ對シ廣瀬仙太郎被告人吉田吉之助ト共ニ鷹栖村ニ於ケル農村細胞ヲ構成スヘキコトヲ依頼シ其ノ承諾ヲ得以テ前記目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ(ヘ)昭和三年三月十日頃及同月二十日頃ノ二回ニ被告人伏見武夫ニ對シ日本共產黨中央機關紙赤旗日本共產黨北海道地方機關紙北海労働者日本共產黨北海道地方組織活動ターゼブルジョア代議機關ニ於ケルプロレタリア代表ノ態度ニ關スル決議等ノ配布方ヲ依頼シ其ノ承諾ヲ得以テ前記目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ(ト)昭和三年三月十二三日頃旭川市師團道路某餅屋ニ於テ原審相被告人山本作二ニ對シ旭川市合同労働組合内ノ日本共產黨ノフラクシヨシヨシコトヲ依頼シ其ノ承諾ヲ得以テ前記目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シタルモノナリ

第二被告人松岡二十世ハ東京帝國大學在學中新人會ニ加入シ社會科學ヲ研究シ大正十四年卒業大山郁夫主唱ノ政治研究會員トナリ教育部調査部ヲ擔任シ其ノ後渡道シ日本農民組合北海道聯合會書記トナリ又舊労働農民黨中央執行委員トシテ農民運動ニ從事シタルモノナル處

(一)昭和三年二月初頃旭川市九條通九丁目日章館ニ於テ被告人山名正實ヨリ日本共產黨ニ加入スヘキコトヲ勸誘セラレ同黨カ我國體ヲ變革シ私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル秘密結社ナルコトヲ知リナカラ之ヲ承諾シ同年三月七日頃黨本部ヨリノ承諾ヲ受ケ以テ同黨ニ加入シ

(二)昭和三年二月初頃旭川市三條通九丁目日本農民組合聯合會事務所ニ於テ被告人山名正實ヨリ農村細胞結成ノ爲東旭川方面ニ於ケル黨機關紙ノ配布及黨員ノ獲得方ヲ依頼セラルルヤ同黨ノ目的達成ノ意圖ノ下ニ之ヲ承諾シ以テ右目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ次テ其ノ頃被告人山名正實ヨリ受取リタル日本共產黨ノ機關紙ヲ東旭川村戸島富松諸橋龜次郎ニ秘密ニ交付シタルモノナリ

第三(上告被告人ニ關係ナキ事實ナルヲ以テ略ス)

第四被告人荒量太郎ハ從來農業ニ從事シ農村ノ悲惨ナル状態ヲ體驗シ現時ノ經濟組織ニ不滿ヲ抱キ日本農民組合北海道聯合會假執行委員長同聯合會鷹栖支部常任執行委員ニシテ舊労働農民黨ニ加入シ農民運動ニ從事シタルモノナル處

(一)昭和三年二月初頃旭川市三條通九丁目日本農民組合北海道聯合會事務所ニ於テ被告人山名正實ヨリ日本共產黨ニ加入スヘキコトヲ勸誘セラレ同黨カ前記ノ如ク私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル秘密結社ナルコトヲ知リナカラ之ヲ承諾シ同年三月七日頃黨本部ヨリノ承諾ノ通知ヲ受ケ以テ同黨ニ加入シ

(二) 昭和三年二月中前示聯合會事務所ニ於テ被告人山名正實ヨリ廣瀬仙太郎被告人吉田吉之助ト共ニ鷹栖村ニ於ケル農村細胞ヲ結成スヘキコトヲ依頼セララルルヤ同黨ノ目的達成ノ意圖ノ下ニ之ヲ承諾シ以テ右目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シタルモノナリ

第五被告人吉田吉之助ハ從來鷹栖村ニ於テ農村ニ從事シ現時ノ資本主義制度ニ不滿ノ念ヲ抱キ日本農民組合北海道聯合會鷹栖支部員ニシテ舊労働農民黨ニ加盟シ農民運動ニ從事シタル者ナル處昭和三年二月初頃旭川市三條通九丁目日本農民組合北海道聯合會事務所ニ於テ被告人山名正實ヨリ日本共產黨ニ加入スヘキコトヲ勸誘セラレ同黨カ前記ノ如ク我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル秘密結社ナルコトヲ知リナカラ之ヲ承諾シ同年三月七日頃黨本部ヨリノ承認ノ通知ヲ受ケ以テ同黨ニ加入シタルモノナリ

第六被告人伏見武夫ハ嘗テ早稻田大學在學中大山教授退職問題ニ關シ退校セラレ舊労働農民黨ニ加盟シ滿洲各地ヲ視察シ労働階級ノ狀況ヲ實驗シ現時ノ資本主義制度ノ不滿ヲ慨シ日本農民組合北海道聯合會書記トシテ農民運動ニ從事シタルモノナル處

(一) 昭和三年三月初頃旭川市三條通九丁目日本農民組合北海道聯合會事務所ニ於テ被告人山名正實ヨリ日本共產黨ニ加入スヘキコトヲ勸誘セラレ同黨カ前記ノ如ク我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル秘密結社ナルコトヲ知リナカラ之ヲ承諾シタルモ黨本部ヨリノ承認ノ通知ヲ受

ケザル爲未タ黨加入ノ目的ヲ遂ケス

(二) 昭和三年三月十日頃及同月二十日頃ノ二回ニ亘リ被告人山名正實ヨリ日本共產黨機關紙赤旗日本共產黨北海道地方機關紙北海労働者日本共產黨北海道地方組織活動テ―ゼブルジョア代議機關ニ於ケルプロレタリア代表ノ態度ニ關スル決議等ノ配布方ヲ依頼セララルルヤ同黨ノ目的達成ノ意圖ノ下ニ之ヲ承諾シ以テ右目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ其ノ頃右文書ヲ山本作ニ外數名ニ配布シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示行爲ハ孰モ大正十四年法律第四十六號治安維持法ノ適用ヲ受クヘキモノナルトコト同法ハ本件犯行後昭和三年六月二十九日勅令第二百二十九號緊急勅令ヲ以テ改正セラレ刑ノ變更アリタルヲ以テ刑法第六條第十條ニヨリ右新舊兩法ノ刑ヲ比照スルニ被告人山名正實松岡二十世吉田吉之助ノ各所爲ハ舊法ニ於テハ第一條第一項後段ニ新法ニ於テハ第一條第二項中各結社加入ニ關スル規定ニ該當シ後者ニ在リテハ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ第一條第一項ノ國體變革ヲ目的トスル結社加入ニ關スル罪ノ刑ヲ以テ問擬スヘク被告人伏見武夫ノ所爲ハ舊法ニ於テハ第一條第三項第一項後段ニ新法ニ於テハ第一條第三項第一項第二項中ノ各結社加入ニ關スル規定ニ該當シ後者ニ在リテハ刑法第五十四條第一項前段第十條ニヨリ重キ第一條第三項第一項ノ國體變革ヲ目的トスル結社加入未遂罪ニ關スル刑ヲ以テ問擬スヘク被告人荒量太郎ノ所爲ハ舊法ニ於テハ第一條

第一項後段ニ新法ニ於テハ第一條第二項中ノ結社加入ニ關スル規定ニ該當シ以上比照ノ結果ハ被告人荒量太郎ニ付テハ新舊其ノ刑相等シク其ノ他ノ被告人ニ付テハ何レモ舊法ノ刑輕キヲ以テ總テ舊法ノ刑ニ從ヒ何レモ懲役刑ヲ選擇シ被告人山名正實ヲ懲役五年ニ被告人松岡二十世伏見武夫ヲ各懲役三年ニ被告人荒量太郎吉田吉之助ヲ各懲役二年ニ處シ刑法第二十一條ヲ適用シテ各被告人ニ對シ未決勾留日數中百五十日ヲ各本刑ニ算入スヘキモノトス

○理由

各被告辯護人神道寬次中村高一上村進布施辰治上告趣意書第三點原判決ハ其ノ理由中「革命的手段ニヨリ政治上我大日本帝國ノ大本タル君主國體ヲ變革シ無產階級獨裁ノ政府ヲ樹立シ依テ經濟上私有財產制度ヲ否認シ凡ユル生産機關ヲ社會ノ共有トスル所謂共產主義社會ヲ實現セントスル同黨根本ノ目的ノ下ニ其ノ政綱組織ヲ新ニシ先ツ當面ノスローガン(政綱)トシテ云々」ト判示シタリ按スルニ國體トハ何ソヤ國體ノ意義ニ關シテハ法律學者中非常ナル異論アリ法律學者中國體ノ意義ニ關シ(1)穂積八東上杉愼吉ノ諸氏ハ國體ト政體トヲ區別シ「國體トハ主權ノ所在即チ主權カ君主ニ在スルカ人民ニ在スルカヲ云フ」而シテ君主ノ所在スル國ハ當然君主國體大統領制ノ國ハ民主國體ニシテ「政體トハ政治ノ方法ノ如何即チ專制カ立憲カヲ云フ」從テ我日本ハ君主制ヲ國體トシ立憲ヲ政體トス而シテ政體ハ幾度カ變革ヲ經タレ共國體ハ何等ノ變革ナシト説明シタリ然レ共此ノ見解ノ誤レルコトハ幾多

ノ實例ニ依リテ證明スルコトヲ得ヘシ例ヘハベルギー國ノ如キハ君主アリ然モ世襲ナル事實ヨリ見レハ其ノ國體ハ當然君主制ト云ハサルヘカラス然ルニベルギー憲法ニ依レハ「主權ハ人民ニ在リ」ト明確ニ規定セラレタリ若シ主權ノ所在ヲ以テ國體ノ如何ヲ決定セント欲スルナラハ「ベルギー」國ハ正シク君主アル民主制ナリト謂ハサルヘカラス又英國ノ如キ君主ハ嚴トシテ在スルモ「主權ハ議會ニ在リ」トノ傳統法ヲ有ス然ラハ英國モ亦君主制ノ國體ニ非スト謂ハサルヘカラス伊太利ニ於テハ主權ハ形式的ニハ君主ニ存スレ共實權ハ「ファシスト」專制ナルコト萬人ノ認ムル處ナリ斯ノ如キ場合之モ君主國體ト稱シ得ヘキヤ疑ナキ能ハス(2)美濃部達吉氏ハ之レ等上叙ノ見解ニ反シ國體ト政體トノ區別ヲ認メス總テ之レ政治形態ヲ表現セントスルモノナルカ故ニ政體以外ノ觀念ヲ作り出ス必要ナシト稱ス隨テ美濃部氏ニ依レハ國體ナル觀念ハ憲法學行政學其他ノ一切ノ法律學ノ範圍外ニ存スルコトトナルヘシ今日ノ既存法律學說トシテ此ノ見解ノ正當ナルコト論ヲ俟タス(3)更ニ國體ノ本質意義ヲ決定スヘキ最大唯一ノ權威アリ教育勅語之レナリ即チ「我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世世厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス」ト宣ヘリ之レ實ニ國體ノ意義ヲ究明シ盡シ得テ疑問ノ餘地ナシ之レニ據テ之レヲ見レハ何人モ「國體トハ傳統的風俗習慣道德ノ謂ナリ」ト的確ニ答フルコトヲ得ヘシ果セル哉伯爵二荒芳德氏ハ其ノ著「新日本ノ自主的建設」四十

一、「國體ノ意義及國體ノ變革」ニ關スルモノ

ヒ立チ天性修養ニロツテ定マル」ト述ヘタリ一見傳統的風俗習慣道德ノ謂ニ非サル如シト雖個性カ個人即チ自然人ナラサル限リ環境生ヒ立チ天性修養ト云ヘ共要スルニ風俗習慣道德ノ範疇ヲ脱スルモノニ非ス氏モ亦「古典ヲ透シテ見タル日本ノ個性」ナル題目ノ下ニ「日本民族ノ個有ナル理想信念」——「國民的道德」カ「日本國體」ナリト主張セリ又更ニ海軍中將男爵梨根時起氏謹述ニカカハル「教育勅語ノ義解」二十一頁ニハ「世界各國ソノ國家カアレハ其ノ歴史カアル其ノ歴史カアレハ其ノ國體アリ」ト斷定シタリ氏ニ依レハ「國體ハ歴史ニ依ルモノニシテ傳統的風俗習慣道德」ノ謂ナルコト明瞭ナリ氏ハ國體ノ字解ニ於テ「國體トハ國家ノ體テ即チ國家ノ精神の要素トナルヘキ性格ヲ云フ」ト述ヘタリ以上ハ唯一例ニ過キサレモ斯クノ如クニ幾多諸家說ヲナシ其ノ結果此ノ「國體」ヲ抽象化シ宗教化セント努力シ斯クテ「君民一體說」「一大家族說」「同一民族說」「彌榮說」等ヲ生ムニ至リ之レヲ以テ日本ノ國體其ノモノナリトノ結論ニ到達シツツアリ而シテ今日一般ノ通說乃至信念トナルニ至レル右諸說カ究極スル處「國體」トハ風俗習慣道德ナリトノ斷定ニ立脚スルコトヲ見ルヘシ隨テ右諸說ノ所謂國家ノ個性又ハ性格ハ所謂「主權ノ所在」ヲ指稱スルニ非サルコトモ亦明瞭ナリ何トナレハ「主權ノ所在」ハ政治問題ナルモ個性乃至性格ハ「政治問題」ニ非スシテ自然乃至必然ノ問題ナレハナリ然ラハ國體ノ變革トハ如何國體ノ意義ニ關シテ上敎ノ如キ國家ノ個性乃至性格又ハ傳統的風俗習慣道德ナル以上ソノ變革トハ果シテ何カニ荒伯ハ上敎著書八十一頁ニ於テロシヤノ現今ノ如キ支那カ現今ノ如キ彼等ハソ

ノ個性ニ從テ敢然ト其ノ行フヘキ所ニ赴キタルニ過キス」ト述ヘタリ以テ一革命ハ國體ノ自然ノ必然的——即チ內在的法則ニ依ル歸結——結果ナルコトヲ結論セリ國體ノ方面ヨリ觀レハ即チ革命ハ自然ニ存在スル自己發展ノ意ナリ隨テ「國體ノ變革」トハ政治的革命ニ非サルコト明瞭ナリ否國體ノ變革ト稱スル事實ハ生起シ得サルヘシ何トナレハ國家ノ個性乃至性格ノ變革ナル觀念ハ存在セス個性乃至性格ハ或ハ發展シ或ハ萎縮スルコトアルモ變革サルヘキ性質ノモノニ非ス我カ國體ハ終始一貫ト稱スルモ之レハ勿論ノコトニシテ政治的變革ハ國體ソノモノトハ無關係ニ存在シ得ルカ故ナリ隨テ國體ノ變革ナル事實ハ政治的結社ノ目的トナスコト不能ナルモノナリ假ニ百歩ヲ讓ルモ國體ノ變革トハ經濟及政治ノ變革ニ伴ヒソノ結果トシテ自働的(內在的法則ニ隨ヒ自然發生的ニ)ニ發展轉化スルモノト解スヘキナリ尙治安維持法ニ所謂「國體ノ變革」ト比較對照セサルヘカラサルモノニ刑法第七十七條乃至第八十條「内亂ニ關スル罪」ノ規定アリ「内亂罪ノ本體ヲ「政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其ノ他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタルモノ」ハ云々」ニシテ此ノ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其ノ他朝憲ヲ紊亂スルコトカ「治安維持法ニ所謂國體ノ變革」ト對比セラルヘキモノナリ共產黨ノ結成共產黨ノ政治的宣傳煽動カ直接此ノ内亂罪ノ本體ニ抵觸スルヤ否ヤ問題ナリ内亂罪ハ豫備陰謀幫助ヲモ犯罪トシ其ノ刑モ死刑迄ノ規定アリ非常ナル廣範圍ノ性質ヲ有ス若シ共產黨結社カ同法條ニ抵觸スルトコロアラハ別ニ治安維持法ヲ制定スル迄モナク同法條ニ依テ處斷サルヘキモノナリ然ルニ

治安維持法ヲ制定シタル所以ヨリ見レハ同法條ハ直ニハ共產黨結社ヲ處斷シ得サルカ故ナリ即チ内亂罪ニ於テハ暴動ナル行爲カ犯罪現象ノ根本的ナル一要素ヲ爲スヲ以テナリ從テ單ニ此ノ暴動ニ依テ侵害セラルル所謂「法益」ノ側ヨリ見レハ共產黨結社ハ結局此ノ同一「法益」ヲ目標トスルコト明ナリ共產黨結社ニハ唯暴動ナル要素存セサルカ故ニ内亂罪ノ法條ニ依テ處斷シ得サルノミ然ラハ其ノ法益「朝憲」トハ何カ「朝憲ノ紊亂トハ現在ノ政治形態ノ維持保存ヲ侵害スル」ノ謂ナルハ幾多判例ノ示ストコロニシテ治安維持法モ又コノ同一法益ヲ擁護センカタメノモノナルコト疑ナシ隨テ治安維持法カ政治行動ヲ目的トスル結社即チ政治結社ニ向テ適用サルヘク制定サレタル所以ナリ然ルニ治安維持法ノ法條ニ規定シタル「國體ノ變革」ナル字句ハ上敍ノ如ク其ノ本質内容ノ全ク別ニシテ政治行動ヲ目的トスル共產黨結社處斷ニハ全然無關係ナルノ結果ヲ見ルモノナリ之レヲ要スルニ原判決ノ所謂「革命的手段ニヨリ政治上我大日本帝國ノ大本タル君主國體ヲ變革」スルコトハ上敍國體其ノモノノ本質上國體ハ人爲的ニ變革スルコト能ハサルモノニシテ就中原判決表示ノ如キ「政治上……變革」スルカ如キコトハ全然事實ノ認識ト其ノ判斷ヲ誤レルモノナリ何トナレハ原判決ノ謂フカ如ク「政治上ノ革命乃至變革アル毎ニ國體ノ變革ヲ見ルノ不合理ヲ生スヘシ原始共產制ヨリ奴隸制度(王朝時代)等々ニ又封建制度ヨリ資本主義制度(原判決ハ其ノ冒頭ニ現今ノ日本ヲ資本主義制度ト斷定シタリ)ニ幾度カ政治上經濟上其ノ社會制度ノ變革ヲ經タレ共之レヲ以テ國體ノ變革ヲ經タリトハ稱シ得サルヘシ

## 【要旨】

然ルニ資本主義制度ヨリ共產主義制度ニ政治上經濟上變革スルコトノミ當然國體ノ變革ナリトハ解シ能ハサルトコロナリ以上原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノナリト云ヒ「同第六點原判決ハ其ノ理由中「革命的手段ニヨリ政治上我大日本帝國ノ大本タル君主國體ヲ變革シ」ト判示シタリ惟フニ國體ハ何人ト雖又如何ナル手段ヲ以テスルモ之レカ變革ヲ爲スコト能ハサルモノナリ變革シ能ハサルトコロニ國體ノ本質ノ存スルヲ見ルヘシ然ラハ國體ノ變革ヲ目的トスル行爲ハ絕對的不能犯ナリト謂ハサルヘカラス絕對的不能ノ事實ヲ目的トスル行爲ヲ斷罪ノ對照トシタル原判決ハ違法ナリト云ヒ」同第七點原判決カ被告等ヲ有罪ナリト處斷シタル所以ノモノハ國體ノ變革ヲ可能ナリトシタルモノト謂ハサルヘカラス然ルニ原判決ハ國體變革カ可能ナル所以ヲ判示セス又國體變革カ可能ナルハ顯著ナル事實ナリト云フハ當ラス此ノ點原判決ハ理由不備ノ違法アリト云ヒ」同第八點原判決カ國體變革カ可能ナリヤニ關シ敢テ一言ノ論及スルトコロナカリシハ判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタル違法アルモノナリト云フニ在レトモ○我帝國ハ萬世一系ノ天皇君臨シ統治權ヲ總攬シ給フコトヲ以テ其ノ國體ト爲シ治安維持法(大正十四年法律第四十六號昭和三年勅令第二百二十九號)第一條ニ所謂國體ノ意義亦之レニ外ナラサルカ故ニ帝國ニ無產階級獨裁ノ政府ヲ樹立セントスルカ如キハ即我國體ノ變革ヲ企圖スルモノト云フヘシ而シテ此ノ如キ企圖ヲ遂行センカ爲同法所定ノ行爲ヲ爲スニ於テハ犯罪ヲ構成スヘキコト多言ヲ要セサルトコロ

ナレハ原判決カ判示ノ如ク事實ヲ認定セル以上其ノ目的ノ可能ナルコトヲ說示スルノ要アルモノニ非ス各論旨ハ何レモ其ノ理由ナシ

同第四點原判決ハ其ノ理由中「革命的手段ニ依リ政治上我大日本帝國ノ大本タル君主國體ヲ變革シ無階級獨裁ノ政府ヲ樹立シ依テ經濟上私有財產制度ヲ否認シ凡ユル生産機關ヲ社會ノ共有トスル所謂共產主義社會ヲ實現セントスル同黨根本ノ目的ノ下ニ其ノ政綱組織ヲ新ニシ」ト判示シタリ惟フニ私有財產制度ト資本主義制度トハ同一ニ非ス現在日本カ資本主義經濟組織ノ過程ニ在ルコトハ世人ノヒトシク認ムルトコロナルモ尙其ノ構成中ニハ幾多ノ封建的要素ノ殘留スルコトモ亦看過スヘカウサル事實ナリ凡ソ社會ノ制度ヲ分ツテ封建制資本主義制共產主義制等々ニ區別セラルルコトアルモ私有財產制度ヲ獨立單一ノ制度トシテ規定シタルハ實ニ治安維持法ニ於テノミナリ治安維持法ハ現代日本ナリテ私有財產制度ノ段階ニアルモノト認識スルモノノ如キモ斯ノ如キハ立法者カ社會組織ニ對スル認識ノ錯誤乃至ハ迷信の結果ニシテ私有財產制度ナル單一獨立ノ社會制度ハ存在セス況ンヤ法律上私有財產制度ナルモノナシ法律カ規定シ乃至ハ保障スル所有權及此レヨリ派生シタル各種私權ト制度トシテノ私有財產制ノ法律の意義ハ嚴格ニ之レヲ區別セサルヘカラス何トナレハ封建制度ノ下ニ於テハ封建制度ニ適合シタル私有財產制ニ關スル法規アリテ私權ノ保護ヲ全ウシタルコトハ疑ナキトコロニシテ更ニ原始國家即チ王朝時代ヲ見ルニ當時ハ奴隸制度ノ時代トシテモ亦其ノ社會制度ニ適合シタル私有財產ノ規定存在シ更ニ週テ原始共產制ノ末期ノ狀態ヲ見ヨ技ニハ私有財產制度ニ對スル一般の萌芽ヲ發見スルコトヲ得ヘシ更ニ謂テ現代ノロシヤ即チ「社會主義ソビエツト共和國聯邦」ヲ見ヨ技ニモ亦私有財產ハ事實トシテ存シ法規ニ於テ許容シ私權ノ保護全キヲ見ルヘシ唯「ソビエツト聯邦」カ他ノ資本主義國家ト相違スル點ハ生産機關(技ニ所謂生産トハ分配マテ含ム分配ハ從屬の性質ヲ有スレハナリ)ノ國有トソノ國家ニ依ル管理ノ一點ニ存スルノミナリ即チ原始共產制奴隸制封建制資本主義制共產制夫々ノ制度ニ適應シタル私有財產ハ存在シ私權ノ保護全キヲ得ルモノナリ唯々資本主義制度ノ下ニ於テ私有財產ハ最大ノ保護ヲ得テ熾熱ノ絕頂ニ在ルノ差アルノミナリ即チ私有財產制度トハ一社會形態ニ特有ナル制度乃至ハ單一獨立ノ制度ニアラスシテ彼上ノ如キ如何ナル社會形態ノ下ニ於テモ夫々ニ適應シテ存在シ得ル社會的必然タル一ノ事實ニ過キサルナリ原判決カ本件被告等ヲ治安維持法違反ナリト斷スルニハ先ツ事實トシテノ私有財產制

度ナル社會制度ノ存否如何若シ存在スルトモ本件犯罪發生當時ノ日本ニ於テ私有財產制度トハ如何ナル形態ヲ指稱スルモノナリヤ

ニ關シテ事實ノ判斷ヲ爲スヘキ義務アリ然ルニ原判決ハ彼上ノ如ク虛無ノ事實タル私有財產制度ヲ當然ノ存在事實ナルカノ如ク前提シ此ノ基礎ノ上ニ本件事實ノ全認定ヲ爲シタルハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト言フヘク同時ニ原判決カ理由中以上ノ點ニ關シ何等判示スルコトコナキハ一面事實並ニ法律ニ關スル判斷ヲ遺脱シタル違法アルト共ニ又一面理由不備ノ違法アルモノナリト云フニ在レトモ○凡ソ制度ハ國法ヲ外ニシテハ存スルアルヲ見ス私有財產制度ハ即チ財產ノ私有ヲ國法カ認許シ之ヲ保護スルニ因リ生シ我國法ノ下ニ於テモ亦其ノ制度ノ存スルコトハ極メテ顯著ナル事實ニ屬ス而シテ財產私有ニ關スル法ノ推移變遷ハ同時ニ私有財產制度ノ推移變遷タルニ歸シ一定不變ノ財產制度ヲ想像スルノ難キハ論旨云フトコロノ如シト雖治安維持法(大正十四年法律第四十六號及昭和三年勅令第二百二十九號)第一條ニ所謂私有財產制度ノ否認トハ重要財產ノ私有ニ關スル國法ノ保護ヲ排斥シ我現行ノ私有財產制度ヲ根本的ニ破壞スルノ謂ナリト解スヘク判示ノ如ク凡ユル生産機關ヲ社會ノ共有ト爲シ共產制度ヲ實現セントスルノ行爲ハ假令共產制度ノ主義トスルコト一切ノ財產私有ヲ否認スルモノニ非ストスルモ尙我カ私有財產制度ヲ根本的ニ破壞スルモノニシテ即チ前記法律ニ規定セル私有財產制度ヲ否認スルコトヲ目的トスルモノニ外ナラス然レハ原判決カ判示事實ヲ認メ判示法律ヲ適用處斷シタルハ正當ニシテ原判決ニハ所論ノ如キ不法ナク又記錄ヲ査スルニ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトヲ認メ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴碩文關與

昭和六年(九)第三〇五號棄却  
同年七月九日第一刑部判決棄却  
〔要旨第一〕  
〔要旨第二〕  
〔要旨第三〕

### (二) 治安維持法違反被告事件 (昭和六年(九)第三〇五號棄却) (同年七月九日第一刑部判決棄却)

【上告人】 被告人 山代吉宗 辯護人 〔小林 恭平  
外二名〕

【第一審】 水戸地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

#### ○ 判示事項

〔調書ノ謄本ノ證明力〕—我力國體—君主制ノ廢止ト國體ノ變革

#### ○ 判決要旨

- 一 調書ノ謄本ハ其ノ原本ト同様ノ證明力ヲ有ス【要旨第一】
- 二 萬世一系ノ天皇ヲ君主トシテ奉戴スルハ我力國體ナリ【要旨第二】
- 三 君主制ノ廢止ハ治安維持法第一條ニ所謂國體ノ變革ニ該當ス【要旨第三】

【參照】 刑事訴訟法第五十二條 檢事ノ執行指揮ヲ要スル裁判ヲ爲シタルトキハ速ニ

裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

同法第五十三條 被告人其ノ他訴訟關係人ハ其ノ費用ヲ以テ裁判書又ハ裁判ヲ記載

一、國體ノ意義及國體ノ變革ニ關スルモノ



シタル調書ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

同法第六十三條 公判調書ニハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

裁判長差支アルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

區裁判所判事差支アルトキハ裁判所書記其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

裁判所書記差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

同法第三百四十三條 被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類ニシテ法令ニ依リ

作成シタル訊問調書ニ非サルモノハ左ノ場合ニ限り之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一 供述者死亡シタルトキ

二 疾病其ノ他ノ事由ニ因リ供述者ヲ訊問スルコト能ハサルトキ

三 訴訟關係人異議ナキトキ

區裁判所ノ事件ニ付テハ前項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

憲法第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

治安維持法第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社

ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役

若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知りテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行

爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、結社ニ加入シタル

者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ

處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審判決ハ左記ノ如ク事實ヲ認定シ被告人吉宗ノ國體變革及私有財産制度否認ヲ目的トスル結社加

入未遂ノ行爲ニハ治安維持法第一條第一項第二項第三項刑法第五十四條第十條ヲ被告人吉宗ウタ及

次光ノ國體變革及私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル點ニハ

治安維持法第一條第一項第二項刑法第五十四條第十條ヲ犯意繼續ノ點ニハ刑法第五十五條ヲ適用シ被

告人次光ニハ刑法第六十六條第七十一條第六十八條第三號ニ依リ酌量減刑ヲ爲シ尙各被告人ニ對シ刑

法第二十一條ニ依リ未決勾留日數ヲ算入シ訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第二百三十八

條ヲ適用シ被告人吉宗ヲ懲役六年ニ被告人ウタヲ懲役二年六月ニ被告人次光ヲ懲役一年六月ニ處シ各

被告人ニ對シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中百五十日ヲ各本刑ニ算入シ訴訟費用中證人大和田武雄ニ

支給シタル分ハ被告人吉宗ノ負擔トシ證人安鶴吉田村奥次郎中山義雄ニ支給シタル分ハ被告人次光

及小澤雄次郎ノ連帶負擔トシ證人皆川島次郎白土榮加藤藤吉木村忠一ニ支給シタル分ハ被告人吉宗

及ウタノ連帶負擔トスル旨宣告シタリ

日本共產黨ハ「ロシア」ノ「モスクワ」ニ本部ヲ有スル國際共產黨(第三インターナショナル)ノ一

支部トシテ組織セラレタル秘密結社ニシテ我國家成立ノ大本タル立憲君主制ヲ廢止シ私有財産制ヲ否

認シ無産階級獨裁ノ政府ヲ樹立シ因テ以テ共產主義社會ノ實現ヲ目的トスルモノナル處昭和三年三月

憲法第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

治安維持法第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社

ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役

若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知りテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行

爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、結社ニ加入シタル

者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ

處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

十五日以來全國ニ互リ大多數ノ黨員カ檢舉セラレタル爲其ノ組織殆ント潰滅ニ瀕シタルカ右檢舉ニ漏レタル同黨幹部市川正一等ハ密カニ黨組織ノ整備擴大ヲ企圖シ同年十二月上旬頃市川正一ハ同志間庭末吉砂間一良等ト共ニ茨城縣筑波山ニ會合シテ間庭ヲ黨中央部事務局組織部員ニ砂間ヲ同政治部員ニ任命シテ黨中央部ノ組織ヲ確立シタル上黨擴大方法ニ付協議ヲ遂ケ先ツ各地方ニ於ケル殘留黨員ノ調査竝之ト連絡ヲ復活セシムルコト重要産業地及大工場ノ労働者竝ニ貧農ノ密集地帯ニ全力ヲ傾ケ之等ノ労働者農民ヲ黨員トシテ獲得スルコトニ努力スルコト黨ノ根本組織ヲ工場細胞竝ニ貧農ノ農村細胞ニ置クコト及右方針ヲ成功ニ導ク爲黨中央部機關紙赤旗ノ發行ヲ復活セシムルコト等ヲ定メ其ノ後右方針ニ基キ黨員杉本文雄ニ對シ各地方ニ於ケル殘留黨員竝戰闘的中心分子ノ調査及各地方トノ連絡關係確立ノ任務ヲ與ヘテ各地ニ派遣シタルカ

第一 被告人山代吉宗ハ明治大學專門部政治經濟科ヲ卒業後福島縣平町附近磐城炭鑛株式會社小野田炭鑛ノ飯場頭トナリタルカ昭和二年一二月頃同會社ヨリ飯場頭ヲ罷免セラレタル後同志ト共ニ舊労働農民黨平支部ヲ組織シ同黨カ解散ヲ命セラルルヤ更ニ新黨組織準備會平支部ヲ組織シ同地方ニ於ケル労働運動ニ從事シ居タルカ同準備會亦解散ヲ命セラレ其ノ後昭和三年八月東京ニ出テ無産者新聞ノ編輯發行等ノ事務ヲ手傳中偶被告人豊原ウタ(當時ウタ)ト相識ルニ至リ共ニ茨城縣下日立町ニ於テ労働運動ニ從事センコトヲ協議シ同年九月同町ニ轉住同居シ爾來日立製作所ノ職工等ヲ目

標トシテ労働運動ニ從事中日本共產黨カ判示ノ如キ目的ヲ有スル秘密結社ナルコトヲ知リナカラ

一、昭和四年二月初頃同町被告人居宅ニ於テ廣瀬善四郎ヨリ日本共產黨ニ加入方ノ勸誘ヲ受クルヤ直

ニ其ノ承諾ヲ爲シ次テ同年三月十六日同居宅ニ於テ前記間庭ヨリ廣瀬ノ手ヲ經テ黨員章(昭和四年押第三七號ノ二四)ノ交付ヲ受ケタルモ未タ黨中央部ノ承認ヲ得サリシ爲加入ノ目的ヲ遂ケス

二、(イ) 前記ノ如ク昭和三年九月日立町轉住後間モナク日立製作所職工ナリシ被告人下田正男外十數名ヲ會員トセル研究會ヲ組織シ被告人自ラ之カ指導者トナリ同年十二月迄ノ間毎月二回宛同町ノ被告人方又ハ其ノ他ニ於テ開會シ無産者政治教程無産者新聞等ニヨリ講演ヲ爲シタル際共產主義ノ説明ヲナシ労働者ノ眞ノ幸福ハ日本共產黨ニ據ルニ非サレハ贏チ得ヘカラサル旨ヲ力説シ

(ロ) 同年十月中ヨリ被告人豊原ウタ(當時田中ウタ)ト共ニ日立通信ナル小冊子ヲ毎月二回宛發行シ昭和四年二月中之ヲ「サイレン」ト改題シタルカ同黨ノ爲共產主義宣傳ノ目的ヲ以テ同年三月發行ノ三・一五事件記念號(昭和四年押第三七號ノ四三中)「サイレン」第十號)及四月上旬發行ノ「サイレン」第十二號(昭和四年押第四四號ノ一)ニ於テ前者ニハ恨ミノ三・一五ヲ闘争ニヨツテ記念セヨ日本共產黨ノ旗ノ下ニ三・一五事件ノ下手人資本家地主ノ政府ヲ倒セ云云ノ記事後者ニハ機關車ノ暴進セル圖ヲ畫キ其ノ前面ニ日本共產黨ナル文字ヲ記入シ且其ノ

傍ニ今ヤ日本共產黨ハ全被壓迫民衆ノ先頭ニ立チプロレタリア解放ノタメ邁進シツアリ云云ノ記事竝ニ暴壓ノ四月十日ヲ忘レルナ云々此日ヲ期シテ一齊ニ日本共產黨ニ參加セヨ日本共產黨ノ旗ノ下ニ資本家地主ノ政府ヲ倒セ労働者農民ノ政府萬歳等ノ記事ヲ掲載シ之ヲ其ノ頃何レモ日立町附近ニ於テ被告人下田正男及同人ノ手ヲ經テ日立製作所ノ職工ニ分配交付シ

(ハ) 同年三月十六日廣瀬善四郎カ被告人居宅ニ來訪シタル際同人ト協議ノ上被告人豊原ウタ(當時田中ウタ)及原審相被告人松島清美ヲ黨員トシテ黨中央部ニ推薦センコトヲ協議シ同月二十二日頃ウタ及清美ノ推薦狀ヲ黨中央部ニ送付シ

(ニ) 右廣瀬來訪ノ際同人ヨリ被告人小澤雄次郎及原審相被告人海野勝市ニ黨員章ノ交付方ヲ託セラレ之ヲ預リ且日本共產黨ノ機關紙赤旗及赤旗バンフレット各數部ノ交付ヲ受ケ同月二十五日茨城縣多賀郡大甕海岸ニ於テ被告人小澤ト會合シ同人及海野ノ右黨員章ヲ交付シ且同月十七日頃小澤海野ノ分トシテ赤旗及赤旗バンフレット各數部ヲ小澤ノアドレスナル水戸市外常盤村高須忠彦方ヘ郵送シ更ニ其ノ數日後黨中央部ヨリ送付シ來レル赤旗及赤旗バンフレット各五部ヲ其ノ頃前記松島清美小幡正雄ニ各一部宛小澤雄次郎ニ各二部宛送付シ又残り各一部ヲ豊原ウタ(當時田中ウタ)ニ交付シ同月下旬頃前同様赤旗バンフレット三部ノ送付ヲ受ケタル内一部ヲ其ノ頃松島清美ニ送付シ一部ハ同年四月十五日前記大甕海岸ニ於テ海野勝市

ト會合シタル際之ヲ同人ニ交付シ

(ホ) 昭和四年三月二十五日前記大甕海岸ニ於テ被告人小澤雄次郎ト會合シタル際工場細胞、農村細胞ヲ組織スルコト小澤ハ海野勝市ト連絡ヲ保チテ同人ト相談ノ上活動スルコト等ニ付協議ヲ爲シ更ニ同年四月十五日右海岸ニ於テ海野勝市ト會合シ來ルヘキメーデーニ示威運動ヲ爲スコトト赤旗ノ讀者ノ増加ヲ圖ルコト農村並工場ノ組織ノ組織ニ努ムルコト等ニ付協議ヲ爲シ

以テ同黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シ

(第二、第三事實略ス)

第四 被告人豊原ウタハ實兄田中長三郎ノ感化指導ニ依リ共產主義ノ研究ニ没頭シ労働者解放運動ニ從事シ第一掲記ノ如ク被告人山代吉宗ト相識リシ後ハ共ニ日立町ニ轉住同居シ日立製作所ノ職工ヲ目標トシテ労働運動ヲ爲シ居タルカ日本共產黨カ前記ノ如キ目的ヲ有スル秘密結社ナルコトヲ知リナカラ同黨ノ爲第一ノ二ノ(ロ)記事ノ如ク山代ト共同シテ發行シ居タルサイレン三・一五事件記念號及同第十二號ニ共產主義宣傳ニ關スル記載ヲ掲載シテ之ヲ日立製作所職工數名ニ配布シ且第一ノ二ノ(イ)掲記ノ研究會ノ席上ニ於テ女モ男ト同様共產黨ニ加入セサルヘカラサル旨ヲ説キ以テ同黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シ

第五 被同人井垣光次ハ水戸高等學校在學中社會科學研究會ニ關係シ昭和三年十一月退學セシメラレ爾來勞働運動ニ從事シ居タルモノナルカ日本共產黨カ前記ノ如キ目的ヲ有スル秘密結社ナルコトヲ知リナカラ同黨ノ爲昭和四年三月十五日前記海野勝市ト小澤雄次郎ト共ニ第二ノ二ノ(ニ)掲記ノ如キ三色ビラ數百枚ヲ作成シ之ヲ水戸市内ニ撒布シ且同年三月二十三日頃被告人小澤雄次郎ノアドレスタル水戸市外常盤村高須忠彦方ヘ郵送サレタル赤旗其ノ他ノ黨文書ヲ小澤ニ取次交付シ以テ同黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノナリ

(第六事實略ス)

而シテ被告人等ノ所爲ハ何レモ犯意繼續ノ上爲シタルモノナリ

○理由

各被告人辯護人小林恭平細迫兼光上告趣意書第一點原判決ハ判示冒頭ノ事實中日本共產黨カ「ロシヤ」ノ「モスクワ」ニ本部ヲ有スル國際共產黨ノ一支部ナル事同黨カ判示ノ如キ目的ヲ有スルコトヲ被告人間庭末吉ニ對スル豫審訊問調書謄本ノ記載ニ依リ認定シ又判示第一ノ一ノ事實ヲ認定スル一證據トシテ被告人廣瀬善四郎ニ對スル豫審訊問調書謄本ヲ舉ケ同第一ノ二ノ(ハ)ノ事實ニ付テハ被告人間庭末吉ニ對スル豫審訊問調書謄本ヲ舉ケ同第三ノ一ノ事實ニ付テハ被告人廣瀬善四郎同杉本文雄ニ對スル豫審訊問調書謄本ヲ舉ケタリ然ルニ豫審訊問調書謄本ハ「法令ニ依リ作成シタル訊問調書」ソノ

モノニ非ルヤ論ナシ刑事法規ハ嚴格ニ解釋セラレサルヘカラス「豫審訊問調書謄本」ヲ「豫審訊問調書」ソノ他法令ニ依リ作成シタル訊問調書ノ中ニ包含セシムルコトハ不可能ナリ然ルニ之ヲ敢テ爲シタル原判決ハ刑事訴訟法第三百四十三條第一項ニ違反スルモノニシテ不法ナリ思フニ本件ニ於テ最モ重大ナル事實ハ日本共產黨ナル結社ノ存否竝ソノ結社ノ目的如何ニ在リ被告人等ノ有罪無罪ハ懸テ此ニ存ス斯ル重大ナル事實ノ認定ニ當テ違法ノ探證ヲ許スコトハ不可能ナリ破毀セラレサルヘカラサルモノトスト云フニアリ○仍テ按スルニ刑事訴訟法中調書ノ謄本ノ作成及其ノ效力ニ關シ一般的ノ規定ナシト雖各種ノ調書ニ付裁判所書記カ其ノ謄本ヲ作成スルコト而シテ其ノ謄本ハ調書ノ原本ト同様ノ證明力ヲ有スルコトハ法ノ明文ヲ待タサルモ當然ノコトナリトシテ舊訴訟法以來之ヲ認容セリ現行刑事訴訟法第五十二條第五十三條第六十三條等ニ於テ特別ノ規定アルハ右各條ノ規定ニヨリ明ナル如ク執行指揮ノ必要上檢事ニ調書ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スヘキコト被告人其ノ他訴訟關係人ヨリ調書ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求シ得ルコト所有者所持者保管者等ノ請求ニヨリ押收品目ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スヘキコトヲ明示スル爲テ規定ヲ設ケタルニ過キスト解スヘキモノナリサレハ本件ニ於ケル所論訊問調書ノ謄本モ亦刑事訴訟法第三百四十三條ニ所謂訊問調書ト同様ノ證明力ヲ有スト解スヘキモノナルヲ以テ原判決カ所論ノ如ク豫審訊問調書ノ謄本ヲ本件斷罪ノ資料ニ供シタルコトハ何等ノ違法アルコトナク論旨ハ理由ナシ

【要旨第一】

被告人山代告宗上告趣意書第十三點治安維持法ノ解釋適用トシテ治安維持法ノ本質カ共產黨活動ニ對スル彈壓法ナルコトヲ說キ次ニ其ノ立法沿革ヲ述ヘテ當然廢止セラルヘキモノナリト云ヒ法文ノ解釋適用ニ付同法第一條ニ所謂國體ノ意義不明ニシテ之ヲ行爲批判ノ基標トナスコトハ不當ナリ萬世一系說ハ或ハ裁判所ノ解釋ナランモ萬世一系ハ日本ニノミ特殊のモノニ非ス之ヲ以テ他國ト相違スル建國精神ト認ムルヲ得ス共產黨カスローガントスル「君主制ノ廢止」カ國體ノ變革ヲ意味スルモノトハ思考セス君主制ハ要スルニ一ノ政治上ノ一制度ニシテ封建時代ノ殘存物ナリ故ニ君主制ノ廢止ナルスローガンハ決シテ全政治機構ノ全般的包括的的根本的ノ改廢ヲ意味スルモノニ非ス恰モ樞密院ノ廢止貴族院ノ廢止等ト同一範圍ニ在ルモノニシテ國體ノ變革ナル行動ト認ムヘキモノニ非ス又日本共產黨ノ中心スローガンナル「勞働者農民ノ政府」「プロ獨裁」ノ主張ハ當面ノ問題ニシテ國家ノ廢止絶滅ヲ來スヘキ最高度ノ共產主義社會ヲ實現セントスルモノニ非ス寧ロ或段階マテハヨリ強力ナル國家權力ヲ利用シテプロ獨裁國家ヲ實現セントスルモノニシテ國體ノ變革ト同視スヘキモノニアラス次ニ日本共產黨當面ノ一スローガンナル「大地主ノ土地沒收」ノ主張モ私有財產制度ノ否認ニ該當スルモノニ非ス蓋シ此ノ主張ハ其ノ反面ニ於テ耕作權ノ確立即チ貧農ノ土地所有及耕作權ノ確立ニアリ所有權存在ノ推移ニ過キスシテ寧ロ最モ合理的ノ土地所有制度ヲ確定スルコトニ在レハナリ若シ之ヲシモ私有財產制度ノ否認ナリト解セハ土地國有運動私設鐵道私有鑛山等ノ國有化運動其ノ他官公營事業ノ

設立擴張等ノ運動若ハ急進的ナル私有制限ノ社會政策的施設等ハ孰レモ私有財產制度ノ否認トシテ該法第一條第二項ノ適用ヲ受クルニ至ルヘシ勿論共產主義者ハ社會進化ノ必然トシテ私有財產制度カ全廢サルヘキコト確信スルモ其レハ共產主義社會カ非常ニ高度ノ生産力ニ依リ萬人ノ經濟生活カ完全ニ保障サレル様ニナリシ場合ニシテ被告人等ハ今直ニ斯ル社會カ實現スルトモ又之ヲ實現セシメントモ思惟セス現ニ露國ニ於テモ一部ノ土地及生産機關ノ私有ヲ認メタリ之ヲ觀ルモ共產黨カ私財否認ヲ當面ノ問題トセサルコトヲ識ルヘシ要スルニ日本共產黨ノ現實當面ノ活動ハ法ニ所謂「國體ノ變革」及「私有財產制度ノ否認」ヲ目的トスル結社ニ非サルコト明ナリ既述ノ如ク共產主義者ハ社會進化ノ歷史的必然性ヲ信シ高度ニ發展シタル共產主義社會ニ於テ國家カ絶滅シ私財制カ完全ニ廢止サルヘキヲ主張スルモ斯ル思想ヲ抱キ斯ル理論ヲ主張スルコトソレ自體ハ勿論該法ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ス又共產黨活動ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ハ單ニ意識的ニ共產主義的思想ヲ活動スルノミニテハ達成スルコト能ハス之ヲ達成センニハ完全ナル黨ノ組織ト統制ト下ニ組織ヲ通シテ爲サレタルコトヲ要スルモ被告人等ノ行爲ハ未タ完全ニ黨ノ組織ト統制トヲ受ケテ爲サレタルモノニ非サルヲ以テ該法ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ニ該當セス強イテ最少限度ニ解釋スルモ其ノ未遂トシテ論斷セラルヘキモノナリ故ニ被告人等ノ行爲ヲ控訴審ニ於テ之ヲ有罪トシテ處刑シタルハ不當ノ甚シキモノナリ上告審ニ於テハ飽クマテモ無罪ヲ要求シ即時釋放ヲ要求スルモノナリ始メヨリ裁判ノ遣リ直シヲ要求スルモノナ

【要旨第二】

リト云フニ在レトモ○憲法第一條ニハ大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治スト規定シ我國國體ノ如何ナルモノナリヤヲ明示シタリ即チ萬世一系ノ天皇ヲ君主トシテ奉戴スルコトカ我國ノ國體ナリ換言スレハ萬世一系ノ天皇ヲ戴ク君主制カ我國ノ國體ナリ治安維持法第一條ニ所謂國體モ亦此ノ意義ヲ有スルモノナリ從テ我國ニ於テ所謂「君主制ノ廢止」ハ同法ニ所謂國體ノ變革ニ外ナラサルモノトス又

【要旨第三】

私有財産制度ノ全廢ヲ共產主義社會ノ最高度ノ理念トシ其ノ當面ノ過程トシテ日本共產黨カ論旨第十一點ニ於テ詳述スル如ク皇室社寺大地主ノ土地沒收ヲ主張スルコトハ結局同法第一條第二項ニ所謂私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスルモノニ該當スルヲ以テ日本共產黨ノ現實當面ノ所論綱領ニ於ケル主張ハ同法第一條ニ所謂國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスルモノニ該當スルシテ原判示事實ノ如ク被告人カ日本共產黨カ前記ノ如キ目的ヲ有スル秘密結社ナルコトヲ知リナカラ同共產黨ニ加入ヲ承諾シ其ノ黨員章ノ交付ヲ受ケ同共產黨ノ主義ノ宣傳又ハ同黨ノ擴大ニ關スル行爲ヲ爲シタル以上未タ直接ニ同黨ノ組織及統制ノ下ニ行動シタルニ非ストスルモ同黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノニ該當シ右判示事實ハ舉示ノ各證據ヲ綜合シ之ヲ認ムルニ足ルヲ以テ原判決カ被告人ノ本件行爲ヲ治安維持法第一條第一項第二項ニ問擬處斷シタルハ相當ナリト謂フヘク原判決ニ事實審理ノ決定ヲ言渡スヘキ違法ナキ以上當院ニ於テ本件事實ニ付更ニ審判ヲ爲スヘキモノニ非サルヲ以テ論旨ハ之ヲ採用スルニ由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事松井和義關與

(三)

治安維持法違反被告事件

(昭和九年(元)第一二二二號  
同年十二月六日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 市川 正一

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○ 判 示 事 項

治安維持法第一條國體變革ノ目的ノ範圍

○ 判 決 要 旨

究極ノ目的タル共產主義社會ノ實現ヲ期スル爲其ノ經過的的のトシテ君主制ノ廢止ヲ企圖スルニ於テハ治安維持法第一條第一項ニ所謂國體ノ變革ヲ目的トスルモノニ該當スルモノトス

【參照】 治安維持法第一條第一項 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期懲役又ハ禁錮ニ處ス

○ 事 實

第二審ハ被告人カ日本共產黨ハ國際共產黨ノ日本ニ於ケル支部ニシテ暴力革命ニ依リ共產主義社會ヲ

一、「國體ノ意義及國體ノ變革」ニ關スルモノ

實現セシムルコトヲ究極ノ目的トシ其ノ目的達成ノ手段トシテ我國建國ノ大本タル君主制ヲ廢止シ私有財産制度ヲ否認シテ勞働者農民ノ政府ヲ作りプロレタリアート獨裁制度ヲ樹立スルコトヲ當面ノ目的トスル非合法結社ナルコトヲ知リナカラ之ニ加入シテ其ノ役員トナリ以テ黨ノ廣汎ナル活動ニ從事シ黨組織ノ整備擴大ヲ圖リ其ノ目的遂行ノ爲ニ努力シタル事實ヲ認定シ右所爲中國體ヲ變革スルコトヲ目的トスル結社ニ加入シ其ノ役員タリシ點ニ付昭和三年勅令第二百二十九號ヲ以テ改正セラレタル治安維持法第一條第一項前段ヲ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル結社ニ加入シタル點ニ付同法第一條第二項ヲ適用シ尙以上ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ前者ノ罪ノ刑ニ從フヘキモノトシ所定刑中無期懲役刑ヲ選擇シタル上被告人ヲ無期懲役ニ處シ訴訟費用中豫審ニ於テ證人島田彌平同清水漸ニ支給シタル分ヲ被告人ニ負擔セシメタリ

○主 文

本文上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人市川正一上告趣意書第一點原判決ハ日本共產黨ノ目的ヲ以テ「暴力革命ニ依テ我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認シプロレタリアート獨裁ノ社會ヲ樹立シ」因テ以テ共產主義社會ノ實現ヲ企圖スル

結社」トナセルモ之本事件ニ關スル最重大ナル事實ノ誤認アリ其ノ理由下ノ如シ日本共產黨ハ資本主義ノ支配ノ顛覆トプロレタリアートノ獨裁ノ樹立(當面階級ノ廢絶即人ニ依ル人ノ搾取ノ廢絶ト共產主義社會ノ建設(究極))ヲ以テ目的トスルカ「國體ノ變革」トカ「私有財産制度ノ否認」トカ謂フ様ナモノハ其ノ目的中ニ影モ形モ存セス又其ノ政綱政策其ノ他何處ニモ存スルコトナシ殊ニ(一)日本共產黨カ君主制ヲ廢シプロレタリアート獨裁ノ政治ヲ樹立セントスルハ一時經過的ノ手段ニシテ其ノ究極ノ目的ニアラス(二)君主制ヲ廢シプロレタリアート政治ヲ樹立スルハ政體ノ變革ニ過キササルカ故ニ同黨ノ目的ハ治安維持法ニ所謂國體變革ノ目的ニ該當スルモノニ非ス又(三)同黨ハ資本家の及地主的私有財産ヲ廢絶シ之ヲプロレタリア所有トスルコトヲ目的トスルモノニシテ而カモ私有財産制度ハ暴力的革命又ハ革命手段ニ依リ之ヲ廢絶シ得ヘキモノニ非サルカ故ニ同黨ハ社會主義的經濟ノ發展ニ依リ自然的ニ右變動ヲ期待スルニ過キササルカ故ニ私有財産制度ヲ否認スルコトハ同黨ノ目的トスルトニコロニアラス然ルニ原判決カ同黨ノ目的ヲ誤認シ被告ノ行爲ニ付治安維持法ヲ適用シタルハ大ナル事實ノ誤認アルモノナリト云フニ在レトモ

原判示事實中日本共產黨カ暴力革命ニ依リテ我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認シプロレタリアート獨裁ノ制度ヲ樹立シ因テ以テ共產主義社會ノ實現ヲ企圖スルコトヲ目的トスル結社ナルコトハ原判決ニ證據トシテ引用セル佐野學鍋山貞親高橋貞樹及杉浦啓一ニ對スル治安維持法違反三田村四郎ニ對

一、「國體ノ義意及國體ノ變革」ニ關スルモノ



スル治安維持法違反並傷害各被告事件ノ原審第一回公判調書中ノ佐野學ノ其ノ旨ノ供述記載ニ依リテ  
洵ニ明瞭ナリ記録ヲ精査スルモ此ノ點ニ關シ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ  
顯著ナル事由ヲ發見セス所論ハ畢竟原審ト相容レサル獨自ノ見解ニ基キ又ハ原審ノ採用セサル第一審  
第二審ニ於ケル被告人等ノ供述ヲ云爲シテ原審ノ專權ニ屬スル證據ノ取捨判斷延イテ事實ノ認定ヲ非  
議スルニ歸シ採用スヘカラス而シテ(一)我國ハ萬世一系ノ天皇君臨シ統治權ヲ總攬シ給フコトヲ以  
テ其ノ國體ト爲スモノナレハ我國ニ於テ君主制ヲ廢止シテプロレタリアート獨裁政治ヲ樹立セントス  
ルコトハ國體ノ變革ヲ目的トスルモノナルコト多言ヲ要セサルトコロナリトス所論ハ日本共產黨ノ究  
極ノ目的ヲ以テ共產主義社會ノ實現ヲ期スルニ在リテ君主制廢止及プロレタリアート獨裁制度樹立ハ  
唯當面ノ目的タルニ止マルモノニシテ究極目的達成ノ爲ニスル經過的鬭爭ノ一タルニ過キス從テ君主  
制廢止ヲ以テ同黨ノ目的ト爲スヘカラスト主張スルモ已ニ同黨カ當面ノ目的トシテプロレタリアート  
獨裁制度ヲ樹立スル爲君主制ノ廢止ヲ企圖スル以上其ノ企圖カ究極ノ目的ナルト經過的ノ目的ナルト  
ハ治安維持法ノ適用上結論ヲ異ニスヘキモノニ非サルカ故ニ之ニ關スル所論ハ採用ノ限ニ在ラス  
(二)前述ノ如ク我國ニ於テハ君主制ノ廢止ハ治安維持法ニ所謂國體ノ變革ニ該當スルモノニシテ所  
論ノ如ク之ヲ以テ單ナル政體ノ變動ニ過キスシテ國體ノ變革ニ非スト爲スヲ得サルナリ縷々敘述スル  
所論ハ畢竟原審ト相容レサル獨自ノ見地ニ立脚シテ徒ニ原審ノ事實認定ヲ非議スルニ歸シ採用スヘカ

## 【要旨】

ラス(三)日本共產黨カ私有財産制度ノ否認ヲ企圖スル結社ナルコトハ前掲原判決認定ノ事實ニ依リ  
テ之ヲ認ムルコトヲ得ヘク所論ノ如ク同黨カ資本家の私有財産及地主の私有財産ヲ廢絶セントスル以  
上ハ此ノ點ニ於テ私有財産制度否認ノ目的ヲ存スルカ故ニ更ニ全勞働人民ニ依ルカ共有ヲ目的トス  
ルコトアルモ之カ爲ニ敍上目的ヲ阻却スルモノニ非ス而シテ同黨カ所論ノ如ク社會主義的經濟ノ自然  
發展ニ依リテ右目的ヲ達セントスルモノナルコトハ原判決ノ認メサルトコロナルカ故ニ所論ハ到底採  
用シ難シ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事棚町丈四郎關與

二、「私有財産制度否認ノ意義」ニ關スルモノ

(一) 治安維持法違反被告事件 (昭和四年(九)第一二二號 棄却)  
(同年四月三十日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 石井長治 辯護人 神道寛次

【第一審】 旭川地方裁判所 外三名 【第二審】 札幌控訴院

○ 判示事項

大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條第一項ト私有財産制度ノ否認——私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル結社

○ 判決要旨

一私有財産制度ヲ根本的ニ破壊スルヲ目的トスルハ大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條第一項ノ私有財産制度ヲ否認ス

二、「私有財産制度否認ノ意義」ニ關スルモノ

ルヲ目的トスルモノニ該當ス【要旨第一】

二生産機關ヲ公有ニ歸セシメ共產主義的社會ヲ建設スル爲又ハ産業機關ヲ社會公有ニ移シ共產制度ヲ實現スル目的ヲ以テ結社ヲ組織スルハ即チ私有財産制度ヲ根本的ニ破壊スルヲ目的トスルモノニシテ前掲治安維持法第一條第一項ノ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織スルモノニ外ナラス【要旨第二】

【參照】大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條 國體ヲ變革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ又ハ情ヲ知リテ之ニ加入シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

昭和三年勅令第二百二十九號治安維持法中改正ノ件第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知ツテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定法律ノ適用ヲ爲シテ被告人石井長治松崎豐作ヲ各禁錮二年ニ被告濱野勇一佐藤鐵之助ヲ各禁錮一年六月ニ處シ各未決勾留日數中九十日ヲ本刑ニ算入シ訴訟費用ハ被告人長治以下四名及他ノ原審共同被告人三名並第一審共同被告人足利貞雄奥山正二松川泰助藤田永伯ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人石井長治濱野勇一佐藤鐵之助北村順治郎村山政儀中山茂原審相被告人足利貞雄奥山正二松川泰助藤田永伯等ハ大正十四年五月頃プロレタリア藝術研究ノ目的ヲ以テ設立セラレタル名寄新藝術協會ノ會員ナリシ處同協會ニ於テ藝術研究ノ外ニ所謂社會科學ヲモ研究スルノ必要アリトナシ石井長治指導ノ下ニ濱野勇一佐藤鐵之助北村順治郎等ニ於テマルクス主義ヲ研究シタル結果漸次之ニ共鳴スルニ至リタルカ被告人石井長治ハ更ニ其ノ活動ヲ政治闘争ノ實行の領域ニ進出セシムヘク其ノ爲ニハ之カ機關ヲ設クルノ要アリト提唱シ他方同シクマルクス主義ノ研究者タル被告人松崎豐作ト旭川市ニ於テ會合シ同人トノ間ニ政治的自由獲得ノ爲ノ萌芽形態トシテノ黨ヲ組織スヘキ旨協議シ次テ同人家昭和二年八月頃前記藝術協會ニ入會スルキ被告人石井長治松崎豐作濱野勇一佐藤鐵之助等ハ共產主義ヲ實現スルコトヲ目的トスル黨ヲ組織センコトヲ謀議シ石井松崎ニ於テ其ノ黨組織ニ關スル規約ヲ

作成スル等ノ準備ヲ爲シタル上同年八月二十七日名寄新藝術協會第四回總會ヲ機トシ其ノ總會終了ノ後被告人石井長治松崎豐作濱野勇一佐藤鐵之助北村順治郎村山政儀及原審相被告人足利貞雄奥山正二等ハ右名寄新藝術協會事務所ニ會合シ同席上ニ於テ被告人石井長治ハ現在ノ社會制度ニ缺陷アリ之レ有産支配階級カ無産階級ヲ壓迫搾取シ勞働ニ對スル賃金ヲ正當ニ支給セサルニ基因ス之ヲ防止スル手段トシテハ生産機關ヲ公有ニ歸セシメ分配ハ社會ノ手ニ依リテ勞働ノ價值ニ相當シテ分配スルノ要アリ而シテ現在ノ資本的經濟組織ヲ破壊シ共產主義的社會ヲ建設スル爲ニハ其ノ實現運動ヲ爲ス機關トシテ政治行動ヲ爲ス結社ヲ組織スルコト急務ナルニ依リ吾々ハ共產主義(コンミニュニスト)トシテ前衛分子(ケルン)ヲ以テ新藝術協會ノ上ニ立ツ集産黨ト稱スル結社ヲ組織スヘク其ノ黨ノ目的ハマルクス主義ヲ實行シ我國ニ於ケル私有財産制度ヲ否認シ産業機關ヲ社會公有ノ經營ニ移行シ以テ共產制度ヲ實現スルニアリ其ノ組織ハ中央執行委員會即幹部獨裁トシ尙黨大會黨地方協議會本部常任委員會黨協議會等ノ機關ヲ設ケ黨協議會ノ下ニ集産黨協會無産者協會勞働者協會農民協會新藝術協會婦人協會等ノ各機關ヲ置キ右各協會ノ下ニ勞働班農民班市民班學校班ヲ設ケ中央執行委員會ノ決議ニ基キ黨地方協議會黨協議會各協會各班ニ順次ニ指令ヲ爲シ最下層團體タル各班ヲシテ右指令ニ基キ無産者階級ヲ共產主義ニ教化シテ團體ヲ結成セシムルニアリ即チフラクシヨシ形態(少數派運動)ヲ採リテ順次大衆ヲ共產主義者ニ獲得シ政治闘争ニヨリテ右目的ヲ實現スルニアリト説キ以テ結社ノ勸誘ヲ爲シタ

ルトコロ被告人松崎豐作北村順治郎ハ各自意見ヲ提出シ討議ヲ爲シタルカ結局前記列席ノ被告人等ハ孰モ石井長治ノ提唱ニ賛同シ茲ニ我國ノ私有財産制度ヲ否認シ共產制社會ヲ實現スルコトノ目的ヲ以テ右被告人等ヲ黨員トシ前示中央執行委員會等ノ機關ヲ備ヘ集産黨ト命名セル結社ヲ組織シ翌二十八日中央執行委員會ヲ開催シ同會ニ於テ黨員ヲ前示被告人等ノ外被告人中山茂原審相被告人藤田永伯松川泰助其ノ他八名合計十九名ニ指定シ被告人石井長治ヲ中央情報調査兼中央組織部委員長及中央委員長ニ被告人松崎豐作ヲ中央常任書記兼中央執行委員長及中央委員ニ被告人中山茂村山政儀濱野勇一北村順治郎佐藤鐵之助原審相被告人松川泰助藤田永伯外一名ヲ中央委員ニ選出シ其ノ後中央執行委員會ヲ數回開催シ黨ノ組織行動戰術ニ付決議ヲ爲シ前記新藝術協會ノ外ニ日本プロレタリア藝術聯盟北海道同盟無産者協會士別婦人協會等ノ行動機關ヲ設立シタルモノナリ

第二 被告人中山茂ハ當時名寄新藝術協會稚内支部ノ會員トナリシトコロ直接前記結社組織ニ參加セサリシモ前示ノ如ク黨ニ於テハ同人ヲ黨員トスルコトヲ決定シ居リ昭和二年八月二十九日稚内町ニ於テ右結社決議ニ列席シ居タル島山正隆ヨリ結社成立ノ願末ヲ報告セラレタルヨリ集産黨カ前示ノ目的ヲ有スルコト認識シナカラ黨本部ニ對シ入黨ノ承諾ヲ爲シ以テ右結社ニ加入シタルモノナリ  
法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ孰レモ大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條ニ該當スルモノナル處同法ハ本件犯罪後昭和三年六月二十九日勅令第二百二十九號(同日ヨリ執行)ヲ以テ改正セラ

レタルニヨリ右新舊兩法ノ刑ヲ比較スルニ被告人石井長治松崎豐作濱野勇一佐藤鐵之助北村順治郎村山政儀ノ判示第一ノ結社ヲ組織シタル行爲及被告人中山茂ノ判示第二ノ結社ニ加入シタル行爲ハ孰レモ舊法タル前示法律ニ於テハ第一條第一項ニ該當シ新法タル前示勅令ニ於テハ第一條第二項ニ該當シ各所定ノ刑相等シキヲ以テ行爲時法タル舊法ニ從フヘキモノトシ其ノ禁錮刑ヲ選擇シ被告人石井長治松崎豐作ヲ各禁錮二年ニ濱野勇一佐藤鐵之助ヲ各禁錮一年六月ニ北村順治郎村山政儀中山茂ヲ各禁錮一年二月ニ量定處斷シ刑法第二十一條ヲ適用シテ未決勾留日數中被告人北村順治郎ニ對シ五十日ヲ其ノ他ノ被告人ニ對シ各九十日ヲ右本刑ニ算入シ被告人北村順治郎村山政儀中山茂ニ對シテハ所犯情狀刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條ニ依リ孰レモ三年間刑ノ執行ヲ猶豫シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ主文末項ノ如ク之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○理由

各被告人辯護人神道寛次上告趣意書第一點原判決ハ其ノ理由中「結局前記列席ノ各被告人等ハ孰レモ右石井長治ノ提唱ニ賛同シ茲ニ我國ノ私有財産制度ヲ否認シ共產制社會ヲ實現スルコトノ目的ヲ以テ右被告人等ヲ黨員トシ前示中央執行委員等ノ機關ヲ備ヘ集産黨ト命名セル結社ヲ組織シ翌二十八日中央執行委員會ヲ開催シ同會ニ於テ黨員ヲ前示被告人等ノ外被告人中山茂原審相被告人藤田永伯松川泰助其ノ他八名合計十九名ニ指定シ被告人石井長治ヲ中央情報調査兼中央組織部委員長及中央委員長ニ

被告人松崎豐作ヲ中央常任書記兼中央執行委員長及中央委員ニ被告人中山茂村山政儀濱野勇一北村順治郎佐藤鐵之助原審被告人松川泰助藤田永伯外一名ヲ中央委員ニ選定シ其ノ後中央執行委員會ヲ數回開催シ黨ノ組織行動戰術ニ付決議ヲ爲シ前記新藝術協會ノ外ニ日本プロレタリア藝術聯盟北海道同盟無産者協會士別婦人協會等ノ行動機關ヲ設立シタルモノナリト判示シタリ治安維持法第一條第一項ハ「國體ヲ變革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ又ハ情ヲ知リテ之ニ加入シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス」ト規定シ私有財産制度ノ意義本質竝ソノ否認トハ如何ナル行爲ヲ指稱スルモノナリヤ換言スレハ否認ナル行爲ノ内容タル事實ニ關シテハ同法ハ何等規定スルコトナシス如キ抽象的且相對的の字句ヲ用ヒタル刑罰法規ハ他ニ類例ヲ見サル處ナリ惟フニ私有財産制度ハ資本主義制度ト同一ニ非ス現在日本カ資本主義經濟組織ノ過程ニ在ルコトハ世人ノヒトシタ認ムルトコロナルモ尙其ノ構成中ニハ幾多ノ封建的要素ノ残留スルコトモ亦看過スヘカラサル事實ナリ凡社會ノ制度ヲ分ツテ封建制資本主義制共產制等ニ區別セラルルコトアルモ私有財産制ナル制度ヲ獨立單一ノ制度トシテ規定シタルハ實ニ治安維持ニ於テノミナリ治安維持法ハ現代日本ヲ以テ私有財産制度ノ段階ニ在ルモノト認識スルモノノ如キモ斯ノ如キハ立法者カ社會組織ニ對スル認識ノ錯誤乃至ハ迷信的結果ニシテ私有財産制度ナル單一獨立ノ社會制度ハ存在セス況ンヤ法律上私有財産制度ナルモノナシ法律カ規定乃至ハ保障スル所有權及此レヨリ派生シタル各種私權ト制度トシテノ私有財産

制ノ法律の意義ハ嚴格ニ之ヲ區別セサルヘカラス何トナレハ封建制度ノ下ニ於テハ封建制度ニ適合シタル私有財産制ニ關スル法規アリテ私權ノ保護ヲ全ウシタルコトハ疑ナキトコロニシテ更ニ原始國家即チ王朝時代ヲ見ルニ當時ハ奴隸制度ノ時代トシテ茲ニモ亦ソノ社會制度ニ適合シタル私有財産ノ規定存在シ更ニ遼テ原始共產制ノ末期ノ状態ヲ見ヨ茲ニハ私有財産制度ニ對スル一般の萌芽ヲ發見スルコトヲ得ヘシ更ニ籲テ現代ノロシヤ即チ「社會主義ソビエツト共和國聯邦」ヲ見ヨ茲ニモ亦私有財産ハ事實トシテ存シ法規ニ於テ許容シ私權ノ保護全キヲ見ルヘシ唯「ソビエツト聯邦」カ他ノ資本主義國家ト相違スル點ハ生産機關（茲ニ所謂生産トハ分配マテヲ含ム分配ハ從屬的性質ヲ有スレハナリ）ノ國有ト國家ニ依ル管理ノ一點ニ存スルノミナリ即チ原始共產制奴隸制封建制資本主義制共產制夫々ノ制度ニ適應シタル私有財産ハ存在シ私權ノ保護全キヲ得ルモノナリ唯々資本主義制度ノ下ニ於テ私有財産ハ最大ノ保護ヲ得テ爛熟ノ絶頂ニ在ルノ差アルノミナリ即チ私有財産制度トハ一社會形態ニ特有ナル制度乃至ハ單一獨立ノ制度ニアラスシテ敍上ノ如キ如何ナル社會形態ノ下ニ於テ夫々適應シテ存在シ得ル社會的必然タル一ノ事實ニ過キサルナリ原判決カ本件被告等ヲ治安維持法違反ナリト斷スルニハ先ツ事實トシテノ私有財産制度ナル社會制度ノ存否如何若シ存在スルトセハ本件犯罪發生當時ノ日本ニ於ケル私有財産制度トハ如何ナル形態ヲ指稱スルモノナリヤニ關シテ事實ノ判斷ヲ爲スヘキ義務アリ然ルニ原判決ハ敍上ノ如ク虛無ノ事實タル私有財産制度ヲ當然ノ存在事實ナルカノ如ク前提シ

【要旨第一】

此ノ基礎ノ上ニ本件事實ノ全認定ヲ爲シタルハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト云フヘク同時ニ原判決カソノ理由中以上ノ點ニ關シ何等判示スルトコロナキハ一面事實並法律ニ關スル判斷ヲ遺脱シタル違法アルト共ニ又一面理由不備ノ違法アルモノナリト云フニ在レトモ○按スルニ私有財産制度ヲ根本的ニ破壊スルヲ目的トスルハ大正十四年法律第五十六號治安維持法第一條第一項ニ所謂私有財産制度ヲ否認スルヲ目的トスルモノニ該當スルモノト謂フヘク原判決ノ判示スル事實ニ依レハ被告人石井長治松崎豐作濱野勇一佐藤鐵之助等ハ共產主義ヲ實現スルコトヲ目的トスル黨ヲ組織センコトヲ謀議シ石井松崎ニ於テ其ノ黨組織ニ關スル規約ヲ作成スル等ヲ準備ヲ爲シタル上昭和二年八月二十七日名寄新藝術協會事務所ニ右被告人四名其ノ他數名會合シ同席上ニ於テ被告人石井長治ハ現在ノ社會制度ニ缺陷アリ之レ有産支配階級カ無産階級ヲ壓迫搾取シ労働ニ對スル賃金ヲ正當ニ支給セサルニ基因ス之ヲ防止スル手段トシテハ生産機關ヲ公有ニ歸セシメ分配ハ社會ノ手ニ依リテ労働ノ價值ニ相當シテ分配スルノ要アリ而シテ現在ノ資本的組織ヲ破壊シ共產主義的社會ヲ建設スル爲ニハ其ノ實現運動ヲ爲ス機關トシテ政治行爲ヲ爲ス結社ヲ組織スルコト急務ナルニ依リ吾々ハ共產主義者（コンミニュニスト）トシテ前衛分子（ケルン）ヲ以テ新藝術協會ノ上ニ立ツ集産黨ト稱スル結社ヲ組織スヘク其ノ黨ノ目的ハマルクス主義ヲ實行シ我國ニ於ケル私有財産制度ヲ否認シ産業機關ヲ社會公有ニ移シ以テ共產制度ヲ實現スルニ在リタルモノニシテ結局我國ノ私有財産制度

【要旨第二】

ヲ否認シ共產制社會ヲ實現スル目的ヲ以テ集産黨ト名ツクル結社ヲ組織シタルモノニ係リ其ノ生産機  
 關ヲ公有ニ歸セシメ共產主義的社會ヲ建設スル爲ト云ヒ又ハ目的ハ産業機關ヲ社會公有ニ移シ共產制  
 度ヲ實現スルニ在リト云フカ如キハ要スルニ私有財産制度ヲ根本的ニ破壊スルコトヲ目的トスルモノ  
 ニシテ即チ治安維持法第一條第一項ノ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスルモノニ外ナラス且我  
 國ニ於テ私有財産制度ノ行ハレ居ルコトハ顯著ナル事實ニ屬シ原判決カ判示事實ヲ認メテ之ニ同條項  
 ヲ適用シタルハ固ヨリ正當ニシテ原判決ニハ所論ノ如キ違法ナク又記録ヲ查スルニ原判決ニハ重大ナ  
 ル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナキヲ以テ論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ハ其ノ理由中「(一) 而シテ被告人石井長治松崎豐作濱野勇一佐藤鐵之助等カ共產主義實現ヲ目的トスル黨ノ組織ヲ謀議  
 シタルコト乃至被告人石井長治松崎豐作濱野勇一佐藤鐵之助北村順治郎等カ判示ノ如ク昭和二年八月二十七日名寄新藝術協會事務所ニ  
 於テ私有財産制度ヲ否認シ共產制社會ヲ組織シタル事實ハ(イ)原審第一回公判調査中被告人濱野勇一ノ供述トシテ之ヲ防止スル手段ハ  
 生産機關ヲ國家ノ有ニ歸セシメ分配ヲ國家ノ手ニヨリテ勞働ノ價值ニ應ジ報酬ヲ得セシメサルヘカラス而シテソノ實現ヲ計ル機關トシ  
 テ政治行動ヲ執ル集産黨ヲ組織スル必要アリ此ノ結社ハ……中略……集合シタル者ノ全部石井ノ説ヲ賛成シ集産黨ヲ結社シタル旨ノ記  
 載(ロ)被告人石井長治ニ對スル豫審第一回訊問調査中……中略……下層ノ無産者ニ對シ教化運動ヲナシ大衆ヲマルクス主義ニ獲得ス  
 ル組織ナル記載(ハ)被告人佐藤鐵之助ニ對スル豫審第一回訊問調査ニ同人ノ供述トシテ……中略……右統一機關タル黨ハ無産者解放  
 運動ノ前衛分子トシテ正統マルクス主義ノ集團ニシテ組織ハ執行委員制ヲ執リ……中略……(ニ)被告人松崎豐作ニ對スル豫審第一回  
 訊問調査中同人ノ供述トシテ集産黨ノ目的ハ政治ノ自由ヲ獲得ス換言スレバ資本主義的經濟組織ヲ否定シ共產主義的組織ニ社會制度モ  
 變革スルコトヲ圖ルナリ資本主義的經濟組織ヲ否定スルハ物質ノ生産過程全部ト要素ヲ民衆ニ共有ニ歸スルコトナリ例ヘハ土地鐵道礦  
 坑汽船其ノ他生産ヲ爲スモノハ總テ民衆ノ共有ニ歸スルコトトナリ集産黨ハ此上ノ事項ヲ實行スル萌芽形態ナリ石井ハソノ主宰トナリ

被告人等ハ之ニ加盟シ同黨ヲ組織シタル旨ノ記載(ホ)被告人北村順治郎ニ對スル豫審第三回訊問調査中同人ノ供述トシテ……中略……  
 無産者ナルマルクス主義ニ教化シ政治闘争ヲ目的トスル集産黨ヲ組織スルコトノ相談アリ……中略……下略(ヘ)被告人村山政儀ニ對ス  
 ル豫審第二回訊問調査中同人ノ供述トシテ……中略……各階級ニ進出シマルクス共產主義ニ教化シ共產主義ヲ實行シ行クナリト説明シ  
 タルニヨリ自分等モ賛成シタリ……中略……ナ綜合シテ之ヲ認定スルニ足リ(三)尙右結社ノ翌二十八日判示ノ如ク正式ニ黨員ヲ指定  
 シ役員ヲ選定シタルコトハ……以下略……ニヨリ其ノ證明十分ナリトスレト判示シタリ惟フニ原判決ハ私有財産制度ト資本主義制度  
 トナ同一ニ解シ更ニ共產主義ハ即チ私有財産制度ヲ否認シ共產制ノ下ニ於テハ財產私有ノ觀念ヲ容ルヘカラサルモノトシ共產主義實現  
 ナ目的トスルコトハ直ニ私有財産制度否認ノ結果ヲ豫想シ隨テ右目的ノ爲結社ヲ組織スルコトハ直ニ以テ治安維持法違反ニ該當スルモ  
 ノトノ誤レル前提ノ下ニ全判決ヲ構成シタルモノナリ「共產」ナル言葉ノ意義如何「共產」トハ財產ノ共有ヲ意味スルニ非スシテ生産  
 機關ノ公有ヲ意味スルモノナリ共產主義ヲ奉スル「ソビエツト」ノ權力下ニ私有財産カ店舖住宅ニ日用消費物ニ隨所ニ存在シソ  
 ノ私權カ國法ノ保護ヲ受ケツツアル事實ハ決シテ共產主義ノ主張ト矛盾スルモノニ非ルナリ奴隸制度封建制度資本主義制度ノ發展過程  
 カ過去ニ於テ示スカ如ク共產主義モ亦資本主義制度ヲ母胎トシテ資本主義爛熟ノ裡ヨリ即チ資本主義展開ノ内在的規則ヨリ必然的ニ共  
 産主義ノ綱領ノ産ミ出シタルモノナリ隨テソレカ一切ノ「私有財産」ソノモノノ撤廢ニ存スルニ非スシテ生産機關(前述ノ通り)分配過  
 程マテ含ム)ノ所謂資本制ヲ撤廢スルニ存スルコト論ヲ俟タサルコトナリ更ニ否認トハ如何否認トハ言論又ハ行動ヲ以テスル人間ノ  
 意思表示ナリ社會カソノ歴史の必然ニ隨テ生スル幾多制度上ノ變革ノ如キハ所謂否認ニ該當セサルモノナリ封建制度ト資本主義制度ト  
 共產主義制度ト下ニ於テ私有財産ノ範圍形態ソノ制限法律保護ノ程度等ニ於テモ必スシモ同一ニ非ス然レトモソノ如何ナル社會制度ノ  
 實現ヲ目的トスルニモ私有財産ノ撤廢乃至否認ト稱スヘキ理由ヲ發見シ能ハサルナリ「否認トハ通常ノ意味ニ於テハ事實存在スルニ  
 拘ラス之ヲ認メサル」コトヲ指稱スルナリ即チ現ニ被告人カ人ヲ殺シタルニ拘ラス公判ニ於テ人ヲ殺シタルハ被告ニ非スト主張スルカ  
 如キ之ナリ此ノ意味ニ於テ私有財産ノ否認トハ「余ハ私有財産制度ヲ認メス」ト言語又ハ實行ヲ以テ意思表示スレハ足ルモノナリ惟フ  
 ニ共產主義ノ目的トスルコトハ生産機關ノ公有ソノ社會ニ依ル管理ニアリテ私有財産制度ノ否認ニ非ルナリ生産ノ分配ト消費即チソ  
 ノ所有關係ニ至リテハ大多數民衆ノ資本主義制度ノ下ニ於テ極度ニ窮乏化シ今ヲ失フヘキ何物ナモ有セサル實情ニアリ寧ロ共產主義ノ

二、「私有財産制度否認ノ意義」ニ關スルモノ

目的トスル處ニ於テコソ民衆ノ主産物ノ所有ト生活資源ノ供給ハ亦全圖得ナルヲ期待シ得ヘキナリ原判決ハ共產主義即チ私有財産否認主義ト斷定シ被告等ノ前記供述中「マルクス主義實現」等ノ言葉ヲ取テ以テ直ニ私有財産否認ノ證據ト爲シタルハ探證ノ原則ニ反シ不當ニ事實ヲ認定シタル違法アルモノナリ就中被告等ノ供述中最モ具體的ナリト認メラルヘキ「土地鐵道礦坑汽船其ノ他ノ生産ヲナスモノハ總テ民衆ノ共有ニ歸スルコトナリ」トアル如キハ一見治安維持法ノ理想スル私有財産否認ニ該當スルコトナキヤノ疑ヲ生シ易シト雖土地鐵道礦坑汽船等カソノ一部國家ノ所有ニ歸シ國家ニ於テ之カ經營管理ナシツアルコト更ニ鹽煙草等ノ生産經營ヲ私人ニ禁シタルコトハ現在日本ニ於テ公知ノ事實ニシテ更ニ米事實全土地國有等ノ議(貴族院關係ニ於テ多額納稅議員ニ依リ現實ノ問題トシテ論セラレタルコトアリ)等アルモ何等治安維持法ニ依テ處斷セラレタルコトナカサルナリ或ハ無償大土地沒收ノ主張ノ如キ許スヘカラスト謂ハシモ斯ノ如キ事實ハ明治維新當時ニ於テ既ニ明治政府ハ大名ノ土地邸宅ヲナスヘテ沒收シタルニ非ヌヤ明治維新ハ封建制度ヲ撤廢シタルトモ之ヲ以テ私有財産制度否認ヲ實行シタルト稱スルコトヲ得サルナリ要スルニ財産私有ノ形態ヲ或ル特定ノ條件ノ下ニ於テ一社會制度ナリト認容シタルトスルモ私有財産制度ノ否認ナル行爲ハ唯物辯證法ノ理論ノ上ニ科學的眞實ヲ把握シツツアル共產主義者ノ夢想タニセサルトコロニシテ治安維持法ハ共產主義トハ異レルニ向ケテ放テタルモノナリ仍テ案スルニ原判決ハ(1)資本主義制度ト私有財産制度トナ混同シ資本主義制度即私有財産制度ヲ認シタル點ニ於テ重大ナル事實誤認ヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アリ(2)共產主義ノ意義本質並其ノ目的ヲ摘示セスシテ共產主義ヲ以テ直ニ私有財産制度否認ヲ目的トスルモノナリト認定シタル點ニ於テ理由不備ノ違法アルト共ニ重大ナル事實誤認ヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アリ(3)私有財産制度ノ否認トハ何シヤソノ内容ヲ摘示セスシテ「生産機關ノ公有例ヘハ土地鐵道礦坑汽船其ノ他生産ヲナスモノハ總テ民衆ノ共有ニ歸スル」コトヲ直ニ私有財産制度ノ否認ト認定シタルハ理由不備ノ違法アルト共ニ重大ナル事實誤認ヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アリ(4)原判決ノ摘示シタル全證據ヲ綜合スルモ集産黨カ「私有財産制度否認」ヲ目的トスル結社ナルコトヲ認ムヘキ何物モナシ原判決ハ證據ニ依ラズシテ事實ヲ認定シタル違法アルモノナリ(5)原判決ハ財産私有ノ形態範圍等ニ關スル變革ト之カ否認トナ混同シタルモノニシテ重大ナル事實誤認ヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アリト云フニ在レトモ○原判決ノ認メタル被告人等ノ行爲カ前掲治安維持法第一條第一項ニ該當スル所以ハ前項ニ說示スル所ノ如シ原判決ハ其ノ判示事實ニ對シ證據ヲ舉示シ之ヲ認メタル所以ヲ説明シ毫モ其ノ理由ニ缺欠ル所ナク從テ原判決ニハ所論ノ如キ違法ナク且又重大ナ

ル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナキヲ以テ論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事三橋市太郎關與



(二)

治安維持法違反被告事件

(昭和七年(九)第七〇六號 棄却)  
同年七月七日第二刑事部判決

【上告人】 被告人 服部 夢生 辯護人 (大森 隆 夫)

【第一審】 大阪地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○ 判 示 事 項

一切ノ財産私有ヲ否認スルニ非サル場合ト治安維持法第一條第二項ノ適用

○ 判 決 要 旨

一切ノ財産私有ヲ否認スルモノニ非ストモ苟モ土地資本生産機關等重要財産ノ私有ニ關スル國法ノ保護ヲ排斥シ之ヲ撤廢ヲ期スルモノナル以上ハ我國法ノ認ムル私有財産制ヲ根本的ニ破壞スルモノニシテ治安維持法第一條第二項ニ所謂私有財産制度ノ否認ニ該當スルモノトス

【參照】 治安維持法第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上  
二、「私有財産制度否認ノ意義」ニ關スルモノ

ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニ  
 スル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス  
 私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、結社ニ加入シタル  
 者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ  
 處ス  
 前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役八年ニ處シ原審ニ於ケル未決  
 勾留日數中三百五十日ヲ本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ高等小學校一學年終了後電機學校ヲ經テ計器試驗所ニ奉職シ其ノ後遞信省第三種電氣主任技  
 術者檢定試験ニ登第シ大正十三年十二月頃荒畑勝三ノ推舉ヲ受ケ翌十四年一月頃ソグヰエト・ロシヤ  
 モスクワ所在スターリン東洋勤勞者共產主義大學ニ學ヒ卒業後同大學師範科ニ進ミ傍ラ同大學日本人  
 學生ノ爲ニ通譯ノ勞ヲ執リ居タルカ昭和三年十月末頃國際共產黨執行委員片山潜ヨリ歸國後ハ日本共  
 産黨及日本共產青年同盟ノ擴大強化ノ爲ニ努力スヘキ旨激勵セラレテ之ヲ承諾シ向仲寅之助等ト相前  
 後シテ歸國シタル者ナルトコロ

日本共產黨カ國際共產黨ノ一支部トシテ又日本共產青年同盟カ國際共產青年同盟ノ一支部トシテ孰レ

モ我君主制ヲ廢止シ私有財産制ヲ撤廢シ無産階級ノ獨裁ヲ階段トシテ共產主義社會ヲ建設スルコトヲ  
 目的トスル秘密結社ナルノ情ヲ知リ乍ラ犯意ヲ繼續シテ

第一 昭和四年二月中旬頃東京市本郷區順天堂病院附近街路ニ於テ日本共產青年同盟中央委員佐野博  
 ヨリ同同盟ニ加入シテ活動スヘキ旨ノ勸誘ヲ受クルヤ即時之ヲ承諾シテ同同盟ニ加入シ同年四月末  
 頃右博ヨリ同同盟ノ大阪地方ニ於ケル組織ノ準備ヲ爲スヘキ旨ノ指令ヲ受ケ爾來同地方ニ於テ同同  
 盟ノ爲ニ活動シ

第二 昭和四年九月初旬頃大阪市内ニ於テ當時日本共產黨大阪地方組織責任者タリシ變名中島某ヨリ  
 同黨ニ加入シテ同黨ノ大阪地方ニ於ケル組織ニ努力スヘキ旨ノ勸誘ヲ受クルヤ即時之ヲ承諾シテ同  
 黨ニ加入シ同黨ノ大阪市第三地區責任者ト爲リ其ノ後大阪地方委員會委員ト爲リ

タルモノナリ  
 律律ニ照スニ被告人ノ判示各所爲ハ孰レモ一面ニ於テ國體ノ變革ヲ目的トスル結社加入ノ所爲トシテ  
 治安維持法第一條第一項後段ニ又他面ニ於テ私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル結社加入ノ所爲トシテ  
 同法第一條第二項ニ各該當スルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ夫々重キ前者ノ刑ニ從  
 フヘキトコロ右ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ連續一罪トシ結局前示治安維持法第  
 一條第一項後段ノ刑ニ從フヘク所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ主文掲記ノ刑

ニ處シ刑法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中三百五十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス  
○主 文  
本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書第一點(中略)日本共産黨カ其ノ闘争ノ對象トスル資本主義的所有關係ノ私有財産制度トハ單ニ有體物ニ對スル占有權及之ニ基ク諸權利ノ制度ニ非スシテ一定ノ生産關係ヲ意味スルナリ人間トシテ生ルルヤ否ヤ必ス此ノ生産關係ニ入り此ノ關係ヨリ孤立シテ生存スルコト能ハス然ルニ私有財産制度ニヨリ生産物ヲ生産スルニ必要ナル原料機械資本等ハ總テ資本家ノ獨占スル所ナリ其ノ結果生産物ハ生産者タル労働者ニ屬セス悉ク資本家ニ屬スルニ至レリ日本共産黨ハ此ノ資本主義的私有財産制度ノ撤廢ヲ要求スルノミ即チ人間ヨリ人間ノ搾取ノ廢止ヲ要求スルノミナリ治安維持法中ニアル私有財産制度トハ日本共産黨ノ前述ノ意味ノモノニ非ス日本ノ法律ニ規定セラレタル私有財産制度ノ内容ハ資本家地主ノ私有スル資本生産機關土地ノミニ限ラス労働者ノ賃金給料自作農小作農等ノ財産ヲモ包含スレトモ日本共産黨ハ労働者ノ賃金給料等ヲ私有財産ト認メス又自作農小作農等ノ財産ヲ暴力ヲ以テ廢止セントスルモノニ非ス故ニ日本共産黨ノ私有財産制度ノ撤廢ハ治安維持法ノ私有財産制度ノ否認ニ該當セスト云ヒ」同第二點ハ日本共産青年同盟(共青)ニ對シ治安維持法ヲ適用シタル

ハ違法ナリ上來ノ説明ニ依リ日本共産黨ニ治安維持法ヲ適用スルコトノ違法ナルコト明カナレハ同法ヲ日本共産青年同盟ニ適用スヘカラサルコト勿論ナリ殊ニ日本共産黨ハ全プロレタリア階級闘争ヲ指導スルプロレタリアノ組織ニシテ日本共産青年同盟ハ其ノ階級ノ一部タル青年大衆ノ組織ニシテ二者各異ナリタル目的ヲ有シ同一ニ非ス日本共産青年同盟ハ日本共産黨ノ指導ノ下ニアルモ司命ノ下ニ非ス指導ノ下ニアレハトテ指導者ト被指導者カ同一目的ナリト云フヲ得スト云ヒ」辯護人大塚力上告趣意書第一點ハ原判決ハ理由不備ノ違法アリ原審判決ハ其ノ理由中ニ於テ「日本共産黨カ國際共産黨ノ一部トシテ又日本共産青年同盟カ國際共産青年同盟ノ一支部トシテ孰レモ我カ君主制ヲ廢シ私有財産制ヲ撤廢シ無産階級ノ獨裁ノ階段トシテ共産主義社會ヲ建設スルコトヲ目的トスル秘密結社ナルノ云々」ト説述シヲレトモ日本共産黨及日本共産青年同盟カ果シテ斯ノ如キ目的ヲ有スル秘密結社ナリヤ否ヤハ公知ノ事實ト云フヘカラサルハ勿論之ヲ以テ直チニ君主制ヲ廢シ私有財産制ヲ撤廢スルコトヲ目的トスル秘密結社ナリト斷定シタルハ其ノ理由不備ノ違法アルモノト云フヘシ惟フニ日本共産黨及日本共産青年同盟ノ根本目的カ治安維持法違反ニ該當スルモノナリト認定セラレルノ根據ハ同黨及同同盟ノ政治テーゼ組織テーゼスローガン等ニ由ルモノナランモ之等ハ孰レモ同黨及同同盟ノ根本目的ヲ表示シタルモノニ非スト謂ハサルヘカラス即チテーゼナルモノハ當面ノ方針意見書ト稱スヘキモノニシテ一定ノ根本目的ナルモノヲ記述スヘキ性質ノモノニ非ス又スローガンニハ政綱政策ト異リ結

社ノ根本目的ヲ決定シ乃至ハ行動ノ基準ヲ定ムルモノニ非ス單ニ大衆動員ノ旗印トシテソノ時々ニ應シテ掲揚スル一時的ノ合言葉ニ過キサルモノナリ從テ日本共產黨及日本共產青年同盟當面ノスローガン中ニ「君主制ノ撤廢」ヲ掲ケタリトスルモノヲ以テ同黨及同盟ノ根本目的乃至政綱ナリト斷定スヘカラス要之テ「セスローガン」等ハ各國ノ共產黨ノ「セスローガン」ニ於ケルト同シク共產黨ノ根本目的ヲ表示シタルモノニ非スシテ當該社會發展ノ諸條件ヲ具體的ニ指摘シ勞農大衆ノ當面ノ要求條件ヲ指摘シソレニ基キ活動シ政治上經濟上ニ於ケル大衆の行動ニ大衆ヲ動員スル合言葉ニシテ勞働者階級ノ必然的要求ノ異ナルニ從テ異リ變化スルモノナリ要之日本共產黨及日本共產青年同盟ノ根本目的ハソノ「セスローガン」及ソノ他ノ文書等ノ内容ヲ探究スレハ畢竟スルニ其ノ根本目的トスル所ハ勞働者階級ノ權益ヲ眞實ニ擁護スルコトニアリ原審判示ノ如キ君主制ノ廢止私有財産制ノ撤廢ヲ根本目的トスルモノニ非スト云ヒ」同第二點ハ假ニ一步ヲ譲リ日本共產黨ノ根本目的ヲ以テ君主制撤廢私有財産制ノ否認ニ在リトナスモ之ヲ以テ日本共產黨ト日本共產青年同盟トハ窮極スル所同ニナリトナシ日本共產青年同盟ヲ以テ日本共產黨ノ貯水池ト視日本共產青年同盟ハ將來共產黨ニナルヘキ者ヲ教育スルト云フ立場ニアルモノト斷定スルハ輕卒ナリ同黨ト同盟トハ其ノ組織カ全然獨立シ居リ從テ其ノ機關モ自ラ相違シテヨリ後者ハ階級闘争ノ理論ノ下ニ青年ヲ教育シ青年ノ要求ヲ容レ之ヲ指導シテ行クト云フ立場ニアリ君主制ノ撤廢私有財産制ノ否認ヲ目的トスルモノニ非ス然ルニ之

ヲ以テ日本共產黨ノ指導下ニアルモノナリトナスニ至ツテ恰モ無産者解放ヲ叫ビ之カ運動ヲナス一般勞働組合ヲモ黨ノ指導下ニアルモノナリト論スルト其ノ軌ヲ一ニスルモノト云フヘシ兩者ハ事實上同一テナク各獨自ノ立場ニアルモノニシテ同盟ノ根本目的ヲ以テ君主制ノ撤廢私有財産制ノ否認ヲ目的トスル秘密結社ナリト論スル同盟ノ根本目的ノ認定ニ當リ重大ナル事實ノ誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト云フヘシト云ヒ」辯護人大森詮夫上告趣意書第一點ハ原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アル不法ノ判決ナリ即チ原判決ハ「日本共產黨カ國際共產黨ノ一支部トシテ又日本共產青年同盟カ國際共產青年同盟ノ一支部トシテ孰レモ我君主制ヲ廢止シ私有財産制ヲ撤廢シ無産階級ノ獨裁ヲ階段トシテ共產主義社會ヲ建設スルコトヲ目的トスル秘密結社ナルノ情ヲ知り乍ラ犯意ヲ繼續シテ云々」ト判示シテ居ル然シ此ノ認定カ第一ニ日本共產黨ノ目的ニ就テ重大ナル誤認アルモノナリコミンタンノ目的從テ又日本共產黨ノ目的ハ同黨中央委員長佐野學氏ニ依レハ「コミンタンノ直接ノ目標ハ世界中ニ於テプロレタリア獨裁ヲ立テソウシテ社會主義ノ社會ヲ建設スルコトカ直接ノ目標テアリマス」ト云フ階段ハ共產主義ノ最初ノ第一階段テアリマシテ此ノ社會ヲ通り過キタ後ニ於テ眞ノ世界共產主義ト云フモノカ成立スル譯テアリマス共產インターナショナルノ性質及目的ハ大體ヲ申セハサウ云フモノテアリマス」(東京地方裁判所公判速記録)又同黨中央委員三田村氏ハ「日本共產黨ハ唯今申シマシタコノ階級闘争ノ勞働者軍ノ前衛テアリマシテ要スルニブルジョアノ手カ

ラ政權ヲ奪取シテプロレタリア獨裁ヲ樹立シブルジョア階級ノ労働者ニ對スル搾取ソノ支配ヲ廢絶スルコトヲ目的トスルところノ労働者階級ノ政黨テアル然ルニ日本ノブルジョア階級ハ我黨ヲ自己ノ政敵トシテ闘フコトヲセスニ君主ニ對スル敵トシテ吾々ヲ犯罪者ナリトシテ告發シテ居ルノテアリマス」(東京地方裁判所刑事二部公判速記録)ト主張シテ居ル即チ日本共産黨ノ目的ハ日本共産黨ノ右代表的意見ニ依レハ原判決ノ認定ト根本的ニ相違スルモノニシテ同黨ノスローガン中ニ「君主制ノ撤廢」ナル語アルモ右ハ同黨ノ目的又ハ根本目標ニ非サルコトハ前掲佐野三田村氏等ノ主張ニヨリテ明白ニシテ日本共産黨ヲ規定スルニ當リ事實ト符合セサルハ正ニ治安維持法違反事件ニ於ケル最モ重大ナル事實ノ誤認ト謂フノ外ナシ第二ニ原判決認定ハ單ニ日本共産黨カ「君主制ヲ廢止シ」云々ト判示セルノミニシテ果シテ君主制ノ廢止カ治安維持法ノ所謂國體ノ變革トナルヤ否ヤニ就テハ何等ノ説明セス然レトモ日本裁判例上國體變革ニ就キテ或ハ「吾國家存立ノ大本タル立憲君主制ヲ廢止シ」又ハ單ニ「君主制ノ廢止」ト判示シテ未タ統一的主張ヲ見ス從ツテ「君主制ノ廢止」カ國體變革ト如何ナル關係ヲ有スルカハ判決ニ於テ之ヲ明的ニ判斷シ説明セサルヘカラサルモノナリ此ノ點ニ於テ原判決ハ判決ニ理由ヲ附セサル違法アリト謂ハサルヘカラスト云フニ在レトモ

## 【要旨】

原判決ノ判示スル所ニ依レハ日本共産黨並日本共産青年同盟(共青)ハ共ニ我カ君主制ヲ廢止シ私有財産制ヲ撤廢シ無産階級ノ獨裁ヲ階段トシテ共產主義社會ヲ建設スルコトヲ目的トスル秘密結社ニシテ

該事實ハ原判決引用ノ證據ニヨリ之ヲ認定シ得ヘク記録ヲ精査スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナシ而シテ我大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇君臨シ統治權ヲ總攬シ給フコトヲ以テ其ノ國體ト爲スハ建國ノ肇ヨリ確立シテ無窮ニ傳ハリ憲法首條ノ昭示スル所ナリ治安維持法第一條ニ所謂國體ノ意義モ亦之ニ外ナラサルカ故ニ君主制ノ廢止ハ同條ニ所謂國體ヲ變革スルモノニ該當スルコト論ヲ竣タス次ニ原判示日本共産黨並日本共産青年同盟ノ目的トスル私有財産制ノ撤廢ハ縱令所論ノ如ク一切ノ財産私有ヲ否認スルモノニ非ストスルモ苟モ土地資本生産機關等重要財産ノ私有ニ關スル國法ノ保護ヲ排斥シ之カ撤廢ヲ期スルモノナル以上ハ我國法ノ認ムル私有財産制ヲ根本的ニ破壞スルモノニシテ治安維持法第一條ニ所謂私有財産制度ノ否認ニ該當スルモノト云ハサルヘカラス果シテ然ラハ原審カ判示事實ヲ治安維持法第一條第一項第二項ニ該當スルモノト認メ同法條ヲ適用處斷シタルハ毫モ違法ニ非ス且又原判決カ日本共産黨並日本共産青年同盟ハ執レモ我君主制ヲ廢止スルコトヲ目的トスルモノナルコトヲ判示スル以上治安維持法第一條第一項冒頭ニ所謂國體變革ニ該當スル事實ヲ判示スルニ付缺クル所ナキヲ以テ原判決ハ大森辯護人所論ノ如キ理由不備ノ違法アルコトナシ論旨ハ執レモ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與



○事 實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役七年ニ處ス但シ原審ニ於ケル未決勾留日數中四百日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

日本共産黨ハ我カ建國ノ大本タル君主制ヲ撤廢シ私有財産制度ノ基調トスル資本主義社會ヲ顛覆シ「プロレタリアート」獨裁ノ制度ヲ樹立シ之ニ依リテ共産主義社會ヲ實現セシムルコトヲ企圖スル非合法結社ナルトナリ

被告人ハ東京合同労働組合常任委員長關東地方評議會中央委員等ヲ爲シ大正十三年以來各種爭議ヲ指導シ社會運動ニ從事シ共産主義ヲ信奉スルニ至リシモノナルカ大正十五年四月頃東京市本所區大平町東京合同労働組合本部事務所内渡邊政之輔ノ居室ニ於テ同人ヨリ共産黨ニ加入スヘキ旨ノ勸誘ヲ受クルヤ之ヲ承諾シ其ノ後大島英夫等ト屢々秘密ニ會合シテ雜誌マルクス主義、無産者新聞等ノ論說ニ付テノ研究等ヲ重ネ居ル内昭和二年四月ニ至リ右會合ハ日本共産黨ノ細胞會議ニシテ自己カ既ニ同黨員ト爲リ居ルコトヲ認識シ且同黨ハ前記ノ如キ目的ノ秘密結社ナルコトヲ知リナカラ爾來其ノ目的ヲ遂行センカ爲

第一 昭和二年五月頃ヨリ同年十二月頃迄ノ間大島英夫直井武夫佐藤安衛(後ニ松尾直義喜入虎太郎加ハル)等ト同黨ノ細胞ヲ構成シ該期間中東京市牛込區早稻田鶴卷町大島英夫方其ノ他ニ於テ秘

密ニ開カレタル細胞會議ニ數回出席シ右細胞員等ト共謀ノ上勞農一派中ノ優秀分子ト意思疎通ヲ圖リ若シ不成功ノ場合ハ果敢ナル理論闘争ニ依リテ左翼運動ヨリ除外スヘキコト工場新聞ヲ發行スルコト等ニ付協議決定シ

第二 昭和三年二月初旬頃ヨリ同月下旬頃迄ノ間南喜一 島上善五郎 上田茂樹 森岡嘉門次 内屋博等ト同黨ノ所謂市電龜澤町車庫工場細胞ノ構成員トナリ該期間中同市小石川町竹早町内屋博方ニ於テ秘密ニ開カレタル細胞會議ニ出席シ右細胞員等ト共謀ノ上市電自治會本部車庫従業員ノ誠首問題ニ對スル對策工場新聞發行ノ件其ノ他ノ事項ニ付協議決定シ

第三 同年一月下旬頃關東地方委員會所屬出版局員ヲ命セラレ同年四月五日頃迄ノ間同市芝區三田四國町關東地方評議會本部其ノ他ニ於テ平井直 村尾薩男其ノ他ノ者ヨリ交付ヲ受ケタル原稿其ノ他ニ基キ同市小石川區小石川小日向町皆川某方其ノ他ニ於テ

(一)「五十四議會の解散總選舉に對して聲明す」

(二)「選舉方針書並同方針書増補訂正」

(三)「十日夜の演說會示威運動敢行に當り全關東の黨員諸君並戰闘的労働者諸君に檄す」

(四)「革命的労働者農民に對する黨候補者演說要旨」

(五)「労働黨中央「フラクション・ビューロー」指令第二號」

二、「私有財産制度否認ノ意義」ニ關スルモノ

(六)「共產黨の政策」

(七)「大山氏を擁して東京驛から芝へ大衆的示威運動を執行せよ」

(八)「日本共產黨關東地方「ビューロー」ノ署名アル「昨年の金融の恐慌の時」云々ト冒頭セル檄文

(九)「赤旗第五號同志第一、二號」

(十)「總選舉に當つて労働者貧農大衆に檄す」

(十一)「日本共產黨中央委員會ノ署名アル「全國の労働者農民諸君」云々ト冒頭セル檄文

(十二)「大衆的威力で資本家を叩き伏せ労働者の利益を奪取せよ」

(十三)「日本共產黨の檢舉瀕々と相續き全國で無慮七百名の闘士拘引さる」

(十四)「田中反動内閣は暗々裡に共產黨の彈壓を策し労働者農民の精鋭を續々拘留す」

(十五)「政府は我共產黨を彈壓せんとして全國に互り労働者農民一千名を檢束拘留す」

(十六)「日本共產黨ノ署名アル「共產主義的學生諸君」ト冒頭セル檄文

等諸種ノ黨文書各數百部ノ印刷ヲ爲シ該期間中數回ニ右村尾薩男其ノ他ノ者ニ交付シ

タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ犯時法ニ從ヘハ大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條第一項

後段ニ該當スルトコロ同法ハ犯罪後タル昭和三年六月二十九日勅令第二百二十九號ニ依リ改正セラレタルヲ以テ刑法第六條第十條ニ則リ新舊兩法ヲ比照シ輕キニ從ヒ處斷スヘキモノナルニ依リ之ヲ新法ニ照スニ判示國體ヲ變革スルトヲ目的トスル結社加入ノ點ハ同法第一條第一項後段ノ加入罪ニ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル結社加入ノ點ハ同法第二項ノ加入罪ニ各該當シ以上ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ前者ノ罪ノ刑ニ從フヘキモノトス仍テ前示法條ニ則リ新舊法ヲ比照スルニ舊法ノ刑輕キヲ以テ之ニ從ヒ其ノ懲役刑ヲ選擇シ所定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役七年ニ處シ尙刑法第二十一條ニ基キ原審ニ於ケル未決勾留日數中四百日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人今野健夫上告趣意書ノ要領ハ(一)原判決ハ日本共產黨カ治安維持法違反ナリトノ前提ニ基キテ爲サレアリ此ノ前提カ正當ナリヤハ裁判官ノ決定スルトコロナリトハイヘ同法ヲ適用シ得サル共產黨ニ對シ之ヲ適用スルハ正當ニ非ス被告人ハ檢事又ハ裁判官カ考フル如キ共產黨ニ關係スルモノニ非サレハ被告人ノ行爲ヲ同法ニ依リテ處斷スルハ不當ニシテ被告人ハ斯ノ如キ裁判ニ對シ根本的ニ且全

二六「私有財産制度否認ノ意義」ニ關スルモノ



體的ニ反對シ更ニ正當ナル裁判ヲ要求スルナリ法律的ニ云ヘハ日本共産黨ハ國體ノ變革私有財産制度否認ヲ以テ目的トスル秘密結社ニ非サルニ拘ラス檢事ハシカク解釋シテ起訴シタルモ豫審終結決定書ニ於テハ夫レカ區々トナリ居リ第一審裁判長ハ其ノ判決ニ於テ日本共産黨カ右ノ如キ目的ヲ有スル秘密結社ナリト認定セサルニ拘ラス之ニ治安維持法ヲ適用シテ其ノ理由ヲ示サス第二審判決亦之ヲ明確ナラシメサルナリ共産黨ノ如何ナルモノナルヤヲ明確ナラシムルニハ統一公開ノ裁判ニ據ラサルヘカラサルニ原審ハ反對ニ分割的個別的ニ裁判ヲ爲セルハ失當ナリ日本共産黨ヲ治安維持法ニ該當セシムルコトハ同黨彈壓ナル階級的闘争ヲ合理化合法化スルモノニシテ共産黨事件ノ裁判ハブルジョア階級ノ階級闘争ヲ合理化シ合法化スルコトヲ目的トスルコトニ外ナラス(二)裁判官ハ日本共産黨カ治安維持法ニ違反スルハ國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認スルカ故ナリト云フ其ノ國體ノ變革ト爲スモノハ同黨カ君主制ノ廢止或ハ天皇制ノ廢止ト云フスローガンヲ掲ケタリト云フニ在リ檢事ノ論告ハ君主制ノ廢止即チ國體ノ變革ニシテ國體ハ國民ノ歴史的確信ニ基クモノナリト云フモ斯クノ如キ歴史的確信カアリ得サルカ故ニ共産黨カ君主制廢止ノスローガンヲ掲ケルハ決シテ檢事ノ論告ニ於ケル意味ノモノニ非ラス共産黨ハ労働者農民ノソビエツト權力ノ樹立トシテノ闘争ヲスローガントシテ此ノ君主制廢止ト云フスローガンヲ掲ケルモノニシテ檢事論告ノ如キ單ナル國體ノ變革ト云フ一方の無政府的ノモノニ非サルナリ司法省當局ノ解説ニ依レハ國體ノ變革トハ具體的ニ云ヘハ君主制ヲ共和制度又ハ

ソビエツト制度ト爲スコトナリトアリ然レトモ君主制ヲ廢シテ共和制等ニスルコトハ本質的變革ニ非スシテ單ニ政治形態ノ變革ニ過キサルナリ(三)次ニ日本共産黨カ治安維持法違反ナリトスル理由ハ私有財産制度ノ否認ト云フコトナリ其ノ具體的證據ハ共産黨カ大土地ノ無償沒收或ハ大土地所有ノ廢止ト云フスローガンヲ掲ケタルコトニ過キス大土地ヲ無償沒收シ大土地所有制ヲ廢止シタルミニテハ決シテ私有財産制度ノ否認トナラス何トナレハ大工場鑛山銀行等所謂大産業ハ依然トシテブルジョア階級ノモノナレハナリ又土地ヲ沒收スルモ之ヲ農民ニ分配スルナラハ之ヲ以テ決シテ私有財産制ノ否認トハナラス殊ニ中小農ノ土地ヲ無償沒收シタリ土地所有制ヲ廢止シタリ爲ササル限り未タ同制度ノ否認ト云フヲ得サルナリ(四)檢事ノ論告ニ社會ノ基礎タル私有財産制度云々トアリタリ然レトモ社會ヲ以テ數百萬ヲ算スル労働者又ハ農民或ハ中小商工業者其ノ他サラリーマン等即チ人民ノ大多數者ヲ指シテ云フモノトスレハ明ニ是等ノ大多數者ハ私有財産ヲ所有セサル無產者ニシテ私有財産制度ハ此等ノ社會ノ基礎ヲ爲ササルナリ同制度ノ否認トハブルジョア私有財産制度ノ否認ニ過キスシテ斯カル制度ノ否認ハ社會ノ基礎ヲ破壊スルモノニ非ス(五)裁判官カ共産黨ハ治安維持法違反ナリト判決スルモ被告人ハ全然之ニ反對スルモノナリト論シ獨自ノ見解ヨリ日本共産黨ノ主義精神ヲ説明シテ反覆理論闘争ヲ試ミ被告人等ノ行動ハ同法違反ニ非サルニ依リ無罪即時解放ヲ要求スルモノナリ然ルニ原審ハ被告人ヲ以テ同黨ニ加入シ其ノ活動ヲ爲シタルモノナリト認メ同法ニ依リ懲役七年未決勾留日

數四百日通算ノ判決ヲ爲シタリト雖モ六箇年以上ノ未決勾留ニ對シ四百日ノ通算ハ過少ナルノミナラ  
ス七年ノ懲役ハ過重ナリ仍テ上告ニ及フト云フニ在レトモ

(一) 原判示事實ハ原判決舉示ノ證擧ニ依リテ優ニ之ヲ證明スルニ足ル之ニ依レハ被告人、日本共產  
黨カ我國建國ノ大本タル君主制ヲ撤廢シ私有財産制度ノ基調トスル資本主義社會ヲ顛覆シプロレタリ  
アト獨裁制度ヲ樹立シ之ニ依リテ共產主義社會ヲ實現セシムルコトヲ企圖スル非合法結社ナルコト  
ヲ知リナカラ之ニ加入シ原判示ノ如キ同黨ノ目的遂行ノ行爲ヲ爲シタルモノナルコト明白ニシテ右ハ  
大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條第一項後段ニ該當スル犯罪ヲ構成スルモノトス記録ヲ精  
査スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルヲ認メス又裁判所カ共同被告事件ヲ分離シテ審判スルト否  
トハ其ノ職權ニ屬スルモノナルカ故ニ原審カ當該事件ヲ分離シテ個別的ニ審判シタリトスルモ毫モ違  
法ノ處置ニ非ス所論ハ畢竟原審ト相容レサル獨自ノ見解ニ基キテ原審ノ職權ニ屬スル事實認定ヲ非議  
シ以テ被告人ノ行動ヲ以テ同法ニ問擬處斷シタルハ不可ナリト做スモノニ外ナラス其ノ他ノ第一審判  
決等ニ對スル非難ノ如キハ元來第二審ノ判決ニ對スル不服申立ノ方法ナル上告理由トシテハ適法ナル  
モノニ非ス(二)我國ハ萬世一系ノ天皇君臨シ統治權ヲ總攬シ給フコトヲ以テ其ノ國體ト爲シ治安維持  
法ニ所謂國體ノ意義毫モ之ニ異ラス而シテ我君主制ヲ廢止スルコトハ即チ右ニ云フトコロノ國體ノ變  
革ヲ招來スルモノニ外ナラサルカ故ニ右君主制ヲ撤廢シプロレタリアト獨裁制度ヲ樹立シ之ニ依リ

【要旨】

テ共產主義社會ヲ實現セシムルコトヲ企圖スル非合法的結社ハ即チ同法ニ所謂國體ノ變革ヲ目的トス  
ル結社ニ該當スルモノトス所論ハ畢竟原審ト相容レサル獨自ノ見解ニ基キテ日本共產黨ハ治安維持  
法ノ結社ニ該當セスト爲シテ原判決ヲ攻撃スルニ歸シ採用スヘカラス(三)現行法ノ下ニ在リテハ資本  
階級所有ノ大土地ト雖固ヨリ法律ノ保護ヲ受クヘキモノニシテ斯カル土地ヲ非合法的ニ無償沒收シ之  
カ所有權ヲ無視スルカ如キハ我國法ノ認許セル私有財産制度ノ重要ナル成素ヲ破壞スル結果ヲ來スヘ  
キモノナレハ治安維持法ニ所謂私有財産制度ノ否認ニ外ナラサルカ故ニ日本共產黨カ右ノ如キ所有權  
ノ廢止ヲ爲シ延イテプロレタリアト獨裁ヲ樹立シ共產主義社會ノ實現ヲ企圖スル以上私有財産制度  
否認ヲ目的トスル結社ナルコト言ヲマタサルトコロニシテ他日沒收土地ヲ農民ニ分配スルト否トハ右  
制度否認ノ觀念ニ消長ヲ來スモノニ非ス所論採用スヘカラス(四)所論ハ專ラ檢事ノ論告ニ對スル  
攻撃ナルモ上告ハ原判決ニ關スル不服申立ノ方法ナレハ右ノ如キハ適法ナル上告理由ニ非サルナリ  
(五)被告人ノ原判示行爲カ前記治安維持法第一條第一項後段ニ該當スル犯罪ナルコトハ敍上(一)  
ニ於ケル説明ニ依リテ明瞭ナリトス要之所論ハ原審ト相容レサル獨自ノ見解ニ基キテ日本共產黨ノ主  
義目的ヲ縷述シテ被告人ノ所爲ハ同法ノ支配ヲ受クヘキモノニ非スト爲スヲ以テ主眼トスルモ日本臣  
民タル者ハ何人ト雖日本法律ニ服從スヘク之カ服從義務ヲ否定スルカ如キハ國法ノ許ササルトコロナ  
リ更ニ記録ヲ精査シ犯行其ノ他諸般ノ情狀ヲ考量スルモ原審ノ量刑甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著

二、「私有財産制度否認ノ意義」ニ關スルモノ

二、「私有財産制度否認ノ意義」ニ關スルモノ

七二

ナル事由アルヲ認メス爾餘ノ所論ハ現行法ノ規定ニ照シ原裁判ノ違法ナル點ヲ指摘攻撃スルモノニ非サルカ故ニ上告ノ適法ナル理由ト爲スヲ得ス論旨總テ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事棚町丈四郎關與

三、「結社ノ意義」ニ關スルモノ

(一) 治安維持法違反殺人未遂公務執行妨害傷害被告事件

(昭和六年(九)第一七八五號 棄却)  
同七年四月二十八日第一刑事部判決

【上告人】 被告人 阿部 作藏 辯護人 越村安太郎  
細道兼光郎  
河合 長治  
布施 長治

【第一審】 横濱地方裁判所 【第二審】 東京控訴院  
○ 判示事項

國體ノ變革私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル結社——上告審ニ於ケル未決勾留日數ノ算入

三、「結社ノ意義」ニ關スルモノ

七三

一治安維持法ニ所謂結社ハ必シモ其ノ結社獨自ノ力ニヨリテ其ノ目的ノ實現ヲ爲シ得ル組織體タルコトヲ要セ又他ノ同一目的ヲ有スル結社ト相俟チテ其ノ目的ヲ實現セントスル結社モ亦右ニ所謂結社タルモノトス【要旨第一】

二上告裁判所ハ上告審ニ於ケル未決勾留日數ヲ本刑ニ算入スル言渡ヲ爲シ得ルモノトス【要旨第二】

【參照】治安維持法第一條

團體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又

ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス  
私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

刑法第二十一條 未決勾留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

○事實

第二審ニ於テハ左ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人作藏ヲ懲役十五年ニ被告人友之助ヲ懲

役五年ニ被告人千代吉 庄一 喜久雄ヲ各懲役四年ニ被告人喜一ヲ懲役三年ニ被告人煒澤ヲ懲役二年六月ニ被告人一夫ヲ懲役二年ニ處シ未判勾留日數中被告人作藏 千代吉 友之助 喜一ニ對シテハ各二百十日被告人庄一 喜久雄 煒澤 一夫ニ對シテハ各百七十日ヲ右各本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
日本共產黨ハ我國家存立ノ大本タル君主制ヲ廢止シテ國體ヲ變革シ尙私有財産制度ヲ否認シ無產階級獨裁ヲ經テ共產主義社會ノ實現ヲ目的トスル秘密結社ニシテ第三「インターナショナル」ノ指示ヲ受ケ之カ日本支部トシテ活動シ居リタルカ昭和三年三月十五日以來數次ノ檢舉後尙殘黨員ニ依リ其ノ組織ノ整備擴大ニ努力シ居タルモノニシテ  
日本共產青年同盟ハ青年獨自ノ立場ニ於テ右日本共產黨ト同一目的ノ實現ヲ期スル秘密結社ニシテ共產青年同盟「インターナショナル」ノ日本支部トシテ之カ指導ノ下ニ青年獨自ノ立場ニ於テ前記目的ノ實現ニ努力シ居ルモノ

又日本労働組合全國協議會ハ日本化學労働組合及日本金屬労働組合其ノ他ノ産業別労働組合ヲ統制スル聯合體ニシテ前記兩結社ノ目的ヲ支持シ其ノ指導下ニ主トシテ經濟闘争ノ手段ニ依リ前記結社ノ目的達成ヲ期スルモノナルトコロ

第一 被告人阿部作藏ハ尋常小學校卒業後大正十二年五月日本石油株式會社ニ雇ハレ翌十三年十月以來同會社鶴見製油所ニ於テ製油手トシテ働キ其ノ傍昭和四年三月日本労働總同盟神奈川石油労働組

三、「結社ノ意義」ニ關スルモノ

合日石支部ニ加入シ次テ其ノ支部幹事トナリ労働運動ニ從事シ居リタルカ右石油労働組合ノ主張ニ嫌ラス反對派結成ノ爲其ノ後「戦旗研究会」ヲ主催シ且「無産青年」及「第二無産者新聞」等ヲ入手シ同會員ニ配布シ之ヲ指導研究スルニ及ヒ日本共産黨及日本共産青年同盟並日本労働組合全國協議會日本化學労働組合ノ各目的及其ノ相互ノ關係カ冒頭記載ノ如クナルコトヲ知悉シテ深ク之ニ感動共鳴シ其ノ擴大強化ヲ企圖シ目的達成ノ爲ニ努力センコトヲ決意シ先ツ昭和五年一月中旬被告人沼田庄一ト共ニ日本化學労働組合日石分會ヲ組織シ日本共産青年同盟員京濱地區オルグ山田事村瀬博太郎ノ指導ヲ受ケ其ノ機關紙「タンク」ヲ發行配布シテ會員ノ獲得ニ努力シ居リタルモノナルトコロ同年二月上旬横濱市鶴見區潮田東入町二百六十八番地高田方ニ於テ右村瀬博太郎ヨリ日本共産青年同盟ニ加入ノ勸誘ヲ受ケ其ノ情ヲ知リ乍ラ即時之ヲ快諾シタルモ未タ右同盟上部ノ承認ヲ得ルニ至ラサリシ爲之カ加入ノ目的ヲ遂ケヌ次テ同年二月中旬頃ヨリ同年三月中旬頃迄ノ間ニ横濱市又ハ川崎市内ニ於テ右村瀬博太郎ヨリ右同盟ノ日石工場細胞ノ組織ヲ命セラレ被告人沼田庄一ト共ニ被告人酒井健吾 中島友之助等ニ對シ又被告人單獨ニテ被告人木南榮治原審相被告人徳元秀勝等ニ對シ何レモ右同盟ニ加入方ヲ勸誘シ更ニ同年四月上旬以降同月末日迄ノ間屢上部ト連絡シテメーデー對策等ニ關シ指示ヲ受ケ他方又横濱市鶴見區潮田東入町二千三百五十七番地ノ被告人高橋千代吉方又ハ東京府下池上本門寺裏山其ノ他ニ於テ數回同志ノ會合ヲ催シ右同盟ノ京濱地方ニ於ケル今後

ノ活動方針赤色自衛團組織ノ必要メーデーヲ暴動化スル武裝デモノ決行等ニ關シ種々指導協議ヲ爲シ又同年二月二十七日頃ヨリ同年四月下旬頃迄ノ間ニ横濱市鶴見區東寺尾町飯山七百三十七番地外ニケ所ノ當時ノ被告人ノ住居ニ於テ同志等ト共ニ右同盟ノ主義政策ヲ宣傳スル目的ノ下ニ「日本共産黨日本共産青年同盟ノ旗ノ下ニ」「プロレタリア獨裁萬歳」等ノ標語ヲ掲ケタル日石細胞機關紙「赤タンク」一號（昭和五年地押第一九三號ノ四十七、六十四）及「日本共産黨日本共産青年同盟ニ入レ」天皇ヲ親玉トスル資本家地主ノ政府ヲ倒セ」労働者農民ノ政府ヲ作レ」プロレタリア獨裁萬歳」等ノ標語ヲ掲ケタル同第二號（同號ノ二十八）並「天皇ヲ親玉トスル資本家地主ノ政府ヲ倒セ」労働者農民ノ政府ヲ作レ」日本共産黨日本共産青年同盟ニ入レ」等ノ標語ヲ掲ケタル同第三號（同號二十九、六十五）各數十部ヲ發行シ其ノ都度被告人高橋千代吉及田浦吉郎等ヲシテ同志ノ外日石工場職工ニ配布セシメ其ノ目的ノ宣傳煽動ニ務メ

第二 被告人沼田庄一ハ尋常小學卒業後大正十五年九月以來日本石油株式會社鶴見製油場ニ荷造工トシテ働キ其ノ傍昭和二年三月日本労働總同盟神奈川石油労働組合日石支部ニ加入シタルカ被告人阿部作藏等ト共ニ「戦旗研究会」ヲ開催シ會員ヲ指導シテ研究ヲ續ケ日本共産黨日本労働組合全國協議會日本化學労働組合ノ目的及其ノ相互ノ關係カ冒頭記載ノ如クナルコトヲ知悉シテ深ク之ニ共鳴シ昭和五年一月中旬被告人阿部作藏ト共ニ日本化學労働組合日石分會ヲ組織シ日本共産青年同盟員

京濱地區オルグ山田事村瀬溥太郎ノ指導ヲ受ケ其ノ機關紙「タンク」ヲ發行配布シテ會員ノ獲得ニ努メ居リタルカ次テ横濱市鶴見區潮田入宮町千二百九十四番地ニ於テ右村瀬溥太郎ト同居中同年二月五日頃右住居ニ於テ同人ヨリ日本共産青年同盟カ冒頭記載ノ如キ目的ヲ有スル秘密結社ニシテ日本共産黨トノ關係カ冒頭記載ノ如クナルコトヲ説明セラレタル上右同盟ニ加入ノ勸誘ヲ受ケ其ノ情ヲ知り乍ラ即時快諾シタルモ未タ右同盟上部ノ承認ヲ得ルニ至ラザリシ爲之カ加入ノ目的ヲ遂ケス次テ同年二月中旬頃ヨリ同年三月中旬頃迄ノ間ニ横濱市又ハ川崎市內ニ於テ右同盟ノ日石工場細胞ノ組織ヲ擔當シテ被告人阿部作藏ト共ニ被告人酒井健吾中島友之助等ニ對シ又被告人單獨ニテ被告人高橋千代吉ニ對シ執レモ右同盟ニ加入方ヲ勸誘シ爾來同年四月中旬迄ノ間横濱市鶴見區潮田東入町二千三百五十七番地ノ當時ノ被告人居宅其ノ他ニ於テ數回同志ノ會合ニ列席シ右同盟ノ京濱地方ニ於ケル今後ノ活動方針赤色自衛團組織ノ必要等ニ關シ協議ヲ遂ケ同年二月二十七日頃ヨリ同年四月八九日頃迄ノ間ニ横濱市鶴見區東寺尾町飯山七百三十七番地外一ヶ所ノ當時ノ被告人住居ニ於テ被告人阿部作藏等ト右同盟ノ主義政策ヲ宣傳スル目的ノ下ニ「日本共産黨日本共産青年同盟ノ旗ノ下ニ」「プロレタリア獨裁萬歲」等ノ標語ヲ掲ケタル日石細胞機關紙赤「タンク」一號（昭和五年地押第一九三號ノ四十七、六十四）及「日本共産黨日本共産青年同盟ニ入レ」天皇ヲ親玉トスル資

第二號（同號ノ二十八）各三四十部宛ヲ發行シ其ノ都度被告人高橋千代吉等ヲシテ之ヲ同志其ノ他ニ配布セシメ其ノ目的ノ宣傳煽動ニ努メ以テ右同盟ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シ

第三 被告人高橋千代吉ハ高等小學第一學年修了後大正十四年一日以來日本石油株式會社鶴見製油所ニ雇ハレ其ノ傍昭和四年十二月日本勞働總同盟神奈川石油勞働組合日石支部ニ加入シ其ノ後執行委員ニ擧ケラレタルカ昭和五年一月以降雜誌「戰旗」及「無產青年」「第二無產者新聞」等ヲ讀ミ左翼思想ヲ抱キ次テ日本共産青年同盟カ冒頭記載ノ如キ目的ヲ有スル秘密結社ニシテ日本共産黨トノ關係カ冒頭記載ノ如クナル事實ヲ知悉シ乍ラ同年四月末日迄ノ間屢被告人沼田庄一等ト連絡シテ之カ活動ニ關スル指示ヲ受ケタル外前後數回横濱市鶴見區潮田東入町二千三百五十七番地ノ被告人方又ハ東京府下池上本門寺裏山其ノ他ニ於テ開催セラレタル同志ノ會合ニ列席シ右同盟ノ京濱地方ニ於ケル今後ノ活動方針赤色自衛團組織ノ必要メデーヲ暴動化スル武裝デモノ決行等ニ關シ協議ヲ遂ケ更ニ被告人阿部作藏ヨリ「日本共産黨日本共産青年同盟ノ旗ノ下ニ」「プロレタリア獨裁萬歲」等ノ標語ヲ掲ケタル日石細胞機關紙「赤タンク」一號（昭和五年地押第一九三號ノ四十七、六十四）約二十部並「天皇ヲ親玉トスル資本家地主ノ政府ヲ倒セ」勞働者農民ノ政府ヲ作レ」日本共産黨日本共産青年同盟ニ入レ」等ノ標語ヲ掲ケタル同第三號（同號二十九、六十五）約四十部ヲ受取リ其ノ都度內約十部ヲ同志田浦吉郎ニ交付シテ之カ配布ヲ託シ殘部ハ之ヲ自ラ日石工場ノ職工等ニ配布

シ其ノ目的ノ宣傳煽動ニ努メ

第四 被告人中島友之助ハ高等小學校卒業後昭和三年一月以來日本石油株式會社鶴見製油所ニ雇ハレ人夫トシテ働キ其ノ傍昭和四年四月頃日本勞働總同盟神奈川石油勞働組合日石支部ニ加入シ次テ同支部幹事ニ擧ケラレ更ニ昭和五年二月上旬日本化學勞働組合日石分會ニ被告人沼田庄一ヲ介シ入會シタルモ爾來被告人沼田庄一等ヨリ日本共產青年同盟ノ目的綱領等ヲ説明セラレ右同盟カ冒頭記載ノ目的ヲ有スル秘密結社ナルコトヲ知悉シ乍ラ同年四月末日迄ノ間屢被告人阿部作藏等ト連絡シテ之カ活動ニ關スル指示ヲ受ケタル外前後數回東京府下池上本門寺裏山及橫濱市鶴見區潮田東入町二千三百五十七番地被告人高橋千代吉方其ノ他ニ於テ開催セラレタル同志ノ會合ニ列席シ右同盟ノ京濱地方ニ於ケル今後ノ活動方針赤色自衛團組織ノ必要メデーヲ暴動化スル武裝デモノ決行等ニ關シ協議ヲ遂ケ其ノ目的ノ宣傳煽動ニ努メ

第五、第六事實略ス

第七 被告人井喜久雄ハ昭和三年三月東京帝國大學文學部佛文科ヲ卒業シタルモノナルカ同大學入學後「帝大新人會」ニ入會シテ社會科學ノ研究ヲ爲シ在學中既ニ昭和二年十月勞働農民黨東京支部書記長トナリ次テ同黨東京府支部聯合會執行委員ヲ兼ネ昭和三年四月同黨解散後新黨組織準備會東京支部聯合會常任書記トナリタルカ其ノ後右地位ヲ去リ昭和五年三月關東金屬勞働組合ニ加入シ芝

地區ノ責任者トナリ勞働者解放運動ニ專念從事シ居リタ★モノナルトコロ其ノ間日本共產黨日本共產青年同盟及日本勞働組合全國協議會日本金屬勞働組合ノ目的並其ノ間ノ關係カ冒頭記載ノ如クナルコトヲ知悉シ乍ラ深ク之ニ共鳴シ

第八 被告人蘆焯澤ハ京都市所在紫野中學校第五學年ヲ中途退學シ爾來二三職業ヲ變ヘタル傍昭和三年七月東京合同勞働組合ニ加入シ次テ昭和五年三月中旬日本金屬勞働組合ニ加入シ城北地區ノ責任者トナリ勞働者解放運動ニ從事シ居リタルカ其ノ間日本共產黨及日本共產青年同盟ト日本勞働組合全國協議會、日本金屬勞働組合ノ關係及其ノ目的カ冒頭記載ノ如クナルコトヲ知悉シ乍ラ深ク之ニ共鳴シ

第九 被告人窪田喜一ハ尋常小學校卒業後電機仕上工トシテ共立電機製作所ニ雇ハレタル外東京市外ノ電機工場ヲ轉々シ居リタル中大正十四年春頃關東金屬勞働組合ニ加入シ城南支部委員トナリ其ノ後右組合カ日本金屬勞働組合ト改稱後モ引續キ同組合城南地區委員トシテ居残り更ニ昭和五年一月中選舉闘争同盟ニ關係シ右同盟芝地區委員トシテ二回該協議ニ參加シタルカ其ノ間「第二無產者新聞」等ヲ愛讀シテ日本共產青年同盟カ冒頭記載ノ目的ヲ有スル秘密結社ナルコトヲ知悉シ乍ラ深ク之ニ共鳴シ

第十、第十一事實略ス

第十二 被告人杉田一夫ハ高等小學校一學年ヲ中途退學シ大正八年二月以來東京府下澁谷町所在横河電機製作所ニ電機職工(調整工)トシテ雇ハレ中昭和五年二月關東金屬勞働組合横河工場分會ニ入會シ次テ同年四月上旬日本金屬勞働組合ニ關係シテ同組合芝地區責任者ナル松田事土井喜久雄等ト連絡ヲ執リ勞働者解放運動ニ從事シ居リタルカ其ノ間雜誌「戦旗」等ヲ愛讀シテ日本共產黨カ冒頭記載ノ目的ヲ有スル秘密結社ナルコトヲ知悉シ乍ラ深ク之ニ共鳴シ

第十三、第十四、事實略ス

敝上被告人中沼田庄一ヲ除外シタル其ノ餘ノ被告人等ハ外數名ノ者ト共ニ昭和五年五月一日川崎市內ニ於テメーデーノ舉行セラルルヲ奇貨トシ後記記載ノ如ク武裝デモヲ敢行センコトヲ企テ先ツ被告人阿部作藏ハ昭和五年四月三十日同被告人肩書住所ニ於テ日本勞働組合全國協議會(以下全協ト略稱)ノ一員ヨリ同協議會中央常任委員會ノメーデー闘争ニ關スル指令書ノ交付ヲ受ケ同人ト謀議ノ上川崎市內ニ於ケルメーデーヲ暴動化スルタメ同志ヲ以テ行動隊ヲ組織シ之ヲアジプロ隊破壞隊武器隊ニ分チ隊員各自武器ヲ用意シメーデー當日ノ朝之ニ參加ノ爲横濱市鶴見區所在潮田神社境内ニ參集スル日石工場職工等ニ竹槍等ヲ供與シテ之ヲ武裝セシメ同人等ヲ使喚シテ右日石工場其ノ他附近ノ工場ヲ襲撃シ次テメーデー示威行進ヲ要撃シ之ヲ暴動化スルコトヲ決定シ同日夜被告人高橋肩書居宅ニ於テ被告人高橋 酒井及同志田浦吉郎等ハ共同シテ前示化學勞働組合又ハ右同盟ノスローガンヲ晒木綿ニ墨書

シタル長旒八本(昭和五年地押第一九三號ノ十六)ヲ作成シ翌五月一日早朝同所ニ於テ被告人高橋千代吉 酒井健吾 中島友之助 木南榮治及前記田浦吉郎等ハ共同シテ旗竿及竹槍等(同號ノ一、十五)合計八十餘本ヲ作製シテ夫々準備ヲ整ヘ被告人阿部作藏ハ右五月一日午前八時過頃東京ヨリ來援ノ行動隊員程島武夫及被告人土井喜久雄 蘆焯澤 窪田喜一 清水忠一 西川秀雄 杉田一夫 八木渡 豊島光親 外四名ヲ右高橋方ニ案内シ之ニ京濱側ノ被告人阿部作藏 高橋千代吉 中島友之助 酒井健吾 木南榮治及田浦吉郎等ヲ加ヘ合計十九名參集シタルヲ以テ右席上ニ於テ全協ノ一員ハ同人等ニ對シメーデー當日ノ行動ノ指令トシテ「愈々武裝デモヲ決行スルコトニ爲リタルニ付テハ日石及スタンダードノ職工カ潮田神社ニ參集スル故皆ハ先ツ同神社ニ赴キ彼等ヲアジプロシ其ノ際竹槍等ノ武器ヲ渡シテ之ヲ武裝サセ直ニ日石工場ヲ襲撃シテ之ヲ破壊シ居残り職工ヲ武裝デモニ獲得シタル上ライデンダグサン及東京瓦斯ノ従業員ヲ指導シ更ニ右翼ダラ幹共ノデモニ打付カレ」等申向ケ尙「若シ右行動ノ際同志中ニ裏切者アラハ互ニ刺殺シ又吾々同志ノ行動ニ對シ反抗スル者アラハ之ヲ殺スモ可ナラン諸君ハ決死ノ覺悟ヲ以テ武裝デモヲ敢行スヘキ」旨ヲ告ケテ激勵シ且行動隊員ノ編成ヲ被告人阿部作藏及程島武夫ニ命シ歸京シタルヲ以テ茲ニ被告人阿部作藏ハ右程島ト共ニ行動隊員ヲ前記ノ如ク三隊ニ編成シ夫々其ノ所屬ヲ命シ之カ先頭ニ立チテ同行動隊ヲ指揮シ程島ハ殿ヲ受ケテ落伍者ノ激勵ヲ勸メ被告人土井喜久雄ハアジプロ隊ニ被告人蘆焯澤 窪田喜一 清水忠一 木南榮治 中島友之助 西川秀雄ノ六名ハ何レ



モ破壊隊ニ被告人高橋千代吉 酒井建吾 杉田一夫 八木渡 豊島光親ノ五名ハ何レモ武器隊ニ所屬シ被  
 上被告人等ハ夫々日本共産黨及日本共産青年同盟ノ前記ノ目的達成ヲ期スル爲右行動隊ニ參加シ「日  
 本共産黨日本共産青年同盟に入れ！」「資本家地主の政府を倒せ！」「労働者農民の政府を作れ！」等  
 竝其ノ他ノスローガンヲ墨書セル長旛八竿(同上號ノ十六)ヲ押立テ尙右竹槍約八十本ヲ携へ且被告  
 人等ノ右行動ヲ阻害スル者ハ之ヲ排撃シテ其ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ強行スル目的ヲ以テ被告人  
 高橋 酒井 豊島ヲ除キ各自或ハ拳銃又ハ匕首等ノ兇器ヲ所持シ斯クテ隊伍ヲ整へ同日午前九時過頃同  
 町所在潮田神社境内ニ到リタルトコロ時既ニ遅クメーデー參加ノ日石工場ノ職工等ハ同所ヲ立去リ居  
 リタルヲ以テ更ニ被告人阿部作藏ハ豫定ヲ變更シ前記メーデー參加ノ職工等ノ後ヲ追跡スルコトトシ  
 同隊ヲ指揮引率シ之ニ參加ノ被告人等ハ赤旗ノ歌ヲ高唱シツ川崎市宮本町所在ノ稻毛神社境内入口  
 ニ到リ被告人清水忠一ヲ除ク其ノ餘ノ被告人阿部作藏 高橋千代吉 中島友之助 酒井健吾 木南榮治  
 土井喜久雄 盧焯澤 窪田喜一 西川秀雄 杉田一夫 八木渡 豊島光親等ハ外數名ト共ニ同所會場内ニ參  
 集セル約二千三百有餘名ノメーデー參加團體ニ對シ前記指令ニ基ク行動ニ出ツルカ爲參加團體ニ亂入  
 シタルカ其ノ際被告人阿部作藏ハ被告人木南榮治カ警戒取締中ノ神奈川縣警部内宮藤吉ノ爲制止セラ  
 レ逮捕セラレントシタルヲ見受ケ同警部ヲ射殺シテ之カ逮捕ヲ免レシメント決意シ直ニ所携ノ實彈裝  
 置ノ五連發拳銃(同上號ノ二)ヲ以テ同警部ノ頸邊ニ押付テ狙撃シ同人ノ左頸部ニ全治三十日間ヲ要

スル盲貫銃創ヲ負ハシメ更ニ同所附近ノ路次ニ於テ同被告人ヲ追跡逮捕セントシタル同縣警部補磯部  
 利作ヲ射殺シテ逃走センコトヲ企テ前記拳銃ヲ以テ同人ヲ狙撃シタルモ同人ノ左頬部ニ全治約七日間  
 ヲ要スル擦過傷ヲ負ハシメ以テ同警察官等ノ公務ノ執行ヲ妨害シタルモ何レモ之カ殺害ノ目的ヲ遂ケ  
 ス被告人中島友之助ハ其ノ際被告人阿部作藏カメーデー副指揮者日本勞働總同盟幹事近藤武男ノ爲取  
 押ヘラレ居ルヲ目撃シ右阿部ヲ逃走セシメント企テ直ニ所携ノ鐵製角鎗ヲ以テ近藤武男ノ後頭部ヲ強  
 打シ又被告人八木渡モ其ノ際右近藤武男ニ對シ所携ノ鐵製角鎗ヲ以テ同人ノ後頭部ヲ強打シ因テ同人  
 ノ後頭部ニ全治約二十五日間ヲ要スル左後頭部打撲性裂傷外一箇ノ傷害ヲ加へ(但之ヲ生セシメタル  
 者ハ被告人中島ナリヤ被告人八木ナリヤ知ルコト能ハサルモノナリ)依テ冒頭掲記ノ兩結社ノ目的遂  
 行ノ爲諸般ノ活動ヲ爲シタルモノナリ

而シテ右所爲中被告人阿部作藏 沼田庄一ノ各結社加入未遂ノ所爲ト結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲  
 被告人中島友之助 高橋千代吉 酒井健吾 木南榮治ノ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル所爲被告人阿部作藏  
 ノ殺人未遂ノ所爲公務執行妨害ノ所爲ハ右連續犯意ノ下ニ行ハレタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲中被告人阿部作藏 沼田庄一ノ各判示結社加入未遂ノ所爲ハ昭和三  
 年六月二十九日勅令第百二十九號ニ依リ改正セラレタル治安維持法第一條第一項第二項第三項中各結  
 社加入未遂ニ關スル規定ニ該當スルトコロ右ハ一所爲數法ニ觸ルル場合ナルヲ以テ各刑法第五十四條

第一項前段第十條ニ依リ各重キ國體ノ變革ヲ目的トスル結社加入未遂罪ノ刑ニ從フ可シ右被告人等並其ノ餘ノ被告人等ノ各判示結社ノ目的遂行ノ爲ニスル所爲ハ右治安維持法第一條第一項第二項中各結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ニ關スル規定ニ該當スルトコロ同被告人等ノ右各所爲ハ一所爲數法ニ觸ルル場合ナルヲ以テ各刑法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ各重キ國體ノ變革ヲ目的トスル結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ニ關スル罪ノ刑ニ從フ可ク右所爲中被告人阿部作藏 沼田庄一ノ各結社加入未遂ノ所爲ト結社ノ目的遂行ノ爲ニスル所爲被告人中島友之助 高橋千代吉 木南榮治 酒井健吾ノ各結社ノ目的遂行ノ爲ニスル所爲ハ各連續犯ナルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シ尙被告人阿部及沼田ニ付テハ右法條ノ外刑法第十條ニ依リ各前示重キ結社加入未遂罪ノ一罪ト爲ス可ク被告人阿部作藏ノ殺人未遂ノ所爲ハ刑法第九十九條第二二三條第五十五條ニ公務執行妨害ノ所爲ハ刑法第九十五條第一項第五十五條ニ被告人中島友之助 八木渡ノ傷害ノ所爲ハ刑法第二百四條第二百七條第六十條ニ各該當スルトコロ被告人阿部作藏ノ右殺人未遂公務執行妨害ノ所爲及被告人中島友之助 八木渡ノ傷害ノ所爲ハ前記結社ノ目的遂行ノ爲ニスル所爲ト夫々一所爲數法ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ被告人阿部ニ對シテハ重キ殺人未遂罪被告人中島 八木ニ對シテハ各重キ國體變革ヲ目的トスル結社ノ目的遂行ノ爲ニスル罪ノ刑ニ從ヒ處斷スヘク被告人阿部ニ對シテハ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ「被告人阿部作藏ヲ懲役十五年被告人中島友之助ヲ懲

役五年ニ被告人高橋千代吉 沼田庄一 土井喜久雄ヲ各懲役四年ニ被告人窪田喜一ヲ懲役三年ニ被告人盧煒澤 酒井健吾ヲ各懲役二年六月ニ被告人西川秀雄 木南榮治 清水忠一 杉田一夫 八木渡 豐島光親ヲ各懲役二年ニ處ス可ク未決勾留日數中被告人阿部作藏 高橋千代吉 中島友之助 木南榮治 窪田喜一 西川秀雄ニ對シテハ各二百十日被告人酒井健吾ニ對シテハ二百日被告人沼田庄一 土井喜久雄 盧煒澤 清水忠一 杉田一夫 八木渡ニ對シテハ百七十日被告人豐島光親ニ對シテハ百四十日ヲ執レモ前記本刑ニ算入ス可ク被告人木南榮治 清水忠一 西川秀雄 豐島光親 八木渡ニ對シテハ犯情ニ鑑ミ刑法第二十五條刑事訴訟法第三百五十八條第二項ニ依リ執レモ右裁判確定後三年間其ノ刑ノ執行ヲ猶豫ス可キモノトス

○主 文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス  
被告人阿部作藏 沼田庄一 高橋千代吉 中島友之助 盧煒澤 杉田一夫ニ對シ當審ニ於ケル未決勾留日數中各三十日ヲ夫々本刑ニ算入ス

○理 由

被告人阿部作藏上告趣意書第一(一)所謂國家ヲ變革シ私有財產制度ヲ否認シプロレタリア獨裁ノ政治組織ヲ實現シ得ルモノハ唯一ノプロレタリアノ黨即チ共產黨テアツテ此ノ仕事ハ勿論共產青年同盟

三、「結社ノ意義」ニ關スルモノ

ノ實現シ得ルモノテハアリマセン一言ニシテ云フナラハ共產青年同盟ハ絕對ニ資本主義社會ヲ轉覆シ得ルトコロノ組織テハアリマセン同盟ハ黨ノ貯水池テアツテ黨カラノ働キカケニ依ツテノミ始メテ共產主義カソコテ訓練サレルノテアリマス從ツテ同盟ハ黨トノ關係ニ於テハ謂ハハ受働的ナモノテアツテ共產主義トシテハソレ自身ハ未タ未成ノ組織テアリマス黨ト同盟トハソノ組織ニ於テモ目的ニ於テモ嚴然ト區別サレネハナリマセン(二)労働組合(全協)ニハ所謂共產黨ノフラクシヨナルモノカ入ツテキテソノ組合ノ經濟的乃至政治的闘争ヲ指導シソノ闘争ヲ通シテ優秀ナ労働者ヲ黨ニ獲得スルノテアリマス然シソレ等ノ闘争ハ黨ノフラクシヨンカ黨ノスローガントカ要求トカソノ組合ヘ持つテ行ツテ黨ノ方針テ闘争サセルコトテハナク組合テ決定シタ組合ノスローガンヤ要求ヲソノ組合ノ方針テ闘争サセソレヲ指導スルノテアリマス又組合ノ協議決定ニハ黨ノ一フラクシヨンハソノ組合ノ一組合員トシテソノ協議決定ニ參加スルノテアツテ從ツテ組合テアル活動ハ飽ク迄モ組合テアル活動テアリマス黨ノフラクシヨンカ組合ニスツテ居リ且ツソレヲ指導スルコトニ依ツテ組合カ黨ノ目的達成ヲ期スルモノテアルト云フ考ハ明カニ間違テアリマス組合ハ斷シテ黨ノ目的達成ヲ期スルモノテハナク黨ノ目的達成ヲ期スルモノハ黨ノ組織以外ニアリ得ナイノテアリマス(三)日本共產黨日本共產青年同盟日本労働組合全國協議會ハソレソレ異ツタ組織ト目的トヲ持つテ居リ從ツテ又ソレソレノ任務モ活動モ違ツテ居ル譯テアリマス唯此レ等ノ組織ハソノ階級的利害ニ於テ正ニ一致スルモノテアリマ

スプロレタリア黨カ政治的權力ヲ獲得シテ吳レレハ當然スプロレタリア階級ハ解放サレルシソシテソノコトハ又組合ヤ同盟モ自ラノ目的ヲ達成スルコトニハナルテセウト云フテ組合ヤ同盟カ黨ノ仕事ヲシヨウトスルモノテモナシ又シヨウトシテモ出來ナイノテアリマス一ニ述ヘタル如キ目的ノ實現ヤソノ爲ノ活動ハプロレタリアノ黨テナケレハ勿論出來ナイコトテ唯此レ等ノ三ツノ組織體ヲ並ヘルコトニヨツテ孰レモ黨ト同シ目的ヲ持つモノテアリ若クハ同シ目的達成ヲ期スルモノテアルト云フ考ヘハ明白ニ間違テアリマスト謂フニ在レトモ

【要旨第一】

(一)治安維持法ニ所謂國體ノ變革私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル結社トハ必シモ其ノ結社獨自ノ力ニヨリテ其ノ目的ノ實現ヲ爲シ得ル組織體タルコトヲ要セス他ノ同一目的ヲ有スル結社ト相俟チテ右ノ目的ノ實現ヲ爲ス結社モ亦右ニ所謂結社タルモノトス原判決カ證據ニヨリテ認定シタルトコロハ日本共產青年同盟ハ青年獨自ノ立場ニ於テ國體ノ變革私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル日本共產黨ト同一ノ目的ノ實現ヲ期スル結社ナリト謂フニアルヲ以テ日本共產青年同盟カ治安維持法第一條第一項第二項ニ所謂結社ニ該當スルコト疑ナク而シテ假ニ所論ノ如ク該同盟カ日本共產黨トノ關係ニ於テ常ニ受働的立場ニ在リトスルモ右ノ事情ハ彼上ノ理ニ照ラシ毫モ該結社ノ右ノ性質ヲ害スルモノニアラス原判決カ日本共產青年同盟ヲ國體ノ變革私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル結社ナリト認メ被告人作藏ノ之ニ加入セントシテ遂ケサリシ行爲ヲ治安維持法第一條第一項第二項第三項ニ間擬シタルハ正當

ナリ(二) 原判決ノ認定シタルトコロハ日本労働組合全國協議會ハ其レ自體經濟闘争ヲ使命トシ從テ國體ノ變革私有財産制度ノ否認ヲ目的トスルモノニハアルサルモ其ノ終局ノ目標トスル労働者ノ眞ノ解放ハ共產主義社會ノ實現ヲ俟テ初メテ完全ニ實現セラレ得ヘシト爲ス點ニ於テ共產主義社會ノ實現ノ爲専ラ政治闘争ニ當ル日本共産黨日本共産青年同盟ノ目的達成ヲ望ムモノニシテ從テ其ノ經濟闘争ニ於テ苟モ黨又ハ同盟ノ指導ノ下ニ黨及同盟ノ目的實現ノ爲ニ寄與スヘキ機會アルニ於テハ其ノ機會ヲ捉ヘテ黨及同盟ノ目的達成ヲ援助扶翼スルヲ懈ラサルモノナルトコロ本件ニ於テモ右協議會ハ其ノ經濟闘争ノ手段タルメーデー示威運動ノ機會ニ於テ同時ニ黨及同盟ノ整備擴大ニ資スル行動ヲ爲スヘキ指令ヲ下シ被告人作藏等ハ其ノ指令ニ從ヒテ夫々原判示各行動ニ出テ以テ黨及同盟ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタリト謂フニアリテ右ノ事實ハ原判決ノ舉示スル證據ヲ彼此綜合考覈スルコトニヨリ明瞭ニ認定スルコトヲ得ヘク記録ヲ精査スルモ其ノ誤認ナルコトヲ疑フニ足ル事由ヲ發見セス從テ被告人作藏カ全國協議會ノ指令ニ基キメーデーノ機會ニ於テ右黨及同盟ノ目的達成ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタリトシテ治安維持法第一條第一項第二項ニ間擬シタル原判決ハ正當ナリ(三) 日本共産青年同盟モ日本労働組合全國協議會モ夫々其ノ獨自ノ立場ヲ有シ從テ日本共産黨トハ別箇ノ存在ヲ有スルコトハ以上ノ認定ニ依リテモ明白ナリト雖國體ノ變革私有財産制度ノ否認ハ日本共産黨ニアラサレハ之ヲ爲シ得サルノ理ナク又日本共産黨以外ノモノカ同盟ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シ得ラレスト

スヘキ理由存セサルヲ以テ日本共産青年同盟カ日本共産黨ト同一ナル目的ヲ有スル結社タルコトヲ認定シ日本労働組合全國協議會カ日本共産黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行動ヲ指令シタリト認定スルモ毫モ不當ト謂フヘカラスシテ論旨ハ孰レモ理由ナシ

第二(四) メーデーハ労働者階級カソノ日一日ヲ休ンテ示威行列ヲ爲シアラユル生産機關カラ離レルコトニ依ツテ自分達ノ力ヲハツキリ資本家階級ニ示ス國際的闘争記念日デアリマス然シメーデーハ單ニオ祭り式行列ヲヤツテソレテイイコトテハナク其ノ日ハ労働者カ工場内ニ於ケル自分達ノ切實ナ日常要求ヲ持ツテ起チソノ日常要求ヲ戰ヒ取ルヘキ日デアリマス斯カルメーデー闘争ハ我カ國ニ於テモ今迄種々壓迫サレテ血ヲ見ル様ナ事件モアツタケレトモ毎年合法的ニ行ハレテ來タシ又メーデー闘争ハ以上ノ如キ目的ト闘争性質トヲ持ツモノテアルカラ其ノ本質上ヨリ絕對ニ合法的ノモノテナケレハナラナイノデアリマス然ルニ昭和三年以來打テ續ク暴力的彈壓ノ爲ニ左翼労働組合ノ組織活動ハ殆ント非合法ニ追ヒヤラレ國際的メーデーカ來テモ全協ノ下ニアル労働者ハ當然參加出來ル筈ノメーデーノデモニ實際ニハ參加出來ナカツタノデアリマス合法性カミンナ奪ハレテ居タノデアリマス(五) 労働者自衛團ハ我カ國ノプロレタリア運動カ大キナ發展ヲナシソレニ伴フ武装官憲ノ迫害暴力團ノ暴行白色テロルノ横行カイヨイヨ激シクナツテ來タ時始メテソレニ對スル労働者ノ階級的正當防衛トシテ生レタモノデアリマス労働者自衛團ハストライキ、サボ、集會、デモ等アラユル労働者ノ利益ノ闘争ヲ守

ル爲ノモノテアリマス今日ノ労働者ハ全ク武力ト暴力ノ迫害ヲ受ケテ居ルノテアリマス労働者ハイヨイヨ自分達ノ身體生命カ危クナツテ來タ時仕方ナク武器ヲトル様ニナツタノテアリマス武装ハトウシテモ組織的テナケレハ駄目テアルカラソコテ赤色自衛團ヤ労働者自衛團カ組織サレルノテアツテ又自衛團テアルカラソレハ飽ク迄モ自衛的ナモノテアリマス我々ハ成ル可ク労働者カ武器ナトヲ持タナイテ闘争シ且ツ自分達ノ階級的利益ヲ守リ得ルコトニ常ニ腐心シテ來タシ又ソレヲアラユル闘争ニ於テ實際ニ實行シテ來テキルモノテアリマス(六)池上本門寺裏山ノ細胞會議ニ於テ職場細胞ノ組織「赤ダシ」ノ配布線ノ確立等カ協議サレテ居マス然シメーデー闘争ヤ自衛團ノ組織ニツイテハ實際ニハ工場分會トシテ如何ニ闘争シ組織シテ行クカニツイテ討議サレタノテアリマスメーデー闘争ハモトヨリ全工場労働者ノ闘争テアツテソレハ同盟(黨テナイ)ノ工場細胞トシテハ決シテ指導協議ハ出來ナイノテアリマス分會員カ又同時ニ細胞員テアツタノテ此レカゴツチャニサレタノテアリマス工場分會トシテ一九三〇年ノメーデー闘争ニ對スル方針ニ付テ討議サレタコトハ一、工場ニ於ケル四月三十日ノ従業員大會ハ右翼ダラ幹ニ任セナイテソノ指導權ヲ分會ハ握ルコト二、分會ハソノ従業員大會テ工場ノ大事ヲ要求(メーデーヲ公休ニシテ日給全額支給セヨト)ノ中心スローガン)ヲ取リ上ケテ決議シ労働者ヲストライキ、デモニ組織シ更ニソレヲ工場闘争カラメーデー闘争ヘ發展サセルコト三、メーデーノデモハ社會民主主義幹部共及ヒ官憲ニ守ラレタル葬式的行列ヲハナク工場闘争ニモトツク労働者ノ戦闘

的デモタラシメルコト四、此ノ闘争ヲ守ルタメノ職場班カラナル労働者ノ武装(労働者自衛團)ノ組織五、斯クシテ分會ハ左翼労働組合トシテメーデーニ參加シ失ハレタル合法性ヲ再ヒ獲得スルコト六、斯ルメーデー闘争ノ必然的ニ社會民主主義裏切り幹部ヲ大衆カラ切り離シ左翼労働組合自身ノ擴大強化ニ導ク等テアツタノテアリマス七、分會ハ労働者自衛團ノ組織ニツイテ協議シ且ツ其ノ組織ノ爲ニ努力シタモノテアリマス前ニモ述ヘタ通り労働者カメーデーニ參加シテデモヤルコトハ政府モ此レヲ認メテキルシ又絶對ニ認メラレネハナラヌモノテアリマス然ルニ實際ニ於テハ労働者ハ官憲ノ爲ニ彈壓妨害檢束サレ自分達ノ階級的利益ヲ守ルタメノデモハ到底出來ス何時モ所謂葬式的行列ニ終ルノミナラス左翼労働組合ハソノデモニ參加スルコトスラモ出來ナカツタノテアリマス分會ハメーデーニハ労働者ノ利益ヲ戦ヒ取ルタメノデモヤラウソシテソノデモヲ守ル爲ニ労働者ノ自衛團ヲ作ラウカウ考ヘタノテアリマス分會ハ武装ノデモヤラウトシタノテハナクデモヤル武装テ守ラウトシタノテアリマス労働者自衛團ノ組織ノ爲ニ協議シタコトハソノコトハ決シテメーデーノ暴動化乃至革命化ヲ意味スルモノテハアリマセン勿論又分會ハメーデーノ暴動化革命化ナトニツイテハ一言モ協議シテ居ナイシソナコトハ客觀的主情的ノ狀勢カラ見テモ到底考ヘラレマセン分會ハ唯々トウカシテ左翼労働組合トシテメーデーニ參加シタカツタノテアリマス(八)三隊(アヂ・ブロ隊、武器隊、破壊隊)ノ編成ハ五月一日ノ朝全協本部員ノ話ニ基イテ急ニ作ラレタモノテアリマス然シ此レ等ノ各役割ニ付テハ何モ

話サレテ居マセンテシタ然シ大體ソノ役割ハ、一、アチ・プロ隊ハメーデーノ正シイ闘争ノ事ヤ労働者ハ戰鬥的デモヲヤラナケレハナラナイコトヤアチ・プロシ二、武器隊ハデモヲ守ル爲ニ武器ノ必要ナル場合労働者ニ武器ヲ持タセ三、破壊隊ハ資本家カ労働者ヲメーデーニ参加サセナイタメニ種々懐柔脅迫手段テ無理矢理ニ労働者ヲ仕事ニ就カセルカソレヲ防ク爲ニベルトヲ止メスキツチヲ切り(ソシテソレヲヤルノハソノ仕事ヲヤツテキル労働者自身カヤラネハナラス)或ハ又デモノ邪魔ニナルヤウナモノカアレハ取り除イタリスル役目テ決シテ工場ヲ襲撃シ工場ヲ破壊スルヤウナモノテハナイト考ヘマス(九)我々ハ日本労働組合全國協議會中央常任委員會ノメーデー闘争ニ對スル指令書ヲ受ケンレニ基テメーデー闘争ヲヤルコトニナツタノテアリマス從ツテ此ノ闘争ノ主體ハ全協テアリ此ノ闘争ヲヤツタノハ化學ト金屬トノ一部ノモノテアルト云フコトハ既ニ明カテアリマスソシテ此ノ闘争ニ就テ我々ノ考ヘテ居タコトハ至ツテ簡單テアツテ唯労働者ラシイ戰鬥的デモカヤリタカツタノテアルト云ヘハソレテ盡キテ居ルノテアリマスソレニハ要求ト云フモノカナレケハデモモストライキモ出來ナイカラ労働者ノ持つテ居ル日常切實ナ要求ヲ掲ケルコトニシタノテアリマスソノ要求ノ中ニ「日本共產黨日本共產青年同盟ニ入レ」資本家地主ノ政府ヲ倒セ」労働者農民ノ政府ヲ作レ 等ノスローガンカアツタケレトソレハ從屬的ナモノテ決シテメーデー闘争ノ目的トナルモノテハ勿論アリマセン今日ノ労働者カミンナサウ云フ要求ヲ持つテ居ルシ又サウ云フ偏向ニモナツテ居ルノテメーデー闘争ノ附

隨的ナススローガントシテ出サレタモノテアリマスメーデー闘争ハ「メーデーヲ公休日ニシテ日給全額支給セヨ」ヲ中心トスル労働者ノ日常モットモ切實ナ要求カソノ目的テナケレハナリマセン蓋シ此ノ要求ヲ除イテ如何ナルメーデー闘争モアリ得ナイシ又デモモ此ノ様ナ要求カアツテコソ立派ナデモモ出來ルノテアリマス繰リ返シテ云ヒマスカ此ノ闘争ノ全體ハ全協テアツテ此ノ闘争ヲヤツタノハ化學ト金屬ノ組合テアリマス此ノ闘争ハ黨ヤ同盟テヤツタモノテハナク又組合カ黨ヤ同盟ノ目的達成ノ爲ニヤツタモノテモ斷シテアリマセン又サウ云フコトノ出來ナイコトハ前ニモ述ヘマシタト謂フニアルモ原判決ノ認定シタル事實ハ被告人作藏等ハ外十數名ノ者ト共ニ昭和五年五月一日川崎市ニ於テメーデー示威行進ノ舉行セラルル際ニ於テ武装デモヲ敢行セントシ日本労働組合全國協議會中央常任委員會ノ指令ヲ受ケ當日日石工場職工等ヲ武装セシメ之ヲ使嗾シテ日石工場其ノ他附近ノ工場ヲ襲撃シ次テメーデー示威行進ヲ要撃シ之ヲ暴動化セシメントシ以上ノ機會ニ於テ日本共產黨及日本共產青年同盟ノ目的ノ達成ニ資スル目的ヲ以テ「日本共產黨日本共產青年同盟ニ入レ」「資本家地主ノ政府ヲ倒セ」「労働者農民ノ政府ヲ作レ」等ノスローガント墨書セル長旒八竿ヲ押立テ竹槍拳銃七首等ヲ携ヘテ湖田神社境内ニ至リタルモ既ニメーデー参加ノ日石工場職工等ハ同所ヲ去リタル後ナリシ爲同職工ノ跡ヲ追ヒテ稻毛神社ニ至リ同所ニ在リシメーデー参加團體中ニ亂入シタリト謂フニアリテ右ノ事實ハ原判決ニ舉示セル各證據ヲ綜合シテ優ニ之ヲ認ムルニ足り記録ヲ精査スルモ原判決ニ重大ナル事實認誤

アルコトヲ疑フニ足ルヘキ事由ヲ認ムル能ハス果シテ然ラハ被告人等カ武装シタルコトハ所論ノ如ク  
 單ニ全國協議會所屬労働組合ノメーデー参加ヲ妨クル官憲ノ不當ナル彈壓ヲ防衛スル目的ノミニ出  
 テタリト謂フヲ得ス又右ノ如ク被告人等ノメーデー示威運動参加カ全國協議會ノ指令ニ基キ爲サレタ  
 リトスルモ之カ爲被告人等ノ行動ヲ日本共産黨日本共産青年同盟ノ目的遂行ノ爲ニスル行動ナリト認  
 定スルコトヲ妨クルモノニアラス其ノ他ノ所論ハ要スルニ原判決ノ事實認定ト相容レサル事實ヲ主張  
 シ原判決ノ事實認定ヲ攻撃スルニ歸スルモノニシテ孰レモ採用スルコトヲ得ス

第三(十)同志中島ハメーデー會場ニ於ケル混亂ノ際私カ近藤ニツカマツテ居ルノヲ見テ私ヲ助ケル  
 ツモリテ持ツテ居タ鐵角鎧テ近藤ノ後頭部ヲ毆ツテ全治約二十五日間ヲ要スル傷害ヲ加ヘタト云フコ  
 トニナツテ居リマス然シ私ハ決シテ近藤ニ捕ツタ覺ハナイシ恐ラク彼ハ私ノ姿サヘモ見テ居ナイノテ  
 ハナイカト思ヒマス近藤ハ豫審訊問テ「一隊ノ先頭ニ阿部ヲ認メ飛ヒ出シテ行ツテ同人ヲ突キ倒シ更  
 ニ取押ヘントシタ際何人カニ堅キ物テ後頭部ヲ力強ク一打サレ」ト述ヘテ居リマス私ハソノ時分ハ  
 隊ノ中程ニ居テ先頭ニハ居ナイノテアルシ又彼ニ突キ倒サレテモ居ナイノテアツテ彼カ私ト認メタモ  
 ノ實ハ人違ヒテアラウト思ヒマス然モ近藤ヲ毆ツタト云フノハ同志中島ト同志八木ト二人テ二人共  
 近藤ノ後頭部ヲ毆ツタト云フノテアルカ後頭部ノ傷ハ一箇所シカナイ様テスソシテ其ノ傷サヘモ同志  
 中島ノヤツタモノカ同志八木ノヤツタモノカ明カテナイノテハリマスト謂フニアリテ

原判決中被告人中島友之助ノ犯罪ヲ認定シタル部分ヲ攻撃スルモノナルモ第二審判決中自己ニ關係ナ  
 キ部分ノ不當ヲ論シテ其ノ破毀ヲ求ムル論旨ハ上告論旨トシテ適法ナラサルカ故ニ本論旨モ理由ナシ  
 第四(十一)昭和五年三月中旬頃同志沼田カ一挺ノピストルヲ持ツテ來テ私ノ家ニ置テ行キマシタソ  
 レヲ私ハソノママ持ツテ居リマシタ五連發ノ大分舊式ノモノヲラシク思ハレマシタ後テソレハ玩具タト  
 云ツテ笑ハレマシタ私ハ護身用位ニハナルタラウト思ツテ持ツテ居リマシタ然シ私ハ之ヲ使用スル  
 技術ト云フ様ナモノハ丸キリ持ツテ居ナカツタシ實ヲ云フト私ハピストルト云フ物ヲ始メテ見タ様ナ  
 譯テアリマス從ツテ此レハ私ニトツテ如何ニモ不適當ナモノテアリマシタカ外ニ武器モナカツタノテ  
 兎ニ角持ツテ居マシタ我々ハ何時モサーベルト暴力トヲ身ニ受ケナカラ自分達ノ生活ヲソノ中テ守ツ  
 テ居ルモノテアリマス此ノ事ハ又必然的ニ労働者ニモ武器ヲ持タセルコトヲ餘儀ナクサセマス勿論武  
 器ハコチカラ積極的ニ使用スルモノテハアリマセン私ハソノ當時自分ノ身ノ危イ事ヲ強ク感シテ居  
 タノテ自衛的武器トシテ(不完全ナモノテハアルカ)持ツテ居タノテアリマス(十二)五月一日我々  
 カメーデー會場ヘ行ツテ參加團體ノ中ニ割リ込ムト直ニ混亂ニナツテ同時ニ前モ後モ多數ノ警官ニ包  
 圍サレタノテアリマス私ハ直チニ群集ノ中ヲ右ヘ抜ケテソコカラ逃レ様トシタカソコモ既ニ警官ヲ垣  
 ニナツテ居テ逃レルコトカ出來マセンテシタ私ハ仕方ナク又引キ返サウトシテ振り返ツタ時ソコニ同  
 志木南カ二人ノ警官ニ組ミ付カレ一人ノ警官ニ首ヲ振テラレテ居ルノヲ見マシタソシテソノ先ヲ見ル

ト更ニ四五人ノ警官カコチラヘ向ツテ突撃シテ來タノテ私ハ突嗟ニ此レハ自分ノ身モ危イト感シテボケツトカラビストルヲ引キ出シテ一番手近ノ同志木南ヲ取押ヘテ居ル一人ノ警官(後テ内宮警部テアルコトヲ知リマシタ)ニ向ケテ一發撃チマシタバチント云フ音カシタノテ前ヘ突撃シテ來タ警官ハ止ツタ様ニ見ヘタノテソノ間ニ私ハ内宮警部ノ側ヲ抜ケテソコカラ逃レマシタソノ場合多分私ハ同志木南ヲ逃シテヤリ又自分モソコカラ逃レ様ト云フ氣持カ動イテビストルヲ撃ツタモノト思ハレマスハツキリハ申サレマセン實際ソノ様ナ突嗟ノ場合ドウシヨウノカウシヨウノト云フ明確ナ意思ハ到底持タレマセンテシタ殊ニソノ警官ヲ殺シテヤラウト云フ様ナ意思ハソコニハチツトモ動イテ居ナイノテアリマス唯私ハ非常ニ切ツバ詰ツタ状態ニアツタノテソコカラ逃レルタメニハ出來ルタケ抵抗シテヤラウト云フ考ヘハアリマシタ(十三)私カメーデー會場カラ左ヘ抜ケテアル横路ヲ突ツ走ツテ行クト後カラ一人ノ警官(此ノ警官ハ磯部警部補テハアリマセン)カ追跡シテ來マシタ私ハソノ横路ヲ一丁程駈ケテ行ツテ右ヘ曲リ更ニ半丁程行ツテ今度ハ左ヘ曲リ狭イ小路ヘ入ルト生憎ソノ小路ハ袋小路ニナツテ居テ然モ警官ハ追カケテ來マス私ハ直クニ左手ノ家ト家トノ間ノ木戸ヲ押シ開ケテ入ツテ行キマシカ然シソコモ又高サ六尺程ノトタン塀カ廻ツテ居テ抜ケル様ナ所ハアリマセンテシタ警官モ木戸ヲ開ケテ入ツテ來タ様テス私ハ仕方ナクソノトタン塀ヲ乘リ越様ト思ツテトタン塀ノ上ヘ飛ヒ土ツテ下ヲ見ルト一間程先ニ一人ノ警官(後テ磯部警部補テアルコトヲ知リマシタ)カ抜刀シタママソレヲ高ク振

上ケテ身構テ居マシタソノ警官ハ何か二聲三聲怒鳴ツタ様テス私ハ飛ヒ下リタラヤラレルト思ヒ塀ノ上カラソノ警官ニ向ケテビストルヲ突キ付ケマシタスルトソノ警官ハ抜刀ヲ振り上ケタママ駈ケ足ヲ逃ケテ行キマシタ私ハ塀ノ上カラ飛ヒ下リマシタ追ツカケテ來タ警官モ引キ返シタ様テス私ハビストルヲボケツトニ入レテイクラカ安心シタ氣持ニナリマシタ然シ抜ケ道ハドコニモアリマセン私ハ仕方ナク今ノ警官カ逃ケテ行ツタ方ヘ歩イテ行キマシタ私カアル家ノ角ヲ行キ過キルト今ノ警官ハ私ヲヤリ過シテ置テソノ家ノ蔭カラ飛ヒ出シテ來テイキナリ私ノ後カラ組ミ付キマシタ二三度モミ合ツタ様テアリマスカ忽チ私ハ下ニ組ミ伏セラレマシタアタリハスツカリ警官テ包圍サレテ居ル様ニ思ハレマシタ私ハ組ミ伏セラレナカラ觀念シテ右手ヲノハシナカラボケツトカラビストルヲ抜キ出シテ口ヘ持ツテ來マシタビストルハ口ノ中ニ入レテ打テハ死ネルト聞イテ居マシタソノ場合ニハ私ハ死スヘキタト考ヘテ居マシタ危イト警官カ叫ンダヤウテスソシテ私カビストルヲ口ニ嚙ンタ時ソノ刹那三人ノ男カ飛ンテ來テイキナリ私ノ手ヲ拂ヒノケマシタソノ男ハ總同盟ノダラ幹テアリマシタ丸ハソノハツミニ發射サレタモノト思ハレマス警官ニ丸カ二發アタツテ居ルトスレハビストルヲ口ヘ持ツテ來ル途中テ互ニ懸命テモミ合ツテ居ルノテ多分指ニカカハイツテ引金ヲ引イタノテハナイカト思ヒマス何シロ此レ等ノコトハホンノ瞬間ノ出來事テ私ハマルテ夢中テアリマシタ間モナク應援ノ警官カ來テ私ハソノ場ヲ逮捕サレタノテアリマスト謂フニ在レトモ



所論ノ點ニ付原判決ノ認定セルトコロハ被告人作藏ハ他ノ被告人等ト共ニ稻毛神社境内ニ於テメーデー  
 一參加團體ニ亂入シタル際偶共同被告人木南榮治カ警戒取締中ノ神奈川縣警部内宮藤吉ノ爲制止セラ  
 レ逮捕セラレントシタルヲ目撃シ同警部ヲ射殺シテ之ヲ逮捕ヲ免レシメント決意シ直ニ所携ノ實彈裝  
 置ノ五連發拳銃ヲ以テ同警部ノ頸邊ニ押付ケ發射シ同人ノ左頸部ニ全治三十日間ヲ要スル盲貫銃創ヲ  
 負ハシメ更ニ同所附近ノ路次ニ於テ同縣警部補磯部利作ヨリ追跡セラレ逮捕セラレントスルヤ同警部  
 補ヲモ射殺シテ逃走センコトヲ企テ前記拳銃ヲ以テ同人ヲ射擊シ同人ノ左頬部ニ全治約七日間ヲ要ス  
 ル擦過傷ヲ負ハシメ以テ右警察官等ノ公務ノ執行ヲ妨害シタルモ何レモ殺害ノ目的ヲ遂クルニ至ラサ  
 リシト謂フニアリテ右ノ事實ハ原判決ノ舉示セル各證據ニヨリ優ニ之ヲ認定スルニ足り記録ニ就キ精  
 査ヲ遂クルモ原判決ノ右ノ事實認定ニ重大ナル過誤アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ヲ認め難  
 ク所論ハ畢竟原判決ノ右ノ認定ト相容レサル事實ヲ主張シ事實誤認ヲ論スルモノニ外ナラス論旨ハ理  
 由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

【要旨第二】

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ各被告人ノ上告ハ孰レモ之ヲ棄却スヘク尙刑法  
 第二十一條ニ則リ被告人作藏 庄一 千代吉 友之助 焯澤 一夫ニ對シテハ當審ニ於ケル未決勾留日數  
 中三十日ヲ夫々本刑ニ算入スヘキモノトシ主文ノ如ク判決ス  
 檢事平井彦三郎關與

(二)

治安維持法違反被告事件

(昭和七年(九)第一二八九號  
 同年十二月二十二日第一刑事部判決)

棄却)

【上告人】 被告人 後藤宗一郎 辯護人 青柳盛雄

【第一審】 靜岡地方裁判所 外一名 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

日本共產青年同盟ノ目的——「結社ノ擴大強化ヲ圖ル行爲ト結社ノ  
 目的遂行」

○判決要旨

一日本共產青年同盟ハ治安維持法第一條ニ所謂國體ノ變革並ニ私  
 有財産制度ノ否認ヲ目的トスル結社ニ該當ス【要旨第一】  
 二結社力其ノ組織ヲ強固ニシ且其ノ充實擴大ヲ圖ル必要ノ爲ニ爲  
 サルル行爲ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ニ屬ス【要旨第二】

【參照】治安維持法第一條

國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又  
 ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上  
 ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニ  
 スル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三、「結社ノ意義」ニ關スルモノ

私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ヲ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人後藤宗一郎ヲ懲役二年六月ニ被告人厚木嘉一ヲ懲役二年ニ處シ各被告人ニ對シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中三百日宛ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人等ハ日本共產黨カ我カ君主制ヲ廢止シ私有財産制度ヲ否認シ無産階級獨裁ノ政府ヲ樹立シ共產主義社會ノ實現ヲ企圖スル秘密結社ニシテ日本共產青年同盟カ右日本共產黨ノ直接指導下ニ在リテ之ト主義目的ヲ同シクシ青年大衆ニ對シ之ヲ將來ノ共產黨員タラシムヘク共產主義ノ宣傳ヲ爲シ來リタル秘密結社ナルコト及無産者新聞竝ニ第二無産者新聞カ就レモ右日本共產黨ノ補助機關無産青年カ日本共產青年同盟ノ補助機關紙トシテ夫々右當該結社ノ主義目的ヲ宣傳スル記事ヲ掲載スルモノナルコトヲ知り居リタルモノナルトコロ

第一 被告人後藤宗一郎ハ東京商科大學豫科卒業後長野縣上伊那郡南向村小學校ノ代用教員トナリ其ノ奉職中労働運動ニ興味ヲ覺エテ労働農民黨上伊那支部ニ出入シ退職後ハ同支部ノ常任書記トナリ

昭和三年十二月十日長野地方裁判所ニ於テ治安維持法違反ニ依リ懲役一年六月三年間執行猶豫ノ判決ヲ受ケ更ニ昭和四年七月十七日静岡地方裁判所ニ於テ出版法違反ニ依リ罰金二十圓ニ處セラレタルカ昭和四年七月下旬頃其ノ前掲肩書居宅ニ於テ栗田五郎馬 原田新一ト無産者新聞ヲ配布セムコトヲ謀議シ其ノ配布地域ヲA班(掛川町) B班(堀之内町) C班(河城町)ノ三班ニ分チ被告人宗一郎ハA班右新一ハB班右五郎馬ハC班ノ各責任者ト定メ同志松浦某等ノ斡旋ニ依リ同年八月中右各班毎ニ五部宛ノ無産者新聞ノ密送ヲ受ケ更ニ同年九月以降昭和五年四月末日頃ニ至ル間數回ニ第二無産者新聞ヲ每回約二十部乃至五十部宛昭和五年二月中二回ニ互リ無産青年ヲ每回約五十部宛各密送ヲ受ケタルトコロ之等ノ諸印刷物ヲ他ニ配布シテ閱讀セシメ讀者ヲシテ右各秘密結社ノ主義目的ニ共鳴セシメテ當該結社ノ擴大強化ヲ夫々圖ラムコトヲ企テ昭和四年八月末頃被告人宗一郎ノ前示宅前其ノ他ニ於テ鎌田勝平 鈴木吉郎ニ對シ右密送ヲ受ケタル無産者新聞中一部宛ヲ同年九月中ヨリ翌十月中ニ至ル間數回ニ互リ前同所等ニ於テ右勝平及吉郎ニ第二無産者新聞ヲ每回一部宛交付シ同年九月下旬頃ヨリ昭和五年二月下旬頃ニ至ル間數回ニ互リ静岡縣志太郡島田町其ノ他ニ於テ中井賢太郎ニ對シ前示第二無産者新聞合計數部ヲ交付シ昭和五年二月初旬頃ヨリ同年四月末頃ニ至ル間數回ニ互リ同縣小笠郡河城村等ニ於テ前記栗田五郎馬 原田新一ノ兩名ニ對シ第二無産者新聞及無産青年各數部宛ヲ林良雄ニ對シ一部宛ヲ夫々順次ニ交付シ

第二 被告人厚木嘉一ハ高等小學校ヲ卒業後印刷職工トナリ沼津市ニ於テ諸所ノ印刷所ニ勤務シ居タルカ無産者解放運動ニ興味ヲ覺エテ昭和二年中全日本無産青年同盟及東部合同労働組合ニ加盟シテ該組合ノ執行委員長トナリ静岡縣東部方面ニ於ケル労働爭議ニ關與シタルコトアリ昭和四年七月十七日静岡地方裁判所ニ於テ出版法違反ニ依リ罰金二十圓ニ處セラレ次テ昭和五年二月二日沼津區裁判所ニ於テ住居侵入傷害毀棄出版法違反ニ依リ懲役六月三年間執行猶豫罰金二十圓ニ處セラレタルモノナルトコロ昭和四年十月頃ヨリ昭和五年五月中旬ニ至ル間數回ニ亙リ日本労働組合全國協議會ニ關係ヲ有スト謂フ鈴木友吉ヨリ第二無産者新聞ヲ毎回約二十五部乃至三十部宛無産青年ヲ二回ニ亙リ毎回二部宛各密送ヲ受ケタルカ前記各秘密結社ノ擴大強化ヲ圖ル爲之等ノ印刷物ヲ他ニ配布シテ閱讀セシメムト企テ其ノ頃數回ニ亙リ第二無産者新聞ハ沼津市其ノ他ニ於テ 成川伊作 花村直作 鈴木徹 栗原幾太郎 鈴木五一 大石作次郎等ニ各一部宛ヲ昭和五年二月頃被告人嘉一ノ前掲肩書居宅ニ於テ渡邊元次郎ニ一部ヲ同年二月中旬頃ヨリ同年五月中ニ至ル間ニ於テ數回ニ亙リ沼津市及右目宅等ニ於テ杉山榮次郎ニ毎回概ネ一部宛ヲ昭和四年十二月中及昭和五年二月上旬頃ノ二回ニ亙リ沼津市其ノ他ニ於テ長谷川兼次ニ毎回一部宛ヲ夫々與ヘ無産青年ハ其ノ頃同市其ノ他ニ於テ成川伊作 杉山榮次郎等ニ一部宛ヲ順次ニ配布シ

第三第四事實省略

以テ被告人等ハ孰レモ右日本共產黨及日本共產青年同盟ノ前記目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ順次ニ爲シタルモノナリ

而シテ被告人等ノ日本共產黨ノ目的遂行行爲ト日本共產青年同盟ノ目的遂行行爲トハ犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲中國體變革ヲ目的トスル結社ノ目的遂行行爲ヲ爲シタル點ハ孰レモ治安維持法第一條第一項最後段刑法第五十五條ニ私有財産制度否認ヲ目的トスル結社ノ目的遂行行爲ヲ爲シタル點ハ孰レモ治安維持法第一條第二項最後段刑法第五十五條ニ夫々該當スルトコロ以上ハ一箇ノ所爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ各刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ各重キ國體變革ヲ目的トスル結社ノ目的遂行行爲ヲ爲シタル罪ノ刑ニ從ヒ孰レモ有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告人後藤宗一郎ヲ懲役二年六月ニ被告人厚木嘉一ヲ懲役二年ニ各處スヘク刑法第二十一條ニ依リ各被告人ニ對シ原審ニ於ケル未決勾留日數中三百日宛ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人青柳盛雄上告趣意書第一點原判決ハ被告人等ノ所爲ヲ「日本共產黨ノ目的遂行ノ爲ニ

スル行爲」ト「日本共産（主義）青年同盟ノ爲ニスル行爲」トニ分チ其ノ孰レモカ治安維持法第一條第一項最後段同條第二項最後段ニ該當スルモノトシテ法律適用ヲ爲シテ居ル日本共産黨カ治安維持法第一條ニ所謂「國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ組織セラレタ結社」及「私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ組織セラレタ結社」ノ孰レニモ該當スルモノカトウカノ點ニ關スル論議ハシハラク措キ原判決カ日本共産主義青年同盟モ亦治安維持法第一條所定ノ結社ニ該當スルモノナリトノ判決ヲ爲シテ居ル根據ヲ其ノ理由中ノ事實摘示カラ窺フト要スルニ日本共産主義青年同盟モ亦日本共産黨ト同種ノ目的ヲ有スル結社ト云フニアルモノノ如クテアル併シ乍ラ日本共産主義青年同盟カ日本共産黨ト同種ノ目的ヲ有スルモノト云フコトハ事實ニ反スル虛偽テアツテ原判決カ此ノ公知ノ事實ヲ隱蔽シ被告人等ノ原審公判廷ニ於ケル陳述ヲ反對ニ援用シテ居ルノハ不法テアル此ノ點ニ關シテ原判決カ援用シテ居ル原審公判廷ニ於ケル被告人等ノ陳述ハ空漠タルモノテアリソノ訊問ノ方法ハ被告人等ノ日本共産黨竝ニ日本共産主義青年同盟ニ對スル認識ノ程度低キヲ利用シソノ空漠タル認識ヲ誘發スルカ如キ形態ヲトリ故意ニ被告人等ヲシテ日本共産主義青年同盟ノ目的カ日本共産黨ノソレト同種ノモノタルコトヲ認メシメテ居ル此ノ點ニ於テモ亦原判決ハ審理不盡理由不備ノ違法アルモノト謂ハネハナラヌト云フニ在レトモ

日本共産青年同盟ハ日本共産黨ノ直接指導下ニアリ青年獨自ノ立場ニ於テ日本共産黨ノ目的トスル私

## 【要旨第一】

有財産制度ヲ否認シ君主制ヲ廢止シテ無産階級獨裁ニ依リ共産主義社會ノ實現ヲ期スル秘密結社ニシテ其ノ本來ノ職能ニ於テ弘ク青年大衆ニ働キカケ未タ共産黨員タラサル青年ヲ訓練シテ將來共産黨員タルヘキ素地ヲ作り有力ナル闘士ヲ共産黨ニ送ルコトヲ旨トスルモノナルノミナラス更ニ其ノ實際ノ活動ニ於テ同盟員ハ共産黨員ト連絡提携シ共産主義ノ宣傳同盟員黨員ノ獲得ニ努メツツアルノ狀況ナルコト原判決ノ認定スルトコロニヨリ極メテ明瞭ナリトス而シテ此ノ認定ニ依レハ日本共産青年同盟ハ日本共産黨ト共通ノ目的ヲ其ノ目的トシ共産黨ノ直接指導ノ下ニ之ト緊密缺クヘカラサル連繫ヲ保チ異體同心ノ作用ヲ營ム補助機關ニシテ實際ノ活動ニ於テ日本共産黨ト選フ所ナキモノナルカ故ニ該同盟ハ治安維持法第一條ニ所謂國體ノ變革竝ニ私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル結社ニ該當スルモノナリト解スルヲ當然トス而シテ右判決ノ認定事實ハ原判決擧示ノ證據ニヨリテ之ヲ認定スルコトヲ得ルノミナラス記録ニ徴シ其ノ誤認ナルコトヲ疑フニ足ル事由ナキカ故ニ日本共産青年同盟カ治安維持法第一條ニ所謂結社ニ該當セサルコトヲ主張スル論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ハ被告人等ノ所爲トシテ無産者新聞第二無産者新聞無産青年等ノ諸新聞ヲ他人ニ配布シタリトノ事實ヲ認定シコレカ治安維持法第一條ニ所謂「目的遂行ノ爲ニスル行爲」ニ該當スルモノト法律適用上ノ判斷ヲ爲シ居ルカ何故ニカクノ如キ判斷ヲ爲シタカノ根據ヲ明白詳細ニ説明シテ居ナイ其ノ理由中事實記述ヨリ窺知スルニ漠然ナカラ其ノ根據トスルトコロハ前記原判決認定ノ所爲ハ日本

共產黨又ハ日本共產主義青年同盟ノ目的共產主義ノ宣傳煽動ニ役立つコトニヨリテ同結社ノ擴大強化ヲ圖ルモノト云フニアルモノノ如クテアル併シ乍ラ結社ノ擴大強化ヲ圖ルコトカ「目的遂行ノタメニスル行爲」ニ該當スルト云フ説明ハ何等具體的テハナイ唯抽象的概念ノ置換ニ過キナイ加之結社ノ擴大強化ト云フコトハ絶對ニ日本共產黨又ハ日本共產主義青年同盟ノ目的テハナイソノ擴大強化ニ役立行爲カ「目的遂行ノタメニスル行爲」ト強ヒルコトハ日本共產黨又ハ日本共產主義青年同盟ノ目的ニ對スル誣告テアリ此等ノ結社治安維持法第一條所定ノ結社ニ該當スルモノトシタル原判決判定トノ矛盾テアル抑モ日本共產黨又ハ日本共產主義青年同盟ノ目的遂行行爲トハ何テアルカ之カ明白ニ解決セラルルコトナクシテハ目的遂行ノ爲ニスル行爲カ何テアルカハ判明シナイコノ點ヲ具體的ニ説明スルコトナク唯漠然日本共產黨又ハ日本共產主義青年同盟ノ擴大強化ヲ圖ル行爲カ治安維持法ノ「目的遂行ノ爲ニスル行爲」ニ當ルト獨斷スル原判決ハ理由不備ノ違法アリト云ハネハナラヌト云フニ在リテ日本共產黨又ハ日本共產青年同盟ノ擴大強化ヲ圖ルコト自體カ黨又ハ同盟ノ目的ニアラサルコト所論ノ如シト雖黨又ハ同盟カ其ノ目的ヲ達成センカ爲ニハ其ノ組織ヲ強固ニシ且其ノ充實擴大ヲ圖ラサルヘカラサルコト言フ俟タサルカ故ニ斯ル必要ノ爲ニスル行爲ハ黨又ハ同盟ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ニ屬スルモノト謂ハサルヘカラス然レハ原判決ニ於テ被告人等カ無産新聞第二無産新聞無産青年等ヲ他人ニ配布シテ日本共產黨及日本共產青年同盟ノ擴大強化ヲ圖リタル行爲ヲ認メ之ヲ黨及同盟ノ

【要旨第二】

目的遂行ノ爲ニスル行爲ナリトシテ治安維持法第一條ニ間擬シタルハ正當ニシテ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事佐々波與佐次郎關與

御事... 昭和八年...

昭和八年四月十六日... 東京控訴院...

東京地方裁判所... 第一五二五號...

被告 金龍 濟... 東京控訴院...

(三) 治安維持法違反被告事件 (昭和八年(九)第一五二五號 棄却)

【上告人】 被告人 金龍 濟

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○ 判示事項

結社ノ範圍——豫審終結決定ト上告諭旨

○ 判決要旨

一 治安維持法第一條ニ所謂結社ハ其ノ組織活動力秘密ニ行ハルルト否トヲ問ハサルモノトス【要旨第一】

二 豫審終結決定ノミニ對スル非難ハ上告適法ノ理由トナラス【要旨第二】

【參照】 治安維持法第一條 團體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニ

スル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス 私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、結社ニ加入シタル

三、「結社ノ意義」ニ關スルモノ

三、「結社ノ意義」ニ關スルモノ

一一二

者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

刑事訴訟法第四百四十六條 上告理由ナキトキハ之ヲ棄却スヘシ

### ○事實

原審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三年ニ處ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トストノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ朝鮮忠清北道清州公立高等普通學校ヲ中途退學シ昭和二年一月苦學ノ目的ヲ以テ上京シ新聞配達ニ從事シ傍ラ私立中央大學專門部法科ニ入學シタルモ間モナク學費不足ノ爲退學スルニ至リタルカ其ノ頃ヨリプロレタリア藝術ニ關スル文獻ヲ涉獵シ漸次共產主義思想ヲ懷クニ至リ昭和五年六月頃文藝雜誌新興詩人同年九月當時全日本無產者藝術團體協會(ナツプ)指導下ニ結成セラレタルプロレタリア詩人會ノ各同人トナリ同六年七月頃右詩人會ノ中央委員トナリ更ニ其ノ頃日本プロレタリア作家同盟ニ加入シ同七年一月下旬右同盟本部常任書記ニ同年五月頃ニハ其ノ東京支部執行委員及同支部朝鮮臺灣委員會責任者ニ夫々選任セラレタルモノナルトコロ日本共產青年同盟カ國際共產青年同盟ノ日本支部ニシテ青年獨自ノ立場ニ於テ革命的手段ヲ我君主制ヲ廢止シ私有財産制度ヲ否認シ無産階級獨裁ニヨリ共產主義社會ノ實現ヲ目的トスル結社ナルコトヲ知リ乍ラ

第一 昭和七年二月頃東京市淀橋區上落合一丁目四百六十番地(舊東京府豊多摩郡落合町大字上落合四百六十番地)日本プロレタリア作家同盟事務所内ニ於テ日本共產青年同盟員伊藤信吉ヨリ同盟ニ加入方ヲ勸誘セラレ之ヲ承諾シテ右同盟ニ加入シ日本プロレタリア文化聯盟日本共產青年同盟ヲラクシヨシ日本プロレタリア作家同盟班ニ所屬シ

第二 (一) 同年二月下旬頃ヨリ同年六月中旬頃迄ノ間三回ニ互リ舊東京府豊多摩郡落合町上落合番地不詳今野大力方其ノ他ニ於テ前記伊藤信吉今野大力外數名ト共ニ研究會名義ノ下ニ前示日本共產青年同盟ヲラクシヨシ會議ヲ開キ同盟ノ活動方針及ヒ同盟員獲得ノ方法等ニ付協議シ

(二) 同年三月初旬及同年四月上旬ノ二回ニ前示作家事務所ヨリ省線東中野驛ニ至ル路上ニ於テ右作家同盟員北山雅子ニ對シ日本共產青年同盟ニ加入方ヲ勸誘シテ其ノ承諾ヲ得タル等

右同盟ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中國體變革ヲ目的トスル結社ニ加入シ其ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲナシタル點ハ治安維持法第一條第一項後段ニ私有財産制度否認ヲ目的トスル結社ニ加入シ其ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲナシタル點ハ同條第二項ニ各該當スルトコロ以上ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルモノナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ前者ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ所定期限範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三年ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二

三、「結社ノ意義」ニ關スルモノ

一一三

百三十七條第一項ニヨリ全部被告人ノ負擔トスヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書本件ノ前審ニ於ケル判決全部ニ對スル不服ノ理由トシテ左記ノ諸要點ニ就イテ逐次述ヘマス一、本件ノ社會的意義一、治安維持法ノ本質的竝ニ法文的解釋一、豫審終結書ト事實ト相違スル二點一、本件ニ對スル主張一、本件カ無產階級解放運動ノ爲ニナサレタ活動テアツタ事ハ論ヲ俟ツ迄モ無イ事實テアリマシテ現在ノ資本主義社會ニ於ケルプロレタリアートノ社會的地位ノ悲惨生活の窮迫巨大ナル失業群出現等々ノ原由ニ就イテ訊セハ之即チ資本家地主階級ノ横暴不當ナル野蠻の非人道的搾取生産機關ノ獨占分配不平等々トソレヲ擁護スル階級的諸制度ニアルノテ斯ル反社會的機構ヲハ改良變革セントスル意思又ハ其ノ目的遂行ノ爲ニスル諸般ノ活動ハ社會人類進化上當然ナ要求テアリ正義真理ヲ熱愛スル進歩的人士ノ權利テアリ義務テアルノテアリマス而シテ客觀的社會狀勢ノ現段階ニ於ケル我等プロレタリアートカ社會層ノ最多數ヲ構成シテ居ル所ノ自己階級ノ利益ノ完全ナル解放ヲ目的トシテ活動スル爲ニ政治的經濟的文化的結社團結ヲ以テ暴虐ナル敵階級ノ陣營ト闘争スル事ハ歴史的過程ニ於ケル進歩的神聖ナ事業職分テアリ世界輿論ノ趨勢ハ勿論凡テノ國ノ立憲制度ニ於テハ

原則的ニ是認シテ居ル現狀テアリマス斯ル資本主義桎梏カラプロレタリアートノ最後ノ完全ナル解放

ノ爲ニハ共產主義世界觀ノミカ唯一ノ正シキ道テアルコトヲ自發的ニ認識シ又ハ現在ノソヴェートロシアニ於ケルプロレタリア革命ノ建設的勝利成功ニ益々其ノ確信ヲ強クシテ資本家地主階級ト戦ツテ居ルノテアリマス私カ共產主義思想ヲ真正ナ世界觀トシテ信奉シ日本共產青年同盟ニ加盟シテ其ノ活動ニ從事セントシタ迄ノ動機竝ニ其ノ過程トシテハ社會科學的理論ヤ左翼藝術運動ニ於ケル研究著作ニ於テ其ノ確信ヲ強メタ事ハ勿論テアリマスカ一方私カ少年時代カラ一植民地労働者トシテ特別ニ弱小民族ニ對スル卑劣ナ差別待遇ノ甚シイ日本内地ノ労働市場ニ於テ新聞ヤ牛乳配達等ニ從事シテ居ル中ニ其ノ殘忍ナ搾取經濟闘争失業苦等ヲ生活的ニ體驗シ又ハ朝鮮内地ニ於ケル日本ノ帝國主義政策カ二重ニモ三重ニモ朝鮮民衆ヲ實ニ破廉恥的ニ搾取壓迫シテ年々幾萬ヲ超エル民衆ヲ其ノ故郷カラ滿洲ヤ日本内地ニ放逐離散セシメル事實ヲ目視シ又ハソノ波ノ一ツトシテ私ノ家庭經濟モ其ノ犠牲トシテ破産没落シテ居ル等ノ深刻眞摯ナ生キタ教訓カラ來テ居ル原因カアルノテアリマス一、然ルニ本件ニ對スル前審ノ判決ニ於テハ斯ル正當ナル社會的要求ニ基ク活動テアルニモ拘ラス治安維持法違反ニ該當スルモノトシテ實ニ苛酷ナ刑ヲ言渡シテ居ルノテアリマス私ハココニ治安維持法ナルモノノ解釋ノ意見ヲ述ヘテ其ノ本件ニ適用スヘキ性質ノモノテ無イ事ヲ主張スルモノテアリマス抑々本法律ノ立法精神カ其ノ本質ニ於テ既ニ反社會性ニ立脚シテ居ルモノテアリマシテ其ノ作用ハ單ニ不當ナル資本家



地主階級ノ利益ノミヲ擁護シテ革命的プロレタリアートノ解放運動ニ對スル禁壓的階級法律ニ過キ無イモノテアルノハ勿論テアリマス而シテ現在ニ於テハ主トシテ共產黨員共產青年同盟員並ニ其ノ同情者ニ適用サレテ居ルノテアリマスカ此レハ時代精神ニ逆行スル反社會的司法政策タト信スルモノテアリマス次ニ同法文中ニアル「秘密結社」ナル文字ハ決シテ共產黨ヤ共產青年同盟ノ場合ニハ該當スルモノテハナイノテアリマス何故ナレハ此等ノ組織ハ全世界ニ於ケル國際的規模ナモノテアツテ凡テノ國ニ於テ公々然ト活動シテ居ルモノテアリマス勿論日本ニ於キマシテモ社會成員ノ最大多數ヲ構成シテ居ル所ノ勞働階級並ニ農民社會ニ於テ大衆的ニ組織サレ絶對的ニ聲援支持サレテ居ル現狀テアリマシタ其ノ活動形態ニ於テモ公然ト大衆的ニナサレテ居ルカラテアリマシテモ私ノ加盟所屬シテ居ル所ノ日本共產青年同盟ニ於テハ革命運動ノ主體政黨タル共產黨ノ其レヨリモ一層遙カニ廣汎ナル無產青年ノ大衆的組織テアリマシテ帝國主義戰爭反對等ノ青年ノ地位利益ヲ獲得スル爲ニ其ノ特殊ノ立場ニ於テ活動スル公然タル團體テアリマシテ何等ノ理由カラシテモ共產青年同盟ヲ秘密結社ト見ナス論據ハ有リ得ナイノテアリマス次ニプロレタリアート並ニ其ノ解放運動者ハ治安維持法ヲ始メ一切ノ無產階級彈壓ノ法律ニ對シテ何等ノ立法的社會的約束モ無イノテアリマシテ唯單ニブルジョア階級ノ不當橫暴ナル利益ノ爲ニノ犧牲ニ晒ラサレル片務的強制ニ過キ無イノテアリマスカ本件ニ類スル事件ノ總テハ決シテ治安維持法ノ適用ニ依ツテ處罰サヘルヘキ性質ノモノテハ無イト信シマス一本件豫審終

結書ニ事實ト相違スル左記ノ二點カアリマス(1)日本プロレタリア作家同盟員ナル北山雅子ハ日本共產青年同盟員テナイコトハ證人伊藤信吉モ明言シテ居ル通りテアリマスカ其ノ加盟承認ヲ保留スル迄ニ一先私カ本人カラ加盟スルノ承諾ヲ得タコトニナツテ居ル點ハ事實ト相違スル所テアリマシテ私ノ北山雅子カラ得タ答辯ハ考ヘサセテ欲シイト言フコトニ過キ無イノテアリマス(2)豫審終結書ニハ文學研究會ノ名義ノ下ニ共產青年同盟ヲラクシヨシ會議ヲ三回開催シテ藝術運動内ニ於ケル方針等ヲ協議シタコトニナツテ居ル詩研究會テアツタノテアリマス一、最後ニ以上述ヘ來タ所ノ當然ノ結論同盟ニ於テ常例トサレテ居ル詩研究會テアツタノテアリマス一、最後ニ以上述ヘ來タ所ノ當然ノ結論トシテ次ノコトヲハ主張スルモノテアリマス我等プロレタリアートカ其ノ純正眞摯ナ社會正義人ト人類愛トニ確固ト深遠ニ眞理ツケラレテ居ル所ノ共產主義世界觀ヲ信奉シ自己階級ノ完全ナル最後ノ解放ヲ目的トシテ其ノ理想社會實現ノ爲ニ諸般ノ社會活動ヲナスコトハ自由ナル權利テアリ神聖ナル事業ナノテアリマス然ルニ斯ル正當ナル社會的要求ノ下ニナサレル活動ニ對シテ刑法的強制ヲ以テスル司法的傾向ハ反社會的政策トヨリ認識スルノ外ハ無イノテアリマス故ニ本件ニ對シテハ絶對的ニ無罪釋放ヲ主張スルハ勿論テアリマシテ尙總テノ無產階級解放運動ノ犧牲トナツテ投獄サレテ居ル數千ニ餘ル同志等ノ釋放ト治安維持法其ノ他一切ノ階級的法令ノ撤廢ヲ要求セサルヲ得ナイ所以テアリマス右ノ通りノ趣意ニ依リマシテ本件ノ大審院ニ於ケル判決カ必ス無罪ナル事ヲ確信シテ本趣意書ヲ提

出スルモノテアリマスト云フニ在レトモ

【要旨第一】 苟モ國體ヲ變革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル結社ニ加入シ又ハ其ノ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルトキハ治安維持法第一條ニ所謂結社加入罪又ハ目的遂行罪ヲ構成シ其ノ結社ノ組織活動カ秘密ニ行ハルト否トハ同罪ノ成立ニ消長ヲ來スモノニ非ス而シテ原判決ノ證據ニ依リテ認定シタル事實ニ依レハ被告人ハ日本共產青年同産カ國際共產青年同盟ノ日本支部ニシテ青年獨自ノ立場ニ於テ革命的手段ニ依リ我君主制ヲ廢止シ私有財産制度ヲ否認シ無産階級獨裁ニ依ル共產主義社會ノ實現ヲ目的トスル結社ナルコトヲ知リナカラ同同盟ニ加入シ且同同盟ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルヒト明白ニシテ其ノ行爲ハ右結社カ秘密結社ナルト否トニ拘ラス治安維持法第一條ノ罪ヲ構成スヘキモノナルカ故ニ原審ノ擬律ニ違法ノ點アルコトナシ然レハ該法文中ニ結社トアルヲ秘密結社トアリトノ誤解並秘密結社ニ非サレハ同法條ニ該當セストノ誤レル前提ノ下ニ原判決ヲ批判シ日本共產青年同盟ハ公然タル結社ナレハ同法條ノ適用ヲ受ケスト爲ス所論ハ失當ナリ(二)上告ハ下級審ノ判決ニ對スル不服申立ノ方法ナレハ豫審終結決定書ニ對スル非難ハ上告適法ノ理由トナラサルコト勿論ナリ然レハ該決定書ノ内容カ眞實ニ反スルコトヲ理由ト爲ス所論ハ正當ニ非ス(三)其ノ他縷々論議スル所ハ要スルニ被告人カ共產主義思想ヲ抱懷シ日本共產青年同盟ニ加入シテ其ノ活動ニ從事スルニ至リタル動機過程ヲ敘シ治安維持法其ノ他ノ法令ニ對スル服從義務ヲ否認シ共產主義社

【要旨第二】

會ノ實現ヲ謳歌スルニ外ナラサルモノナルモ我日本臣民タル者ハ何人ト雖現行法律ニ服從スヘキモノニシテ此ノ服從義務ヲ否定スルコトハ國法ノ許ササル所ナリトス然レハ此ノ點ニ關スル所論ハ到底上告適法ノ理由トナラス論旨孰レモ理由ナシ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事平井彦三郎關與

四、「結社加入ノ意義」ニ關スルモノ

(一) 治安維持法違反被告事件 (昭和九年(九)第五一二號 棄却)

【上告人】 被告人 林 利 夫 辯護人 齋藤素雄

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○ 判示事項

治安維持法第一條ニ所謂加入ノ意義

○ 判決要旨

日本共產主義青年同盟員ヨリ該同盟ニ加入スヘキ旨ノ勧誘ヲ受ケテ之ヲ承諾シタル以上ハ治安維持法第一條ノ加入罪ヲ構成スルモノニシテ該同盟ニ於テ更ニ加入ノ手續ヲ爲スコトハ同罪ノ構成要件ニ非ス

四、「結社加入ノ意義」ニ關スルモノ

【參照】治安維持法第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知りテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル社者結ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役五年ニ處ス但シ原審ノ未決勾留日數中三百日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ大分縣杵築中學校在學中既ニ社會科會ニ興味ヲ持チ同校卒業後早稻田第二高等學院ヲ經テ昭和四年四月早稻田大學政治經濟學部經濟科ニ入學シテヨリ同大學內社會科學研究會ニ入りマルクス主義ヲ研究スルニ及ヒ共產主義思想ヲ抱懷スルニ至リ間モナク同大學雄辯會解散事件ニ座シテ同年六月同大學ヲ退學セラレルヤ一時大分縣ニ歸郷シ居リタルモ昭和五年七月共產主義實踐運動ニ參加センコトヲ決意シテ再ヒ上京シ日本共產黨カ國際共產黨ノ日本支部ニシテ革命手段ニ依リ我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認シ無産階級獨裁ヲ樹立シ之ヲ經テ共產主義社會ヲ實現センコトヲ目的トスル秘密結

社ナルコト日本共產主義青年同盟カ國際共產主義青年同盟ノ日本支部ニシテ青年獨自ノ立場ニ於テ革命手段ニ依リ我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル秘密結社ナルコト及「無産青年」新聞カ日本共產主義青年同盟ノ補助機關紙ニシテ右同盟ノ主義綱領ヲ大衆ニ宣傳煽動スル任務ヲ有スルモノナルコトヲ知り乍ラ第一、昭和五年七月「無産青年」新聞本社組織部員ニシテ同社城南支局ヲ擔當シ居タル安藤義雄ノ命ニ從ヒ同支局事務係トナリ同年九月上旬迄同人ノ指導ノ下ニ同支局ヲ統制シ資料シ蒐集同新聞ノ發行及諸種ノ出版物ノ配付等ヲ擔當シ南某外數名ノ局員ヲ使用シテ森永製菓工場及慶應大學慈惠會醫科大學等へ右「無産青年」每號約二百部宛配付シ其ノ紙代ヲ整理シ同年九月上旬右無産青年本社編輯部責任者八江事宮川寅雄ノ命ニ依リ同新聞本社編輯部員ニ就任シ同年十一月上旬迄各支局ト連絡シ各支局内ノ情勢及ニュースノ編輯ニ從事シ第二、昭和六年三月上旬右同盟中央資料調查部責任者井上事加藤爲作ノ命ニ依リ同調查部内營働部責任者トナリ右加藤ノ指導ノ下ニ部員二名ヲ指導シテ東京市電氣局乗合自動車部及東京乗合自動車株式會社ノ賃銀及區間改正等ニ關スル調査ニ從事シ同年六月上旬右共產主義青年同盟中央資料調查部カ日本共產黨資料調查部ニ合併セラレルヤ同調查部内勞働部及軍事部責任者トナリ同年八月末迄部員三名ヲ指導シテ北九州工場ニ關スル調査千九百二十八年以後ノ全國ストライキ件數ノ調査其ノ他一般的調査事務ニ從事シテ日本共產黨活動ノ資料ヲ提供シ第三、之ヨリ先同年五月頃東京市營電車内ニ於テ右同盟員ニシテ同盟中央資料調查

部内經濟部責任者通稱一郎事某ヨリ右同盟ニ加入スヘキ旨ノ勸誘ヲ受ケテ之ヲ承諾シ以テ同盟ニ加入シ第四、同年九月下旬頃前記通稱一郎事某ノ命ニ依リ右同盟中央部資金責任者トナリ同盟中央委員岸勝ヨリ明治大學同大學女子部文化學院法政大學等ノ各資金係ヲ又日本共產黨資金係某ヨリ第一高等學校ノ資金係ヲ夫々紹介セラレ昭和七年三月上旬迄右各資金係ト連絡シテ毎月平均百圓ノ同盟資金ヲ募集シテ之ヲ右岸勝ニ交付シ第五、昭和七年三月中旬頃右同盟中央委員クロ事岨常次郎ノ命ニ依リ同盟中央部事務局發送係トナル同月下旬發送部責任者ニ就任シ右同盟發行ノ出版物發送ニ關スル事務ヲ掌リ次テ同年四月上旬頃同事務局責任者佐伯事黑澤俊雄ノ命ニ依リ同局配布部責任者トナリ右同盟機關紙「レーニン青年」及「無産青年」其ノ他ノ配布状態等ヲ調査シ以テ日本共產主義青年同盟ニ加入シ且該同盟及日本共產黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノニシテ右同盟ニ加入シテ其ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル點ト日本共產黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル點トハ犯意繼續ニ係ルモノナリ

法律ニ照スニ判示被告人ノ所爲中國體變革ヲ目的トスル結社ニ加入シ且右兩結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル點ハ治安維持法第一條第一項後段刑法第五十五條ニ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル結社ニ加入シ且右兩結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル點ハ同條第二項刑法第五十五條ニ夫々該當スルトコロ以上ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項

前段第十條ニ則リ重キ治安維持法第一條第一項後段ノ罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役五年ニ處シ刑法第二十一條ニ依リ原審ノ未決勾留日數三百日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人齋藤素雄上告趣意書第一點ハ原判決ハ證據ニ基カスシテ事實ヲ認定シタルノ不法アルカ又ハ審理不盡理由不備ノ不法アリ即チ原判決ハ其ノ理由ノ部ニ於テ「(前略)日本共產主義青年同盟カ國際共產主義青年同盟ノ日本支部ニシテ青年獨自ノ立場ニ於テ革命手段ニヨリ我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル秘密結社ナルコト(中略)ヲ知リ乍ラ(中略)第三同年五月頃東京市營電車内ニ於テ右同盟員ニシテ同盟中央資料調查部内經濟部責任者通稱一郎事某ヨリ右同盟ニ加入スヘキ旨ノ勸誘ヲ受ケテ之ヲ承諾シ以テ同盟ニ加入シタルハ云々被告人ノ當公庭ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ依リテ之ヲ認ム」トシテ之カ事實ヲ認定シタリ然レトモ被告人ノ供述ハ前記ノ如ク昭和五年五月頃市電電車内ニ於テ右同盟中央資料調查部内經濟部責任者通稱一郎事某ヨリ右同盟ニ加入スヘキ旨ノ勸誘ヲ受ケタルニヨリ之ヲ承諾シタル旨ノ記載アルニ過キスシテ之カ供述記載ノミニヨリ被告人カ同盟

ニ加入シタルモノト云フヘカラス同盟ニ加入シタリトスルニハ被告人ノ加入承諾ニ基キ同盟ニ於テ被告人ヲ同盟ニ加フヘキ手續ヲ採リテ始メテ同盟ニ加入シタリト云フヲ得ヘキモノトス況ンヤ右ノ勸誘ヲ爲シタルハ中央資料調査部内經濟部責任者通稱一郎ト稱スル氏名不詳ノ者ニシテ同人カ果シテ同盟員ナルヤ又ハ其ノ加入ヲ勸誘シ之カ承諾アルニ於テハ直チニ同盟加入シタルモノト爲スヘキ權限ヲ有シタルヤ否ヤ全ク不明ナリトス從テ如斯者ノ勸誘ニヨリ加入ヲ承諾シタリトスルモノノミニヨリ俄ニ同盟ニ加入シタルモノト爲スヘカラサルコトモトヨリ明ナリ須ク以上ノ事實ヲ審理シ之カ證據ニ基キテ加入ノ事實ヲ認定スヘキニ拘ラス事茲ニ出テス氏名不詳ノ者ノ加入勸誘ニヨリ承諾シタル旨ノ供述ニヨリ漫然右ノ事實ヲ認定シタルハ證據ニ基カスシテ事實ヲ認定シタルカ又ハ審理不盡理由不備ノ不法アルモノトスト云フニ在レトモ

【要旨】

日本共產主義青年同盟員ヨリ該同盟ニ加入スヘキ旨ノ勸誘ヲ受ケテ之ヲ承諾シタル以上ハ同盟ニ加入シタルモノニシテ該同盟ニ於テ更ニ加入ノ手續ヲ採リタルコトハ法ニ所謂加入ノ必要條件ニ非サルモノトス所論原判示第三事實ニ依レハ被告人ハ昭和六年五月頃東京市營電車内ニ於テ判示日本共產主義青年同盟員ニシテ同盟中央資料調査部内經濟部責任者通稱一郎コト某ヨリ右同盟ニ加入スヘキ旨ノ勸誘ヲ受ケテ之ヲ承諾シタリト謂フニ在リテ右事實ハ原判決擧示ノ證據ニヨリ之ヲ認メ得ルカ故ニ原判決ハ被告人カ判示同盟ニ加入シタリト認メタルハ正當ナリ然ラハ原判決ニ證據ニ基カスシテ事實

ヲ認定シタル違法アルコトナク又理由不備審理不盡等ノ違法ナキヲ以テ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事佐々波與佐次郎關與

五、「目的遂行ノ爲ニスル行爲ノ意義」ニ關スルモノ

(一) 治安維持法違反新聞紙法違反被告事件 (昭和五年(九)第一四六五號 棄却)

【上告人】 被告人 吉田雅雄 辯護人 布大河森合施林合林合平合 小河林合平合

【第一審】 岡山地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○ 判示事項

治安維持法第一條ニ所謂結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ト結社トノ關係

○ 判決要旨

治安維持法第一條所定ノ結社ノ存在ヲ知り其ノ結社ヲ支持シ之カ擴大強化ヲ圖ル行爲ヲ爲シタル者ハ同結社ト組織關係ヲ有セス又

五、「目的遂行ノ爲ニスル行爲ノ意義」ニ關スルモノ

ハ其ノ機關ノ統制指揮ヲ受クルコトナキモ同條ニ所謂結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ニ該當ス

【參照】治安維持法第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス  
私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス  
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法令ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二年六月ニ處シ未決勾留日數百日ヲ本刑ニ算入シ訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
被告人ハ第六高等學校在學中大正十五年十一月頃同校社會科學研究會ニ加入シ間モナク共產主義ヲ信奉スルニ至リ同校校長ノ戒告アリタルニ拘ラス依然竊ニ其ノ研究ニ没頭スルト共ニ岡山市在住ノ各種無産運動ノ闘士ト交際シ居リタルカ昭和三年三月頃「赤旗」等日本共產黨ニ關スル文書ヲ讀ミ同黨カロシヤニ於ケル第三インターナショナル(國際共產黨)ノ支部トシテ我國ニ於テ秘密ニ組織セラレ

我立國ノ大本タル立憲君主制ヲ廢止シ私有財産制度ヲ撤廢シ以テ無産階級獨裁政治ヲ行フ共產主義社會ヲ實現センコトヲ目的トスル結社ナルコトヲ知ルニ及ヒ其ノ目的トスル所ニ共鳴シテ同黨ヲ支持セシコトヲ決意シ當時同黨ノ活動方針カ黨組織擴大ノ爲先ツ労働者ヲシテ労働組合ヲ結成セシメ次テ之ニ共產主義ヲ宣傳煽動スルニ在リシヲ以テ此ノ趣旨ニ基キ其ノ頃西某外二名ノ労働者ニ對シ無産者新聞ヲ閱讀セシメマルクス主義ノ研究ヲ奨ムル等種々策動シタル爲遂ニ檢舉セラレ昭和三年十月三十一日岡山地方裁判所ニ於テ懲役一年六月ニ處セラレタルカ右刑ハ三年間其ノ執行ヲ猶豫セラレタルノミナラス同年勅令第二七〇號ニヨリ懲役一年一月十五日ニ減刑セララルルノ恩典ニ浴シタルニ拘ラス尙其ノ抱懷セル共產主義思想ヨリ脱スル能ハス昭和四年七月頃ヨリ再ヒ岡山市在住ノ無産運動者ト往來シ或ハ無産者新聞ニ對シ岡山市ニ於ケル無産運動ノ情況ヲ通信シタルコトモアリシカ右日本共產黨ハ昭和三年三月十五日及昭和四年四月十六日其ノ黨員ノ多數カ檢舉セラレタルモ未タ潰滅ニ至ラス依然存在シテ活動ヲ續ケ居ルコトヲ知リ又モ同黨ヲ支持シ其ノ目的トスル所ヲ他人ニ宣傳シ同黨ノ擴大強化ヲ圖ラント決意シ犯意繼續シテ

第一 無産者新聞及第二無産者新聞カ執レモ毎月六回發行セララルル合法新聞ニシテ日本共產黨指導ノ下ニ同黨ノ政策ヲ大衆ノ間ニ煽動シ其ノ擴大強化ヲ圖ル目的ヲ以テ發行セラレ次ニ記載スル各號ハ執レモ之ニ副フ記事ヲ掲載シ居レルコトヲ知悉シツツ昭和四年八月下旬頃ヨリ同年十月中旬頃迄、

五、「目的遂行」爲ニスル行爲ノ意義ニ關スルモノ



間ニ互リ無産者新聞終刊號及第二無産者新聞創刊號ヨリ第六號迄ヲ其ノ發賣所ナル東京市麴町區三番町戦旗社ヨリ自己ノ秘密通信先ナル岡山市上西川町石原彌平内安東幸子方ニ取寄セタル上其ノ内第二無産者新聞第二乃至四號及第六號ニ付テハ内務大臣ヨリ安寧秩序ヲ紊スモノトシテ其ノ發賣頒布ヲ禁止セラレタルコトヲ確實ニ了知シナカラ右取寄セタル全部ヲ其ノ頃同ヲ重ネ岡山市内ニ於テ藤田俊徳 堺好明 伊藤敏雄等ニ手交又ハ郵送シ尙長門錠一ニハ其ノ秘密通信先ナル岡山縣吉備郡足守町大木誠治方ニ郵送シ以テ之ヲ頒布シ同人等ノ閱讀ニ供シ

第二 昭和四年十月下旬頃ノ夜岡山縣和氣郡本莊村大字日室ノ山腹ニ在ル大師堂ニ於テ無産運動ニ興味ヲ有スル恒次光高外四名ノ農民及労働者ト荻野ナル偽名ニテ密ニ會合シ同人等ニ對シ私有財産制度ヲ認メタル資本主義社會ハ矛盾シ居ルヲ以テ革命ノ方法ニ依リ之ヲ改革シ無産階級ヲ解放セサルヘカラス而モ其ノ解放ハ日本共產黨ノ力ニ依ルノ外ナシ同黨ハ度々ノ檢舉ニ遭ヒタルモ依然コンミンテルンノ一支部トシテ活動シ居ルヲ以テ諸君ハ日本共產黨ヲ支持シ其ノ指揮下ニ活動シ無産階級ノ解放ヲ期セサルヘカラス又無産階級解放運動ニ關スル新聞雜誌ヲ讀ミテ階級意識ヲ高メ農民組合労働組合ヲ組織シ團體ノ力ニ依リ無産運動ヲ起スヘキ旨說示シテ日本共產黨ノ存在及其ノ活動ヲ知ラシムルト共ニ同黨ニ共鳴シ之ヲ支持スヘキ旨ヲ宣傳煽動シ

以テ孰レモ日本共產黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行動ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ第一ノ各行爲及第二ノ行爲ハ夫々一面ニ於テ治安維持法第一條第一項後段ニ他面ニ於テ同條第二項ニ該當シ又第一ノ内ノ數箇ノ行爲ニ於ケル禁止ノ情ヲ知リテ新聞紙ヲ頒布シタル點ハ各新聞紙法第三十八條後段第二十三條第一項ニ該當スル處右各行爲ハ孰レモ一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ各行爲ニ付夫々最モ重キ治安維持法第一條第一項後段所定ノ刑ニ從ヒ且ツ連續犯ナルヲ以テ刑法第五十五條ニ依リ一罪トシテ處分シ所定ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年六月ニ處シ同法第二十一條ニヨリ原審ニ於ケル未決勾留日數中百日ヲ其ノ本刑ニ算入スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○理由

辯護人布施辰治 大森詮夫 河合篤 小林恭平上告趣意書原判決ハ被告ノ犯罪事實ヲ「被告人ハ昭和四年七月頃ヨリ再ヒ岡山市在住ノ無産運動者ト往來シ或ハ無産者新聞ニ對シ岡山市ニ於ケル無産運動ノ情況ヲ通信シタルコトモアリシカ右日本共產黨ハ昭和三年三月十五日及昭和四年四月十六日其ノ黨員ノ多數カ檢舉セラレタルモ未タ潰滅ニ至ラス依然存在シテ活動ヲ續ケ居レルコトヲ知リ又モ同黨ヲ支持シ其ノ目的トスルトコロヲ他人ニ宣傳シ同黨ノ擴大強化ヲ圖ラント決意シ犯意繼續シテ第一無産者新聞及第二無産者新聞カ孰レモ毎月六回發行セラルル合法新聞ニシテ日本共產黨指導ノ下ニ同黨ノ政策

ヲ大衆ノ間ニ宣傳煽動シ其ノ擴大強化ヲ圖ル目的ヲ以テ發行セラレ次ニ記載スル各號ハ孰レモ之ニ副  
フ記事ヲ掲載シ居レルコトヲ知悉シツツ昭和四年八月下旬頃ヨリ同年十月中旬頃迄ノ間ニ互リ無産者  
新聞終刊號及第二無産者新聞創刊號ヨリ第六號迄ヲ其ノ發賣所ナル東京市麩町區三番町戰旗社ヨリ自  
己ノ秘密通信先ナル岡山市上西川町石原彌平内安東幸子方ニ取寄セタル上其ノ内第二無産者新聞第二  
乃至四號及第六號ニ付テハ内務大臣ヨリ安寧秩序ヲ紊スモノトシテ其ノ發賣頒布ヲ禁止セラレタルコ  
トヲ確實ニ了知シ乍ラ右取寄セタル全部ヲ其ノ頃同ヲ重ネ岡山市内ニ於テ藤田俊徳 堺好明 伊藤敏雄  
等ニ手交又ハ郵送シ尙長門錠一ニハ其ノ秘密通信先ナル岡山縣吉備郡足守町大木誠治方ニ郵送シ以テ  
之ヲ頒布シ同人等ノ閱讀ニ供シ第二昭和四年十月下旬頃ノ夜岡山縣和氣郡本莊村大字日室ノ山腹ニ在  
ル大師堂ニ於テ無産運動ニ興味ヲ有スル恒次光高外四名ノ農民及労働者ト荻野ナル偽名ニテ密ニ會合  
シ同人等ニ對シ私有財産制度ヲ認メタル資本主義社會ハ矛盾シ居ルヲ以テ革命ノ方法ニ依リ之ヲ改革  
シ無産階級ヲ解放セサルヘカラス而モ其ノ解放ハ日本共產黨ノ力ニ依ルノ外ナシ同黨ハ度々ノ檢舉ニ  
遭ヒタルモ依然コンミンテルンノ一支部トシテ活動シ居ルヲ以テ諸君ハ日本共產黨ヲ支持シ其ノ指導  
下ニ活動シ無産階級ノ解放ヲ期セサルヘカラス又無産階級解放運動ニ關スル新聞雜誌ヲ讀ミテ階級意  
識ヲ高メ農民組合労働組合ヲ組織シ團體ノ力ニ依リ無産運動ヲ起スヘキ旨說示シテ日本共產黨ノ存在  
及其ノ活動ヲ知ラシムルト共ニ同黨ニ共鳴シ之ヲ支持スヘキ旨ヲ宣傳煽動シ以テ孰レモ日本共產黨ノ

目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノナリト認定シ治安維持法第一條第一項後段並第二項ヲ適用  
シテ懲役二年六ヶ月ノ嚴罰ニ處シテ居リマシタカ辯護人ノ慎重ニ檢討シ治安維持法第一條第一項後  
段並第二項ノ解釋ト被告人ノ行爲トシテ原判決ノ認定シタ事實關係ハ事實ノ誤認若ハ擬律錯誤ノ不法  
タルコトヲ免レサル左記ノ如キ失當ヲ彈劾セラルヘキモノト確信シマス治安維持法第一條第一項後段  
並第二項後段ハ昭和三年六月二十九日勅令第一二九號ヲ以テ改正セラレタ際新ニ附加セラレタモノテ  
其ノ意義頗ル明確ヲ缺キ制定當時ノ立法者ノ說明亦曖昧ニシテ能ク其ノ意ヲ捉フルコトヲ得ナイ程漠  
然トシテ居タモノテアルカ實施後ノ適用ノ實際ニ於テハ何等明確ナル基準ナク日本共產黨ニ關スル限  
リ直接間接アラユル行爲ヲ此ノ條規ニ依テ律セントシ其ノ適用ハ驚クヘク廣汎ナル範圍ニ互リ殆ト限  
界ナキカ如クテアルスクノ如キハ實ニ人民ノ自由權ノ尊重ヲ以テ其ノ主要ナル使命トスル近代の法治  
國家ニ於ケル法律制度發展ノ傾向ニ逆行スルモノテアツテ嚴ニ慎ムヘキコトヲ要シ其ノ解釋適用ニハ  
明確ナル限界ヲ付スヘキモノテアル辯護人ハ第五十六議會衆議院昭和三年勅令一二九號治安維持法改  
正ノ件(承諾ヲ求ムル件)委員會ニ於ケル泉二刑事局長ノ說明ニ現ハレタル立法者ノ意思及制定後ニ於  
ケル適用ノ實際ト日本共產黨ノ組織統制及活動トヲ批判考査シ「結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲  
シタル者」ニ該當スヘキ要件ヲ左ノ如ク嚴格ニ分析スル一、結社ノ目的ハ團體變革又ハ私有財産制度  
否認ニ存スルコト二、行爲ノ主體ハ未タ結社ノ加入者ニ非サルコト三、行爲ハ團體ノ變革又ハ私有財産

制度ノ否認ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ協議シ又ハ其ノ目的タル事項ノ實行ノ煽動ヲ爲スコト而モ之等ノ行爲カ主觀的客觀的ニ結社トノ具體的關連ニ於テ爲サレルコト（此ノ點ニ於テ新規定第一條第一項後段及第二項後段ハ舊規定第二條第三條ニ包含セラレタ實質的内容ヲ二分シ結社トノ關連ヲ缺ク行爲ヲ第二條第三條ニ該當スヘキモノトシテ改正ニ依テ第二條第三條ノ内容以上ノモノカ新ニ附加サレタモノトハナイ）四、行爲ノ主觀的要件ハ（1）斯ノ如キ目的ヲ有スル結社ノ存在ヲ認識スルコト（2）行爲者自身ニ於テ結社ノ目的ヲ自己ノ行爲ノ目的トスルコト（3）既存ノ結社其ノモノノ爲ニスル積極的意欲アルコト五、行爲ノ客觀的要件ハ（1）行爲カ結社ノ機關ノ統制指導ノ下ニ爲サレルコト（2）目的實現ニ對シテ客觀的具體的ニ因果關係ヲ認メ得ヘキコト而シテ此ノ結社カ日本共產黨ヲ指ス場合ニ於テハ行爲主體ハ未タ黨員ニ非サル者即チ加入行爲（加入ヲ欲スル意思表示ニ對シテ黨ノ側カラ黨規則ニ定メラレタル機關ヲ通シテ承諾ヲ與ヘルコトニ依テ成立スル契約的行爲）ヲ了セサル者ヲ意味スル行爲ノ實質タル黨ノ目的タル事項ノ實行ニ關スル協議トハ目的意思ヲ同シクスル二人以上ノ特定人カ特定ノ題材ノ下ニ（實行ノ方法場合時期又ハ實行ノ爲ニ要スル資金ノ調達方法等具體的ニ實行ニ關スルコトヲ要ス）討論シ當事者間ニ意見ノ合致ヲ得タルコトヲ謂ヒ又目的タル事項ノ實行ノ煽動トハ不特定且多數人ニ對シテ目的實行ノ方法手段ヲ具體的且直接的ニ指摘シ其ノ結果相手方ノ意思ヲ刺激シ實行ノ決意ヲ生シタルコトヲ謂ヒ單ニ黨名義ノビラ撒キ又ハレボーターノ如キハ

之ニ該當セス又一定ノ事項ヲ單ニ公衆ニ告知傳達スル演說講義研究發表ノ如キ宣傳（又ハ流布）ハ含マナイモノテアル從テ共產黨ノ目的乃至ハ共產主義理論ヲ何等積極的ニ他人ニ強制スル意思ナクシテ不特定人ニ傳達解明スル行爲ハ之ニ該當シナイ而シテ協議及煽動カ既遂タルニハ現ニ其ノ目的實現ノ可能狀態ヲ具體的ニ現出シタルコトヲ客觀的ニ認メラルルコトヲ要シ單ニ抽象的ニ其ノ關係ヲ認メ得ル場合ヲ除外スルコトハ其ノ未遂ヲ罰スル規定アルニ依テモ明白テアル行爲ノ主觀的要件トシテ日本共產黨ノ存在ノ認識ハ單ニ存在ノ推定テハナクシテ確定的認識アルコトヲ要シ又共產黨ノ目的ヲ自己ノ行爲ノ目的トスル爲ニハ具體的ニ黨ノ目的ヲ知悉シタル上ナルコトヲ要シ更ニ黨其ノモノノ爲ニスル意欲ハ單ニ理論的ニ支持シ或ハ感情的ニ共鳴スルコトニ非スシテ積極的ニ之ヲ實踐化スル意思アルコトヲ要スル行爲ノ客觀的要件トシテハ行爲者カ黨ノ統制ノ下ニ置カレ其ノ機關ニ依リ傳達サレタ指令ニ依テ行爲ノ爲サレルコトヲ要シ此ノ連絡ナクシテ自然發生的ニ爲サレル場合ハ此ノ規定ニ該當セス又行爲ハ黨ノ目的ノ實現ニ對シテ何等ノ具體的因果關係ヲ有セサル行爲例ヘハ日本共產黨ノ存在スル事實ノ告知又ハ日本共產黨トコムミントノ關係ノ解説等ノ如キハ此ノ規定ニ依テ律セラレヘキモノテハナイ此ノ點ニ付第二條第三條ノ協議煽動以上ニ目的實現ニ對シテ具體的可能性ヲ具備スルコトヲ要スルコトハ其ノ擬セラレル刑ノ比較ヨリ觀ルモ明テアル被告人ノ所爲ヲ以上ノ諸點ニ照シテ觀ルニ一件記録ニ現ハレタルトコロハ左ノ如クテアル一、被告人ハ曾テ治安維持法違反被告事件

ニ付有罪ノ判決ヲ受ケタコトハアルハ當該確定判決ノ摘示スル通り其ノ當時ニ於テ未タ黨員ニ非ス又其ノ後ニ於テモ黨關係者ト何等ノ接觸ナキコトハ豫審調第三回第四問答ニ於ケル被告ノ其ノ旨ノ供述ニ依テ明テアルニ、被告人ハ日本共產黨ノ存在ヲ知了スト雖共產黨檢舉ニ關スル新聞ノ報導及警官ヨリ聞知シタル事實並黨ノ活動ニ關スル無產者新聞其ノ他諸新聞ノ報道ニ基クモノテ具體的ニ黨文書ノ配布又ハ黨關係者ノ告知ニヨルモノテハナイ（豫審調第三回第三問答）三、被告人カ日本共產黨ノ目的トシテ供述セル所ノ十三ヶ條ノ行動綱領及二箇ノ中心スローガンノ如キハ既ニ共產黨檢舉等ニ關スル新聞雜誌其ノ他ノ記事報道ニ依テ一般公著トナツテ居ル範圍ヲ出テス被告人ハ黨ノ目的ニ關シテ特別ニ深キ認識ヲ有スルモノト云フヲ得ス（豫審調第三回第二問答）而シテ被告人ハ黨ノ掲ケタスローガンニ就テ必スシモ無條件ニ其ノ正當性ヲ確信シテ之ヲ自己ノ行爲ノ目的トスルモノニ非サルモノナルコトハ記錄ノ各所ニ現ハレテ居ルカ特ニ豫審調第三回第七問答豫審第七回第一審第二審ニ於ケル最終ノ陳述並豫審判事ニ提出シタル感想錄中其ノ旨ノ供述ニヨリ明テアル四、被告人カ判示第一事實無產者新聞及第二無產者新聞ノ取次頒布及判示第二事實大師堂ニ於テ五名ノ農村青年ニ對シテ爲シタル座談カ毫モ日本共產黨其ノモノノ爲ニセントスル積極的意欲ニ出ツルモノニ非サルコトハ被告人カ豫審第一審及第二審ヲ通シテ極力主張シテ居ル所テアル即チ右新聞ノ取次頒布ハ藤田俊徳ヨリ依頼ヲ受ケ之ヲ引繼イタモノテ無產階級解放運動ニ對スル一資料トスル意思ヲ以テ解放運動ニ從事セル者

又ハ同情者ニ交付シタルモノテアツテ日本共產黨ノ目的遂行ノ爲ニセントスルカ如キ深キ思慮ト積極的意欲ノナカッタコト豫審ハ第一回第二問答第二回第一問答第三回第一問答第十七問答第二十一問答第二十七問答第二十八問答第五回第一問答第五問答第十四問答第十六問答及第一審第二審公判ニ於ケル其ノ旨ノ供述記錄（第九九一丁第九九五丁第九九六丁第一〇九二丁）各審ニ於ケル被告ノ最終陳述及感想錄ニ現ハレテ居ル又大師堂ニ於ケル座談會ニ臨ンタ動機ハ單純ニ招待ニ應ジテ雜誌スルト云フ以外ニ他意ナカッタコトハ豫審調第七回ニ於ケル供述第一審第二審ニ於ケル供述（特ニ記錄一〇〇七丁）各審ニ於ケル最終陳述及感想錄ニ明テアル五、被告人ニ日本共產黨ニ對シテ何等ノ組織的關連ナク又直接ニモ間接ニモ黨機關ヨリノ統制指揮ヲ受ケテ居タモノテナイコトハ一件記錄ニ明白テアツテ新聞ノ送付ヲ受ケテ居タ東京市麴町區三番町戰旗社ハ純然タル雜誌「戰旗」ノ發行所ニシテ合法的ニ存在シ日本共產黨ト何等ノ關係ナク又被告ハ自己ノ發意ニ依テ送付ヲ受ケタ新聞ヲ自己ノ知レル無產階級運動者間ニ頒布シタモノテアリ又大師堂ノ會合カ農村青年ノ招待ヲ受ケタルモノテ全ク日本共產黨ト無關連ナルコトハ疑ヲ挿ム餘地ナキノミナラス被告人自身ニ於テ右新聞カ日本共產黨ト如何ナル關係ニアルカヲスラ理解シテ居ナカッタコトモ明白テアル（豫審調第五回第十六問答）此ノ點ニ於テ被告人ノ所爲ハ共產黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲タルノ客觀的の要件ノ一ヲ欠缺スルモノテアル六、最後ニ被告人ノ判示所爲ハ黨ノ目的實現ニ對シテ客觀的ニ何等ノ具體的因果關係ヲ及ホササルモノテアル今日